

2026 年度
履修案内・
授業内容(シラバス)

2 年生



杏林大学医学部

目次

項目	ページ
学生諸君へ	3
履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって	3
杏林大学医学部の使命	4
教育理念	4
教育目標	6
杏林大学医学部学生の到達目標	6
6年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）	7
生涯教育	7
カリキュラムの概要	8
学年別科目等一覧	11
成績評価	12
授業時間、使用講義室	14
時間割表	15
人文・生命科学特論	21
行動科学Ⅱ	24
早期体験学習Ⅱ	27
英語・医学英語Ⅱ	31
実践英語Ⅱ（自由選択科目）	41
フランス語Ⅱ（自由選択科目）	45
肉眼解剖学Ⅱ	47
組織解剖学	55
細胞生物学	63
統合生理学	66
病態生理学	71
病理学 A	77
基礎感染症学	80
熱帯病・寄生虫学	85
保健・医療の現状と未来Ⅱ	89

学生諸君へ

医学部長 柴原 純二

良医への道に王道はありません。求められるのは、謙虚さを忘れず、日々の地道な学修を着実に積み重ねる姿勢です。皆さんの生涯にわたる医学修練は、入学の瞬間からすでに始まっています。本履修案内・シラバスおよび学生案内は、その歩みを確かな方向へ導く羅針盤です。学位授与の方針に示された目標——医師の社会的責任、医学的知識と技能、問題解決能力・リサーチマインド、コミュニケーション力、地域・社会との関わり——を常に意識し、自らの現在地を確認しながら研鑽を重ねてください。

膨大な医学知識の修得はもちろん不可欠です。しかし、変化の激しい現代医療においては、知識そのもの以上に、主体的に学び続ける力、論理的思考力・科学的判断力を涵養することが一層重要となります。さらに、高い倫理観と豊かな人間性を備えることが、医師としての信頼の基盤となります。幅広い教養を深める営みは、人間の尊厳を理解し、全人的医療を実践するための礎です。

学生案内には、修学支援体制や相談窓口、学生生活における留意事項が具体的に示されています。必要に応じて積極的に活用するとともに、医師を志す者として、また一人の社会人としての自覚を持ち、諸規則を遵守してください。

初心を忘れず、誠実に学び続ける皆さんの姿を心から期待しています。

履修案内・授業内容（シラバス）の配布にあたって

教務部長 市川 弥生子

医師には、広い医学知識や高度な医療技術はもとより、豊かな人間性、高い倫理性が求められます。このことは、令和4年度に改訂された『医学教育モデル・コア・カリキュラム』の「医師として求められる基本的な資質・能力」にも明確に示されています。学生諸君はこの社会の要請に応えるべく、真摯な姿勢で医学の勉学に励むとともに、社会の規律を率先して守り、また、人間性を高める努力を怠ってはいけません。

医学部6年間の教科内容は医学ならびに医学周辺の自然科学領域ばかりではなく、人文科学や社会科学に至るまで、多岐にわたっています。学習量は膨大ですが、科目毎に、そして学年毎に着実に修得していけば、最終的に目標が達成されるよう、カリキュラムは構成されています。

この「履修案内・授業内容（シラバス）」は、杏林大学医学部の教育理念・教育目標と学生の到達目標を示すとともに、6年間のカリキュラムの概要から各学年各科目の詳細な学習内容まで、整理して提示しています。ここには年間の時間割の他、教科毎の教育方針、到達目標、授業や実習の内容や日程、成績の判定評価法、教科書・参考書などが記載されています。

「履修案内・授業内容（シラバス）」の基本的な利用例は以下の通りですが、学習のよき道しるべとして、各自の工夫で使いこなしてください。

- 1) 教育理念・教育目標、6年間の到達目標を定期的に確認し、学習の姿勢や方向性を見直す。
- 2) 各教科の「教育の基本方針」、「到達目標」をよく読み、その授業を通して到達すべき目標を明確にする。
- 3) 各授業や実習の前には「講義テーマ」および「講義内容」に目を通し、履修すべき内容をあらかじめ把握しておく。
- 4) 各授業の「教科書」の該当ページを参照して予習を行うとともに、参考書等も活用して周辺領域も含めて復習する。

膨大な内容を含む学習を効率的に進めるためには、日々の予習、受講、復習の積み重ねが不可欠であることを十分認識してください。また、医師には生涯にわたる学習が求められるため、学生期間を通じて能動的学習を心掛け、「学ぶ力」を養ってください。

「履修案内・授業内容（シラバス）」を座右に置き、日々、これを活用し、学生諸君全員が無事、所期の目的を達成されることを願ってやみません。

杏林大学医学部の使命

豊かな人間性と倫理観、コミュニケーション力を基本とし、生涯にわたり医学の発展・変革に対応しうる知識・技術的基盤と、柔軟な科学的洞察力・問題解決能力を兼ね備えた良き医師・医学者を育成し、もって人類・国際社会の健康・福祉に貢献する。

教育理念

医学部の理念・目的は、「豊かな人間性の涵養と、医学の発展に対応しうる基礎的及び専門的知識の修得と臨床的技能の修練を通じて、良き医師を養成する」ことにある。

この理念の意味するところは、真理への謙虚な探究心の育成、善なる社会人の養成、そして美しい専門的技量の研磨ということである。

【学位授与の方針(ディプロマポリシー)】

医学部医学科ではその理念に基づき、卒業時点までに獲得すべき能力を以下のように定める。必要な単位取得等の卒業要件を満たし、これらの能力をすべて修得したと認められる学生に学士(医学)を授与する。

(1) 医師の社会的責任

人間の尊厳と医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性およびプロフェッショナリズムに基づき、全人的医療の担い手として誠実で責任のある行動がとれる。

(2) 医学知識と技能

基本的な医学的知識及び技能を修得するとともに、医学・医療の進歩に目を向け、生涯にわたり主体性を持って自己の知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を有する。

(3) 問題解決能力・リサーチマインド

医学・医療上の課題の特定と問題の解決に必要な能力と資源の活用法を身につけ、論理的思考と科学的分析に基づいた判断を行うことができる。

(4) コミュニケーション力

多様化・国際化の進む社会において、患者・家族・医療者との良好な信頼関係の構築、さらには国内外の医学・医療関係者との交流に必要となる、外国語を含めたコミュニケーション力を有する。

(5) 医学・医療と地域・社会との関わり

公衆衛生の基本的な知識及び手法を修得し、健康・福祉の増進に関して、最新の国内外の情勢に基づいて地域・国・国際社会の要請に応えることができる。

【教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)】

医学部医学科では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる能力などの修得のために、医学準備教育、行動科学、基礎医学、臨床医学、社会医学、外国語の6つの領域からなる授業科目を体系的、順次的に編成し、多様な教育方法を適切に組み合わせた授業を実施する。

(1) 教育内容

(1-1) 医師の社会的責任の理解

・高い倫理観と豊かな人間性に基づく、人間の尊厳と医師の職責の重大性の理解、および医師として誠実で責任ある行動を促すために、生命倫理や医のプロフェッショナリズムなどを教育する講義および実習を配置する。

(1-2) 医学知識と技能の修得

・医学専門教育への円滑な導入を図るために、医学準備教育科目を初年次に配置するとともに、早期から幅広く臨床・研究の現場に触れる機会を設ける。
・現代医学の知識と技能の修得のために、基礎医学、臨床医学の講義及び実習を体系的、順次的に配置するとともに、科目間の有機的連携をはかる。
・生涯にわたって主体性をもって自己の医学知識・技能を改善・発展させる意欲と素養を涵養するために、生涯学習への動機づけとなる内容を取り入れる。

(1-3) 問題解決能力・リサーチマインドの涵養

- ・医学・医療上の課題を特定し解決する能力やリサーチマインドを涵養するために、アクティブラーニングや Problem-Based Learning を行うとともに、基本的な研究手法や情報通信技術を利用した知的資源の活用法に関する内容を講義および実習に取り入れる。

(1-4) コミュニケーション力の習得

- ・多様な患者・家族、医学・医療関係者、福祉関係者と信頼関係を構築し、円滑に意思疎通を図るうえで必要となるコミュニケーション力の修得のために、行動科学の講義および実習を配置する。
- ・日本語以外を母語とする人々との良好な人間関係の構築や国際社会での活躍に必要な外国語運用能力の修得のために、外国語科目を体系的、順次的に配置する。

(1-5) 医学・医療と地域・社会との関わりの理解

- ・地域・国・国際社会の情勢と要請に応じて、健康の増進に必要な公衆衛生の基本的な知識・手法の修得のために、社会医学科目を体系的、順次的に配置する。

(2) 教育方法

- ・教育内容に応じて、講義、演習、実習、地域の医療・福祉現場における体験学習、少人数グループワークによるアクティブラーニングなどの多様な教育方法を適切に組み合わせて実施する。臨床医学科目においては、見学型の臨床実習に加えて、診療参加型の実習を重点的に配置する。

教育目標

教育理念・目的実現のため、医学部は「医師の職責の重大性を理解し、高い倫理観と豊かな人間性に基づき、医師として責任ある行動ができること、医師としての基本的な医学的知識及び技能を修得していること、的確かつ冷静な問題抽出・解決能力を備えていること、患者・家族との信頼関係の構築とともに、医療チームの一員としての役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につけていること、公衆衛生や医療制度など社会と医師との関わりを理解していること」を教育目標と定める。医学部学生は卒業までにこの目標に到達することが求められる。

杏林大学医学部学生の到達目標

卒業認定・学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。

(1) 医師の社会的責任

- ①医師・医学研究者としてふさわしい人間性とプロフェッショナリズムを身につける。
- ②医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
- ③全人的かつ安全な医療を行う姿勢を身につける。
- ④個人情報保護を含め、医師として誠実で責任のある行動がとれる。

(2) 医学知識と技能

- ①人体の正常の構造と機能を理解する。
- ②主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
- ③診断に必要な診察手技と検査を理解する。
- ④薬物治療を含む主要疾患の治療法を理解する。
- ⑤適切な病歴聴取と身体診察が行える。
- ⑥基本的な心肺蘇生術が行える。
- ⑦病歴・診察所見と検査結果から問題点を抽出できる。
- ⑧患者のおかれた状況に対し、根拠に基づく適切な対応法を示すことができる。
- ⑨適切な症例提示と医療記録の作成ができる。
- ⑩医学・医療の進歩に基づき、自身の医学知識・技能を主体的に改善・発展できる。

(3) 問題解決能力とリサーチマインド

- ①適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
- ②論理的思考と科学的分析により課題を特定し問題解決を図る能力を身につける。
- ③基本的な医学研究のプロセスを理解する。
- ④自律的で、生涯学び続ける態度と能力を身につける。

(4) コミュニケーション力

- ①患者、家族、医学・医療関係者、福祉関係者と良好な信頼関係を築くための基本的なコミュニケーション力を身につける。
- ②患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。
- ③診療・研究に必要な外国語運用能力を身につける。

(5) 医学・医療と地域・社会との関わり

- ①健康に関わる環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
- ②わが国の医療・保健制度および医療資源について理解する。
- ③個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を理解する。
- ④健康・福祉の増進について地球規模の視野に立って理解する。

6年間のカリキュラムの概要（カリキュラム・マップ）

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
	早期体験学習	早期体験学習	早期体験学習 臨床医学	診療準備学習 臨床医学	臨床実習 BSL	臨床実習 臨床総合演習
	社会医学		社会医学	社会医学		社会医学
	基礎医学	基礎医学	基礎医学			
	チュートリアル			チュートリアル		
	行動科学	行動科学				
	医学準備教育	医学準備教育				
	語学	語学	語学	語学	語学	語学
				CBT・臨床実習前OSCE		臨床実習後OSCE
						総合試験 (卒業試験)
関連する到達目標 (I-10~13参照)	(1)-①②④ (2)-① (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①	(1)-①②③④ (2)-①②③⑤ (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①②③④	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①②③④	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③④

生涯教育

杏林大学医学部カリキュラム

杏林大学医学部学生の到達目標※

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
(1)-①②④ (2)-① (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①	(1)-①②③④ (2)-①②③⑤ (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①②③④	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ (3)-①②③④ (4)-①③ (5)-①②③④	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③	(1)-①②③④ (2)-①②③④⑤ ⑥⑦⑧⑨⑩ (3)-①②③④ (4)-①②③ (5)-①②③④

※杏林大学医学部学生の到達目標

- (1) 医師の社会的責任
- (2) 医学知識と技能
- (3) 問題解決能力とリサーチマインド
- (4) コミュニケーション力
- (5) 医学・医療と地域・社会との関わり

上記 (1)～(5) の詳細は I-11～13 を参照

生涯学習へ

医師臨床研修
(研修医)
2年間

基本領域
専門研修
(専攻医)
3～5年間

サブスペシャルティ
領域専門研修

大学院
基礎医学研究

臨床研修の到達目標

A. 医師としての基本的価値観 (プロフェSSIONナリズム)

- 社会的使命と公衆衛生への寄与
- 利他的な態度
- 人間性の尊重
- 自らを高める姿勢

B. 資質・能力

- 医学・医療における倫理性
- 医学知識と問題対応能力
- 診療技能と患者ケア
- コミュニケーション能力
- チーム医療の実践
- 医療の質と安全管理
- 社会における医療の実践
- 科学的探究
- 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

C. 基本的診療業務

- 一般外来診療
- 病棟診療
- 初期救急対応
- 地域医療

基本領域 (19領域)

- 内科
- 小児科
- 皮膚科
- 精神科
- 外科
- 整形外科
- 産婦人科
- 眼科
- 耳鼻咽喉科
- 泌尿器科
- 脳神経外科
- 放射線科
- 麻酔科
- 病理
- 臨床検査
- 救急科
- 形成外科
- リハビリテーション科
- 総合診療

サブスペシャルティ領域 (29領域)

- 消化器内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 血液
- 内分泌代謝・糖尿病内科
- 脳神経内科
- 腎臓
- 膠原病・リウマチ内科
- 消化器外科
- 呼吸器外科
- 心臓血管外科
- 小児外科
- 乳腺外科
- 放射線診断
- 放射線治療
- アレルギー
- 感染症
- 老年科
- 腫瘍内科
- 内分泌外科
- 肝臓内科
- 消化器内視鏡
- 内分泌代謝内科
- 糖尿病内科
- 放射線力テーテル治療
- 集中治療科
- 脊髄脊髄外科
- 新生児
- 小児循環器

医師のキャリア

勤務医、大学教員、開業医、産業医、研究医 etc.

医師は、日進月歩の医学、医療を実践するために、生涯にわたって自らの知識を広げ、技能を磨き、常に研鑽する責務を負っています。(日本医師会生涯教育HPより抜粋)

カリキュラムの概要

杏林大学医学部のカリキュラムは、カリキュラムポリシーにのっとり、豊かな人間性の涵養および医師に求められる専門的知識と技能の修得、さらには医学の発展に対応しうる総合的判断能力の育成を目的として、諸科目を有機的に配置している。汎用的能力を育むため、各科目において学修者の能動的参加を取り入れた授業・実習法（アクティブ・ラーニング）を積極的に採用している。

以下に、学年毎の概要および学習指針を示す。

第1学年（M1）

高校時代に学習した物理、生物、化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理学、生物学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。

同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに「行動科学Ⅰ」、「生命倫理と医療安全」などの講義や、体験学習入門、病院体験学習、患者体験学習の3つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅰ」を通して、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習し、医学生として相応しい価値観や態度を身につける。

体験学習入門では、能動的にチームで協働して多角的に学ぶ難しさと大切さを理解する。病院体験学習（early clinical exposure）は、配属される診療科で医療の実際を体感することを通して、医師の役割を理解し、医学生としての自覚を新たにする。患者体験学習では、OSCE（客観的臨床能力試験）での患者体験により、患者の立場や感情について体験的に学ぶと同時に、将来求められる医学生としての能力を理解する。

チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつつ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。

基礎医学については、分子生物学、代謝生化学、肉眼解剖学の講義が始まる。人体の構造の理解を目指す解剖学や生命現象の根源にせまる分子生物学・代謝生化学を学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。

英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には、将来の活躍する世界を広げるために不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

全学部共通の教養科目の「保健・医療の現状と未来Ⅰ」は医学部では必修であるが、これ以外に他学部が実施する社会科学科目「社会と大学Ⅰ～Ⅲ」が自由選択科目として設置され、履修可能となっている。

良き医師になるためには、これらの人文系の学問について学び、人間としての幅を広げることもきわめて重要である。総合大学の医学部に学ぶメリットを生かし、ぜひこれら他学部の教養科目についても積極的に履修してほしい。

第2学年（M2）

将来医師となるための土台となる基礎医学を学ぶ上で重要な学年である。解剖学（肉眼解剖学及び組織解剖学）、統合生理学、病態生理学、細胞生物学、基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学Aなどの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は人体の構造と機能や異常の発生を理解する上できわめて重要なものであり、一部には臨床的内容も含まれる。多くの学生から、「臨床医学に進んで、はじめて基礎科目の重要性を認識した」との声を聞くが、学年が進んでからこれらの科目を一から学びなおすことにはかなりの困難を伴う。生涯学習の土台となる重要な学年であることを自覚し、基礎医学科目の徹底した修得を目指してほしい。

「行動科学Ⅱ」、「早期体験学習Ⅱ」、「人文・生命科学特論」などの講義や体験学習を通して、ヒトの多様なあり方を理解し、医師に求められる人間性や倫理性を身につける。「行動科学Ⅱ」では、医療安全、カウンセリング、生命・医療倫理、コミュニケーション、多様性などについて学習する。身体診察入門、地域体験学習、病院体験学習の3つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅱ」では、身体診察に必要な基本的な技能の習得、地域の福祉施設や病院での体験学習を通して、医学生としての自覚を高める。

また、「保健・医療の現状と未来Ⅱ」では、臨床医学の最先端の話題に触れ、臨床医学への関心を高めるとともに、基礎医学の学習との関連を学ぶ。

なお第1学年に引き続き、英語に関しては、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。

第3学年（M3）

薬理学、病理学、免疫学、遺伝医学などの基礎医学科目が配置されている。これら科目の学習には臨床的内容も多く含まれる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。また、臨床系科目の学習が開始され、臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学の各科目の講義が行われる。循環器病学は循環器内科学と心臓血管外科学を中心とし、関連する教室からの講義を組み合わせた統合型となっている。他の科目も必要に応じて教室の壁を越えて適切なテーマと講義担当者を配置している。

科目数の多い学年であるが、やみくもに知識を詰め込むのではなく、それまでに学んだ基礎生命科学や基礎医学の知識を臨床医学の知識と関連づけ、「なぜそうなるのか」ということを良く理解することが、臨床の現場で応用可能なしっかりした知識体系を修得する上で重要である。

身体診察入門、地域・病院体験学習の2つのプログラムで構成される「早期体験学習Ⅲ」では、M4から開始される臨床実習につながる技能、態度を身につける。

その他、第1・2学年に引き続き、英語の演習型の講義を行う。

第4学年（M4）

第3学年から始まった臨床医学の講義が引き続き行われる。

高齢医学、リウマチ膠原病学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、感染症学、生活習慣病学などが含まれる。臨床医学に関する系統的な知識の修得は、臨床実習に際して不可欠であり、実地臨床への第1歩という認識のもとに学習して欲しい。

また、臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテートして行われる。

その他、和漢医学概論、法医学、臨床医学的な内容を課題としたチュートリアル教育、必修科目としての医学英語が行われる。

後期には臨床実習（Bed Side Learning, BSL）が開始されることになる。臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、公的化された共用試験（コンピュータ試験 CBT と基本的臨床技能試験 OSCE）による評価を受ける。共用試験に合格することは臨床実習履修の要件である。BSL は、これまでに修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ1年間にわたって小グループで各科を順次ローテートして行われる。医学生が、実際の患者に対応する最初の経験であり、臨床医としての姿勢の基本がこの時点で形成されるといっても過言ではない。生涯の理想の医師像を目指す第一歩に相応しい態度で臨んでいただきたい。

BSL においては、医師を志す者として、身だしなみや言葉遣いはもとより、時間厳守、守秘義務などにも十分注意するとともに、病院内は公共の場であることを認識し、私物の持ち込みは最低限にするべきである。また、ひとたび院内感染が発生すると患者のみならず病院機能に甚大な影響を与えることから、感染防御の徹底は臨床実習において不可欠な姿勢であり、必要に応じシミュレーション教育を行うことでその習得を目指す。

その他、高度な英語力を身につけたいと希望する学生や、第6学年で海外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語Ⅴ」を選択科目として設定している。

第5学年（M5）

M4 後期に引き続き、臨床実習が主体となる。当学年では、ローテート型のBSLの後に、診療参加型実習をさらに発展させたクリニカルクラークシップが学内・学外医療機関で実施される。クリニカルクラークシップにおいては、自らが担当する患者の担当医になったつもりで病歴を聴取し、課題を解決するための検討を積極的に行う。これまでに修得した医学知識を応用する場であるが、積極的に臨床実習の課題や疑問を解決していかないと、学生間で知識量などに大きく差が開くのもこの時期である。系統だった知識が足りないと感じたら、M4までに学習した科目を復習し、各科目をローテートしているときに各科の先生に自ら質問し、知識を確実なものにするように心がけて、医師として生涯学習を行うための良い習慣を身につけていただきたい。

なお、M4と同様であるが、臨床実習においては身だしなみ、言葉遣い、携帯品、時間厳守、守秘義務にも十分注意する。また、感染防御策の習得も肝要であり、そのために必要なシミュレーション教育を行う。

第6学年（M6）

最終学年は、卒業に向けて全科目の総仕上げと、卒後臨床研修への円滑な導入のための準備に当てられる。医学部で学習する知識量は莫大であり、直前数ヶ月の学習で、卒業試験や医師国家試験に合格することは困難である。一日一日の積み重ねで知識を整理するように心がけてほしい。

先ず6学年の医学知識の総まとめとなる臨床総合演習と公衆衛生学の講義が行われる。総合試験Ⅰ期の後、クリニカルクラークシップがM5に引き続き行われる。学内もしくは学外（海外を含む）の医療機関で計12週間の実習に臨む。クリニカルクラークシップ終了後、臨床総合演習と公衆衛生学の講義が引き続き行われる。総合試験Ⅰ期の成績下位者を対象に補講が行われる。

良き医師への最終段階として、6年間に学んだ医学知識・技能・態度の最終確認に日夜専心して欲しい。

学習すべき項目の全てが講義や実習で網羅されるわけではなく、大学での学習では自学自習が基本となる。それぞれの科目で教科書が指定されており、講義予定表には各講義に関連する教科書のページも記載されている。また、教科書以外にも参考書やWEB上の教育リソース等が網羅的に示されている。これらを活用して予習・復習に取り組んでいただきたい。

※各科目に関する質問事項は、各教室（科）教育委員に問い合わせること。

※下記URLのリンク先より、「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医師国家試験出題基準」が閲覧できるため、各自参照すること。

医学教育モデル・コア・カリキュラム

https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/iryuu/mext_00005.html

医師国家試験出題基準

https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000128981_00001.html

学年別科目等一覧

学年	分科	授業科目等
1年	科学と医療	情報科学、行動科学Ⅰ、生命倫理と医療安全、早期体験学習Ⅰ、生物学（入門生物学、生物学）、生体化学（入門化学、生体化学）、医学物理学（入門物理学、医学物理学）、プレチュートリアル、医学統計学
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅰ
	人体の機能	分子生物学、代謝生化学
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅰ
	外国語	英語・医学英語Ⅰ、実践英語Ⅰ *第二外国語Ⅰ（ドイツ語Ⅰ、フランス語Ⅰ、中国語Ⅰ）
社会科学	*社会と大学Ⅰ、社会と大学Ⅱ、社会と大学Ⅲ	
2年	科学と医療	行動科学Ⅱ、早期体験学習Ⅱ、人文・生命科学特論
	人体の構造	肉眼解剖学Ⅱ、組織解剖学
	人体の機能	統合生理学、病態生理学、細胞生物学
	異常の発生と制御	基礎感染症学、熱帯病・寄生虫学、病理学A
	臨床医学	保健・医療の現状と未来Ⅱ
外国語	英語・医学英語Ⅱ *実践英語Ⅱ、第二外国語Ⅱ（ドイツ語Ⅱ、フランス語Ⅱ、中国語Ⅱ）	
3年	科学と医療	早期体験学習Ⅲ
	異常の発生と制御	免疫学、遺伝医学、薬理学、病理学B、衛生学
	臨床医学	臨床医学総論、臨床検査医学・輸血学、消化器内科学、消化器外科学、循環器病学、呼吸器内科学、内分泌・代謝内科学、呼吸器・甲状腺・乳腺外科学、神経内科学・脳卒中医学、血液内科学、腎臓内科学、産科婦人科学、小児科学、精神神経科学、泌尿器科学、皮膚科・形成外科学
	外国語	英語・医学英語Ⅲ
4年	科学と医療	和漢医学概論
	異常の発生と制御	法医学
	臨床医学	リウマチ膠原病学、高齢医学、小児外科学、救急医学、脳神経外科学・脳卒中医学、整形外科・リハビリテーション医学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学・放射線腫瘍学、麻酔科学、腫瘍学、臨床感染症学、生活習慣病学、臨床診断学
	グループ実習	B S L
	応用実習	チュートリアル
外国語	英語・医学英語Ⅳ	
5年	グループ実習	B S L
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）A
	外国語	*英語・医学英語Ⅴ
6年	科学と医療	公衆衛生学
	臨床医学	臨床総合演習
	応用実習	クリニカルクラークシップ（臨床応用実習）B

*印：自由選択科目。

成績評価

第1学年（M1）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。実習の判定基準は科目ごとにシラバスに明示されている。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が60点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第2学年（M2）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）および／または学年末定期試験（学年末）を行う。再試験については、学年末のみに行う科目、前期及び学年末に行う科目がある。前期のみで履修が完了する科目の再試験は学年末に行う。実習の判定基準は科目ごとにシラバスに明示されている。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が60点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第3学年（M3）

- 1) 各履修科目について、前期定期試験（夏休み前）または学年末定期試験（学年末）を行う。前期及び学年末定期試験の再試験は、学年末に一括して行う。実習の判定基準は科目ごとにシラバスに明示されている。
- 2) 各履修科目の最終成績は、定期試験・再試験の成績のほかに、小テスト等の成績、実習の評価、履修態度等を総合的に評価して決定する。試験を実施しない科目については、各科目のシラバスに記載された方法で最終成績を決定する。
- 3) 各科目の最終成績が60点以上であることが進級の必須条件である。
- 4) 進級判定については、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第4学年（M4）

- 1) 各履修科目について、夏休み後に定期試験および再試験を行う。
- 2) 夏休み後に共用試験（コンピュータ試験 CBT と実技試験 OSCE）およびその再試験を行う。CBT は全国共通の基準で合否判定が行われる。OSCE は臨床技能・態度についての評価に基づき、合否判定が行われる。
- 3) BSL を履修するための成績判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う（不合格の場合の M4 後半の履修については別途定める）。
- 4) 各科の BSL については、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎に S、A、B、C、D（D は不合格）の 5 段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中の V. 評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。
- 5) 進級の判定は、共用試験の成績、定期試験の成績（各科目の成績に加え、全科目の平均点、および追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、各科の BSL の評価、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第5学年（M5）

- 1) 各科のBSLについては、指導医による観察記録、レポート、試問などにより、各科毎にS、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で評価する。詳細はシラバスの「臨床実習（BSL）について」の中のV. 評価の項を参照のこと。なお、評価方法や点数配分は各科により異なるので、各科の項も併せ参照のこと。
- 2) 総合試験を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の2回に分けて行い、第Ⅰ期には再試験の機会を設ける。総合試験の成績の判定には第Ⅰ期の成績を20%、第Ⅱ期の成績を80%として合算した値を用いる。形式、内容、合否判定の詳細については〈M5 総合試験に関する内規〉を参照のこと。
- 3) クリニカルクラークシップの履修内容は、BSLの全体成績、履修態度等を含めて総合的に判断する（クリニカルクラークシップへの参加が適切でないと判断した場合、M5後半の履修については別途定める）。
- 4) クリニカルクラークシップは、S、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で総合評価する。
- 5) 進級の判定は、総合試験の成績（追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も含む）、各科のBSLの評価、履修態度（出席率など）等も含めて総合的に行う。

第6学年（M6）

- 1) 総合試験（卒業試験）を第Ⅰ期（前期）と第Ⅱ期（後期）の2回に分けて行う。成績の判定には第Ⅰ期の成績を20%、第Ⅱ期の成績を80%として合算した値を用いる。総合試験の形式、内容、合否判定については〈M6 総合試験に関する内規〉を参照のこと。
- 2) 公衆衛生学は、講義の終了後に定期試験および再試験を行う。60点以上を合格とする。
- 3) 共用試験であるOSCEを夏休み後に行う。再試験は総合試験第Ⅰ期終了後に行う。臨床技能・態度についての評価に基づき、合格もしくは不合格の判定を行う。
- 4) クリニカルクラークシップは、S、A、B、C、D（Dは不合格）の5段階で評価する。
- 5) 卒業には、総合試験、公衆衛生学、OSCE、クリニカルクラークシップのいずれにも合格する必要がある。追再試験を受けた場合は本試験や追再試験の成績も考慮する。さらに、講義の出席率や履修態度なども含めて総合的に評価する。

<共通>

- 1) 再試験で合格となった科目がある場合、本試験における各科目の成績の状況は、進級判定における重要な要素となるので、本試験において最良の結果を出せるよう試験前には常に計画的に学習を行うこと。
- 2) 小テスト等については、試験後に可能な限りフィードバック（形成的評価）を行うので、以後の学習に役立てること。
- 3) 詳細はシラバスの各科目別の項に記載してあるので、確認しておくこと。

授業時間

時限	授業時間
1 時限目	9:30 ~ 10:45
2 時限目	11:00 ~ 12:15
3 時限目	13:15 ~ 14:30
4 時限目	14:45 ~ 16:00
5 時限目	16:15 ~ 17:30

使用講義室

学年	使用講義室
M1	医学部講義棟 A 4 階 401
M2	医学部講義棟 A 4 階 402
M3	医学部講義棟 A 5 階 501
M4	医学部講義棟 A 5 階 502
M5	臨床実習中のため、主な使用講義室はなし
M6	医学部講義棟 A 6 階 601

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
4月1日	水	前期授業開始・オリエンテーション	オリエンテーション	病態生理学	熱帯病・寄生虫学		熱帯病・寄生虫学
4月2日	木		細胞生物学	病態生理学		統合生理学	
4月3日	金		肉眼解剖学Ⅱ	英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
4月4日	土						
4月5日	日						
4月6日	月		細胞生物学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	—	—
4月7日	火		肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月8日	水			病態生理学	統合生理学	行動科学Ⅱ	
4月9日	木		統合生理学	統合生理学	熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ
4月10日	金	健康診断(内科・X線等)	細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	健康診断	健康診断	健康診断
4月11日	土						
4月12日	日						
4月13日	月		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月14日	火		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月15日	水	健康診断(尿検査)		病態生理学		行動科学Ⅱ	熱帯病・寄生虫学
4月16日	木		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月17日	金			英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
4月18日	土						
4月19日	日						
4月20日	月	SCSキックオフミーティング	細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
4月21日	火	SCSキックオフミーティング	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月22日	水	SCSキックオフミーティング		病態生理学	統合生理学	保健・医療の現状と未来Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ
4月23日	木	SCSキックオフミーティング		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月24日	金	SCSキックオフミーティング		英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
4月25日	土						
4月26日	日						
4月27日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
4月28日	火		統合生理学	統合生理学	病態生理学		病態生理学
4月29日	水	昭和の日					
4月30日	木		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月1日	金		熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学	統合生理学	病態生理学	病態生理学
5月2日	土						
5月3日	日	憲法記念日					
5月4日	月	みどりの日					
5月5日	火	こどもの日					
5月6日	水	振替休日					
5月7日	木			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ
5月8日	金		保健・医療の現状と未来Ⅱ	英語・医学英語Ⅱ	熱帯病・寄生虫学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
5月9日	土						
5月10日	日						
5月11日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月12日	火			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月13日	水		熱帯病・寄生虫学	病態生理学	早期体験学習Ⅱ		
5月14日	木		病態生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月15日	金		熱帯病・寄生虫学	英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
5月16日	土						
5月17日	日						
5月18日	月		行動科学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月19日	火		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月20日	水			病態生理学	熱帯病・寄生虫学		保健・医療の現状と未来Ⅱ
5月21日	木			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月22日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
5月23日	土						
5月24日	日						
5月25日	月			肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月26日	火		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
5月27日	水		熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学			保健・医療の現状と未来Ⅱ
5月28日	木		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ
5月29日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
5月30日	土						
5月31日	日						

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
6月1日	月		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月2日	火		熱帯病・寄生虫学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月3日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	保健・医療の現状と未来Ⅱ		保健・医療の現状と未来Ⅱ
6月4日	木			肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月5日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
6月6日	土						
6月7日	日						
6月8日	月		病態生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月9日	火		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月10日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学			
6月11日	木		統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月12日	金		細胞生物学	英語・医学英語Ⅱ	保健・医療の現状と未来Ⅱ	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
6月13日	土						
6月14日	日						
6月15日	月		肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ		肉眼解剖学Ⅱ実習
6月16日	火		統合生理学	統合生理学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月17日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月18日	木		細胞生物学	肉眼解剖学Ⅱ実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月19日	金		人文・生命科学特論	英語・医学英語Ⅱ	人文・生命科学特論	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
6月20日	土						
6月21日	日						
6月22日	月		細胞生物学	細胞生物学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月23日	火			病態生理学	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習	熱帯病・寄生虫学実習
6月24日	水		行動科学Ⅱ	病態生理学	病態生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月25日	木		細胞生物学	病態生理学	人文・生命科学特論	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月26日	金			英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
6月27日	土						
6月28日	日						
6月29日	月				統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
6月30日	火		統合生理学	統合生理学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論	
7月1日	水			病態生理学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ実習	肉眼解剖学Ⅱ実習
7月2日	木			病態生理学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論
7月3日	金			英語・医学英語Ⅱ	細胞生物学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
7月4日	土						
7月5日	日						
7月6日	月			病態生理学	統合生理学	肉眼解剖学Ⅱ	肉眼解剖学Ⅱ
7月7日	火		細胞生物学	病態生理学	熱帯病・寄生虫学	熱帯病・寄生虫学	
7月8日	水			病態生理学	人文・生命科学特論	人文・生命科学特論	病態生理学
7月9日	木					人文・生命科学特論	人文・生命科学特論
7月10日	金	前期授業終了		英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
7月11日	土						
7月12日	日						
7月13日	月	自習期間					
7月14日	火	自習期間					
7月15日	水	自習期間					
7月16日	木	前期定期試験期間					
7月17日	金	前期定期試験期間					
7月18日	土						
7月19日	日						
7月20日	月	海の日					
7月21日	火	前期定期試験期間					
7月22日	水	前期定期試験期間					
7月23日	木	前期定期試験期間					
7月24日	金	前期定期試験期間					
7月25日	土						
7月26日	日						
7月27日	月	夏季休業期間					
7月28日	火	夏季休業期間					
7月29日	水	夏季休業期間					
7月30日	木	夏季休業期間					
7月31日	金	夏季休業期間					

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
8月1日	土						
8月2日	日						
8月3日	月	夏季休業期間					
8月4日	火	夏季休業期間					
8月5日	水	夏季休業期間					
8月6日	木	夏季休業期間					
8月7日	金	夏季休業期間					
8月8日	土						
8月9日	日						
8月10日	月	夏季休業期間					
8月11日	火	山の日					
8月12日	水	夏季休業期間					
8月13日	木	夏季休業期間					
8月14日	金	夏季休業期間					
8月15日	土						
8月16日	日						
8月17日	月	夏季休業期間					
8月18日	火	夏季休業期間					
8月19日	水	夏季休業期間					
8月20日	木	夏季休業期間					
8月21日	金	夏季休業期間					
8月22日	土						
8月23日	日						
8月24日	月	後期授業開始・研究室配属	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)
8月25日	火	研究室配属	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)
8月26日	水	研究室配属	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)
8月27日	木	研究室配属	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)
8月28日	金	研究室配属	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)	早期体験学習Ⅱ(研究室配属)
8月29日	土						
8月30日	日						
8月31日	月			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月1日	火			行動科学Ⅱ	行動科学Ⅱ	行動科学Ⅱ	行動科学Ⅱ
9月2日	水		基礎感染症学	統合生理学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月3日	木		保健・医療の現状と未来Ⅱ	早期体験学習Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月4日	金		基礎感染症学	英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
9月5日	土						
9月6日	日						
9月7日	月		行動科学Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月8日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月9日	水		基礎感染症学	早期体験学習Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月10日	木		病理学A	保健・医療の現状と未来Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月11日	金		基礎感染症学	英語・医学英語Ⅱ	—	—	—
9月12日	土						
9月13日	日						
9月14日	月		組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月15日	火		組織解剖学	統合生理学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月16日	水		組織解剖学		組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月17日	木		基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月18日	金		病理学A	英語・医学英語Ⅱ		自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
9月19日	土						
9月20日	日						
9月21日	月	敬老の日					
9月22日	火	国民の休日					
9月23日	水	秋分の日					
9月24日	木		基礎感染症学	統合生理学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月25日	金		病理学A	英語・医学英語Ⅱ	基礎感染症学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
9月26日	土						
9月27日	日						
9月28日	月		早期体験学習Ⅱ		早期体験学習Ⅱ	組織解剖学	組織解剖学実習
9月29日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
9月30日	水		病理学A	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
10月1日	木		病理学 A	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習	組織解剖学実習
10月2日	金		病理学 A	英語・医学英語 II	基礎感染症学	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
10月3日	土						
10月4日	日						
10月5日	月			早期体験学習 II		組織解剖学	組織解剖学実習
10月6日	火			組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学	組織解剖学実習
10月7日	水		病理学 A 実習	病態生理学	早期体験学習 II	組織解剖学	組織解剖学実習
10月8日	木		統合生理学	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	
10月9日	金		病理学 A	英語・医学英語 II	基礎感染症学	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
10月10日	土						
10月11日	日						
10月12日	月	スポーツの日					
10月13日	火		病理学 A	病態生理学	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学
10月14日	水		基礎感染症学	統合生理学	病理学 A	病理学 A 実習	病態生理学
10月15日	木		基礎感染症学	基礎感染症学	統合生理学	病理学 A	病態生理学
10月16日	金	慰霊祭		慰霊祭	慰霊祭	慰霊祭	慰霊祭
10月17日	土						
10月18日	日						
10月19日	月		病理学 A	基礎感染症学	組織解剖学	組織解剖学	病態生理学
10月20日	火		病理学 A	病態生理学	病理学 A	病理学 A 実習	組織解剖学
10月21日	水		基礎感染症学	統合生理学	病理学 A	病理学 A	病態生理学
10月22日	木		病理学 A	病態生理学	統合生理学	病理学 A	
10月23日	金	杏林祭準備		英語・医学英語 II	自由選択科目(第2外国語 II・実践英語 II)	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
10月24日	土	杏林祭					
10月25日	日	杏林祭					
10月26日	月		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
10月27日	火		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
10月28日	水		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
10月29日	木		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
10月30日	金		基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習	基礎感染症学実習
10月31日	土						
11月1日	日						
11月2日	月		早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II
11月3日	火	文化の日					
11月4日	水		病理学 A	病態生理学	病理学 A	統合生理学	病態生理学
11月5日	木		病理学 A	病理学 A	病理学 A 実習	病理学 A 実習	
11月6日	金		早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II	早期体験学習 II
11月7日	土						
11月8日	日						
11月9日	月		統合生理学	病態生理学	統合生理学	基礎感染症学	
11月10日	火		病理学 A 実習	統合生理学	統合生理学	基礎感染症学	
11月11日	水	創立記念日	基礎感染症学	病理学 A 実習	早期体験学習 II	統合生理学	
11月12日	木		基礎感染症学	統合生理学			
11月13日	金		基礎感染症学	英語・医学英語 II	統合生理学	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
11月14日	土	創立記念日に伴う休日					
11月15日	日						
11月16日	月			統合生理学	基礎感染症学	基礎感染症学	病態生理学
11月17日	火			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月18日	水			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月19日	木			統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月20日	金			英語・医学英語 II	統合生理学	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
11月21日	土						
11月22日	日						
11月23日	月	勤労感謝の日					
11月24日	火		基礎感染症学	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月25日	水		基礎感染症学	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)	統合生理学実習(A班)、病態生理学実習(B班)
11月26日	木			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
11月27日	金		病理学 A	英語・医学英語 II	統合生理学	自由選択科目(第2外国語 II)	自由選択科目(実践英語 II)
11月28日	土						
11月29日	日						
11月30日	月			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
12月1日	火			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月2日	水			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月3日	木			統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)	統合生理学実習(B班)、病態生理学実習(A班)
12月4日	金	後期授業終了	病態生理学	英語・医学英語Ⅱ	統合生理学	自由選択科目(第2外国語Ⅱ)	自由選択科目(実践英語Ⅱ)
12月5日	土						
12月6日	日						
12月7日	月	冬季休業期間					
12月8日	火	冬季休業期間					
12月9日	水	冬季休業期間					
12月10日	木	冬季休業期間					
12月11日	金	冬季休業期間					
12月12日	土						
12月13日	日						
12月14日	月	冬季休業期間					
12月15日	火	冬季休業期間					
12月16日	水	冬季休業期間					
12月17日	木	冬季休業期間					
12月18日	金	冬季休業期間					
12月19日	土						
12月20日	日						
12月21日	月	冬季休業期間					
12月22日	火	冬季休業期間					
12月23日	水	冬季休業期間					
12月24日	木	冬季休業期間					
12月25日	金	冬季休業期間					
12月26日	土						
12月27日	日						
12月28日	月	冬季休業期間					
12月29日	火	年末年始(学内立入禁止)					
12月30日	水	年末年始(学内立入禁止)					
12月31日	木	年末年始(学内立入禁止)					
1月1日	金	元日(学内立入禁止)					
1月2日	土	年末年始(学内立入禁止)					
1月3日	日	年末年始(学内立入禁止)					
1月4日	月	自習期間					
1月5日	火	学年末定期試験期間					
1月6日	水	学年末定期試験期間					
1月7日	木	学年末定期試験期間					
1月8日	金	学年末定期試験期間					
1月9日	土						
1月10日	日						
1月11日	月	成人の日					
1月12日	火						
1月13日	水	学年末定期試験期間					
1月14日	木	学年末定期試験期間					
1月15日	金	学年末定期試験期間					
1月16日	土						
1月17日	日						
1月18日	月	再試験自習期間					
1月19日	火	再試験自習期間					
1月20日	水	再試験自習期間					
1月21日	木	再試験自習期間					
1月22日	金	再試験自習期間					
1月23日	土						
1月24日	日						
1月25日	月	学年末再試験期間					
1月26日	火	学年末再試験期間					
1月27日	水	学年末再試験期間					
1月28日	木	学年末再試験期間					
1月29日	金	学年末再試験期間					
1月30日	土						
1月31日	日						

2026年度 M2 時間割表

月日	曜日	祝日・行事等	1時限目(9:30~10:45)	2時限目(11:00~12:15)	3時限目(13:15~14:30)	4時限目(14:45~16:00)	5時限目(16:15~17:30)
2月1日	月	学年末再試験期間					
2月2日	火	学年末再試験期間					
2月3日	水	学年末再試験期間					
2月4日	木	学年末再試験期間					
2月5日	金	学年末再試験期間					
2月6日	土						
2月7日	日						
2月8日	月	予備期間					
2月9日	火	予備期間					
2月10日	水	予備期間					
2月11日	木	建国記念の日					
2月12日	金	予備期間					
2月13日	土						
2月14日	日						
2月15日	月	春季休業期間					
2月16日	火	春季休業期間					
2月17日	水	春季休業期間					
2月18日	木	春季休業期間					
2月19日	金	春季休業期間					
2月20日	土						
2月21日	日						
2月22日	月	春季休業期間					
2月23日	火	天皇誕生日					
2月24日	水	春季休業期間					
2月25日	木	春季休業期間					
2月26日	金	春季休業期間					
2月27日	土						
2月28日	日						
3月1日	月	春季休業期間					
3月2日	火	春季休業期間					
3月3日	水	春季休業期間					
3月4日	木	春季休業期間					
3月5日	金	春季休業期間					
3月6日	土						
3月7日	日						
3月8日	月	春季休業期間					
3月9日	火	春季休業期間					
3月10日	水	春季休業期間					
3月11日	木	春季休業期間					
3月12日	金	春季休業期間					
3月13日	土						
3月14日	日						
3月15日	月	春季休業期間					
3月16日	火	春季休業期間					
3月17日	水	春季休業期間					
3月18日	木	春季休業期間					
3月19日	金	春季休業期間					
3月20日	土						
3月21日	日	春分の日					
3月22日	月	振替休日					
3月23日	火	春季休業期間					
3月24日	水	春季休業期間					
3月25日	木	春季休業期間					
3月26日	金	春季休業期間					
3月27日	土						
3月28日	日						
3月29日	月	春季休業期間					
3月30日	火	春季休業期間					
3月31日	水	春季休業期間					

年度	2026年度	学年	2年
学科目	人文・生命科学特論	科目ナンバリング	FME-2A03
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	柴原純二 教授		
担当教員	助 教 三枝七都子(医学教育学) その他の教員は講義予定表に記載		

A. 教育の基本方針	本講義は、医療や生命科学を単一の専門知としてではなく、人の生や社会との関係のなかで複層的に捉え直すことを目的とする。医療や生命科学的知識が「誰にとって」「どのように」意味をもつのかを、医療者・病いや障害をもつ当事者・社会といった多様な立場から検討する。各分野の知見を往復しながら、医療が前提としてきた価値観や枠組みを問い直し、将来の医療実践においても考え続ける姿勢を養う。
B. 到達目標	1. 医療や生命科学的知識が、医療者・病いや障害をもつ当事者・社会といった立場によって異なる意味をもつことを説明できる。 2. 病いや障害をめぐる語りや行為を、個人の人生史・生活史および社会的・制度的文脈のなかで位置づけて考察できる。 3. 医療における意思決定や支援のあり方について、既存の価値観や枠組みを問い直しながら考えることができる。 【吉林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②, (3)-②,③,④, (4)-①,③, (5)-①,③,④
C. 修得すべき能力	1. 医療について多角的かつ複眼的な視点から考察できる能力。 2. 多分野の専門家の講義を通じて、自分の考えとの相違点や新たな視点を見出し、理解・統合できる能力。 3. 講義の内容を整理・理解し、言語化して他者に伝えられる能力。
D. 学習内容	講義はオムニバス形式で構成され、医療や生命科学をめぐる知識や実践が「誰にとって」「どのように」意味をもつのかを、多様な立場から検討する。 前半では、医療技術や生命科学的知識の進展がもたらす影響を社会的文脈のなかで捉え、医療をめぐる前提を問い直す。中盤では、病いや障害をめぐる当事者の経験や語りに焦点を当て、医学的説明と生活世界との関係を考察する。後半では、意思決定のあり方や国際的な医療実践を手がかりに、医療の多様なあり方について理解を深める。
E. 実習・課外授業	なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、文献検索等により関連事項について考えておくこと。 また、事前に送付されるアンケート(Forms)に答えること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	授業終了後に問われる項目について、思考のプロセス、意見や感想等をリフレクションペーパー(Forms)で提出すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	(1)出席 100点 (2)事前に送付されるアンケート(Forms)の提出 100点 (3)授業後のリフレクションペーパー(Forms)の提出ならびに内容 100点 上記(1)～(3)の各項目で評価し、各項目において60点以上で合格とする。最終評価はSABCDの5段階(Dは不合格)で表す。一つでも不合格の項目があった場合は、原則として人文生命科学特論は不合格となるが、再課題の提出により再判定を行う場合がある。特に出席、提出物には十分注意すること。正当な理由を除き、出席が2/3以下となった場合は、当該科目の評価は不合格(D評価)とする。 <受講態度に評価について> 本特論は医学部以外、他大学等の各領域の専門家をお招きした講師によって構成されている。医学部教育において人文・生命科学にふれる貴重な機会となる。各授業に集中して、講義を聴くだけでなく、自分なりに多角的に思考することが求められる。よって、授業中に本授業に関係のない作業、動画の視聴、SNS等の閲覧・発信等を行うことは禁止する。1度目の注意は警告、2度目の注意を受けた場合は、不適切な行動として人文生命科学特論は不合格となる。 フィードバック方法：リフレクションペーパーへの記載内容についてフィードバック希望者に個別に行う。希望の有無についてはFormsに回答欄あり。

I. 学習指導書

①教科書(学生が所持しなければならないもの)	特になし
②参考書A(学生の所持をすすめるもの)	※(R): Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A): Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B(図書館等での利用をすすめるもの)	(R)柘植あづみ、2012『生殖技術 不妊治療と再生医療は社会に何をもたらすか』みすず書房。 (R)菅野摂子、2017「出生前検査における意思決定支援の困難性」保健医療社会学論集、第28巻第1号、P23-33。 (R)菅野摂子、2021「スクリーニング検査と受検者の視覚」保健医療社会学論集、第32巻第1号、P45-54。 (R)赤尾和美、2008『この小さな笑顔のために～日本人ナースのカンボジア奮闘日記～』朝日新聞出版。 (A)除本理史・林美帆編著、2022『「地域の価値」をつくる：倉敷・水島の公害から環境再生へ』東信堂。 (R)渥美一弥・浮ヶ谷幸代他編、2021『医師と人類学者との対話：ともに地域医療について考える』協同医書出版社。 (A)浮ヶ谷幸代・田代志門他編、2022『現代日本の「看取り文化」を構想する』東京大学出版会。 (R)田代志門、2016『死にゆく過程を生きる 終末期がん患者の経験の社会学』世界思想社。

(R)森田達也・田代志門、2023『臨床現場のもやもやを解きほぐす 緩和ケア×生命倫理×社会学』医学書院。
(R)伊東香純、2021『精神障害者のグローバルな草の根運動——連帯の中の多様性』生活書院。
※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの
(A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

人文・生命科学特論

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/19	金	1	オリエンテーション	人文・生命科学特論全体のオリエンテーションを行う。	三枝七都子	資料配布	講義
6/19	金	3	スクリーニング検査の光と影	出生前診断の前に実施される出生前スクリーニング検査（非確定的検査）の精度が上がったことは、この検査が広がる大きな理由の一つである。だが、結果が確率あるいは陽性/陰性で示されることには良い面（benefit）と悪い面（harm）がある。この両面を検討する。	菅野摂子	資料配付	講義
6/25	木	3	公害発生地域における医療と環境保健	公害問題に典型的な社会的災害に直面した時、医療は何かができるのか。深刻な大気汚染被害の現場で培われた地域医療の思想と実践を歴史的に紐解きながら、公害経験を活かした今日的な医療・保健の連携のモデルを論じる。	尾崎寛直	資料配布	講義
6/30	火	3	障害の社会モデルを基に医療を考える	寓話「障害者の村」を通して、障害は個人の身体にあるという見方を問い直す。障害の社会モデルを理解するとともに、それを応用して、身近にある、あるいは関心をもった障害に関する問題を捉え直す。	伊東香純	資料配布	講義
6/30	火	4	社会運動を通して精神医療を考える	精神科医、精神障害者、精神障害者の家族、それぞれの社会運動の歴史を知る。運動の主張の理解を通じて、自己決定や診断をめぐる精神医学の想定を批判的に考え直す。	伊東香純	資料配布	講義
7/2	木	3	医療人類学的なワーク(1)	医療人類学の2つのアプローチ ①意味論アプローチ 病気に対する疾病disease vs 病いillnessという対置を通して、治療者と患者との病気に対する捉え方の違いとナラティブアプローチについて事例を通して考える。	浮ヶ谷幸代	資料配布	講義
7/2	木	4	医療人類学的なワーク(2)	②社会構築アプローチ 「病気の医療化」と「病気は社会によってつくられる」というアプローチについて、同性愛やPTSDを例に考える。	浮ヶ谷幸代	資料配布	講義
7/2	木	5	ハンセン病当事者のテキストから考える「その人」の経験	ハンセン病問題における人権侵害の経験は必ずしも一様ではないが、その語りやテキストを「ハンセン病患者・回復者、その家族の語り」と集合的に扱われるケースは少なくない。ここでは一人の当事者（「その人」）が残したテキスト（エッセイ・語り）を用い、被害経験を個別と集合の双方から検討する。	西浦直子	資料配布	講義
7/8	水	3	医療における患者の語りの意味(1)	医療における意思決定プロセスの変化をたどりながら、共同意思決定（SDM）という考え方について学ぶ。また、事例に即して患者・家族の話を書くことが医療上の意思決定において持つ意味を考える。	田代志門	資料配布	講義
7/8	水	4	医療における患者の語りの意味(2)	社会学・人類学における「病いの語り」研究の蓄積をたどりながら、患者・家族の視点からは病むことをがどのように記述されるのかを学ぶ。また、合わせて病いの語りが社会に与える影響についても考える。	田代志門	資料配布	講義
7/9	木	4	ラオス小児病院等での活動	ラオス ルアンパバーン県の小児病院における現状を紹介し、医療はこうあるべきだという固定概念を捨て、『異文化・異医療』ととらえること、また「自分にできることは何か」をワーク等を使い自由な発想を持って考える機会とする。	赤尾和美	資料配布	講義(AL)
7/9	木	5	ラオスでの子どもの看取りを通して	ラオスでの子どもを看取った家族を始め、様々な症例を通して、ラオスでの医療の現状、死生観や看取り、家族の心情などを理解し、多様性を考えることを目的として、グループワークも行う。	赤尾和美	資料配布	講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	行動科学Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2A05
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	柴原純二 教授		
担当教員	教授 柳田多美 (保健学部) 教授 武井秀史 (医療管理学) 講師 大西真美 (保健学部) 助教 三枝七都子 (医学教育学) その他の教員は講義予定表に記載		

A. 教育の基本方針	<p>医学・医療を学ぶ者には、患者及び医療者にとって良質で安全な医療の提供、信頼に基づく患者や家族とのかかわり、医療チームの一員としての多職種との協調などのために、人間性、倫理性を含む幅広い情操面の豊かさを培うことが求められる。本科目では、Ⅰ. 医療者としての人間性教育、Ⅱ. ヒトの行動に関する理解、Ⅲ. 医療安全を常に念頭において行動できる医療者の養成、の3つの要素を重視してカリキュラムを組み立てている。</p> <p>行動科学Ⅱは、以下の領域で構成する。</p> <p>Ⅰ. 医療者としての人間性教育 コミュニケーション② 医療者としての関わり方 ・ダイバーシティ② ・ハンセン病、医療の不確実性</p> <p>Ⅱ. ヒトの行動に関する理解 カウンセリング</p> <p>Ⅲ. 医療安全を常に念頭において行動できる医療者の養成 医療安全</p> <p>講義、ゲストスピーカーを招いての講演、対話やインタビューの実施といった能動的な学習（アクティブラーニング）など、多様な形式で授業を行う。</p>
B. 到達目標	<p>「医療者として患者や家族との適切なかかわりを持ち、良質で安全な医療を提供するための倫理観や態度」を身につけること、「人の多様なあり方や人々との関係性」を理解し、医学・医療を学ぶ医学生としてふさわしい態度を修得し、行動できる。チーム医療の中で多職種と連携・協働するために、コミュニケーション能力を高める。</p> <p>特に、カウンセリングでは、臨床心理学、医療心理学の理論をもとに「良き医師」に必要な人間理解と援助についての理論を修得する。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-⑤, (3)-①,②,③,⑤, (4)-①,②, (5)-①,②,③,④</p>
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションの成立と破綻についてデータを分析しながら理解を深め、自らのコミュニケーションを内省できる。 2. 健康の社会的決定要因及びアドボケートという概念について説明できる。 3. 人間の尊厳や人権に配慮して行動できる医療者になることを目指す。直近の目標としては、過去の感染症対策における生命・医療倫理の問題について自分なりの考えを述べるができる。 4. 心理的、社会的側面をも考慮して患者を理解することができる。さらにその支援に必要な理論の基礎を修得し、幅広い人間理解の方法（行動療法、認知行動療法、クライアント中心療法、森田療法、家族療法、絵画療法、他）を説明できる。 5. 「医療安全」を常に念頭において行動できる医療者になることを目指す。直近の目標としては、M4の後期から始まるBSLで臨床の現場に配置された時に、医療の現場で実践されている「医療安全」の実際を理解するための基本的知識を修得する。
D. 学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーション②：言語学の視点からコミュニケーションの基礎、本質、患者の視点からの医師と患者のコミュニケーションのあり方等。 2. 医療者としての関わり方：医療者として不確実な場面における自己の態度や他者との関係形成について考える。また、多様性理解のための歴史的背景、主要概念（多文化共生、性の多様性など）、アプローチを学ぶとともに、医療現場における多様な価値観や生活世界を理解する。 3. カウンセリング：概念整理、生物・心理・社会的アプローチをもとに、人間の心理発達を踏まえ、病歴を聴取し、患者やその家族を多面的に理解するための理論と、コミュニケーションの技術について等。 4. 医療安全：ビデオ視聴を通して医療安全を考える。 <p>講義、ビデオ視聴を通してのディスカッションや対話の実施といった能動的な学習（アクティブラーニング）など種々の形式で授業が行われる。</p>
E. 実習・課外授業	なし
F. 準備学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1～2：コミュニケーション、医療者としての関わり方では、事前に送付されるアンケート(Forms)に答えること。 3. カウンセリング：多くの対人援助の理論を概説するため、「講義のテーマ」や「講義内容」をよく読み、記載されている不明な言葉について情報を得ておくこと。 4. 医療安全：過去に公表（マスコミ報道も含む）された医療事故事例一つについて目を通しておくこと。 <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>

G. 復習学習の内容	<p>1～2：コミュニケーション、医療者としての関わり方では、事後アンケートFormsに答えること。</p> <p>3.カウンセリング：授業の当日資料を精読しノートにまとめること。講義内で説明するキーワードを説明できるよう復習すること。</p> <p>4.医療安全：講義で視聴したビデオや配布されたプリントの内容について、授業終了後に自分なりに考えること。</p> <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>
H. 成績評価の方法・基準	<p>本科目は以下の4領域の総合評価によって成績（S・A・B・C・D）を決定する。</p> <p>各領域の内部点（人間性教育100点、行動理解100点、医療安全100点、出席100点）の60%以上を取得することを合格基準とする。</p> <p>1. 医療者としての人間性教育：100点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● コミュニケーション②：事前アンケートForms 20点、感想Forms 30点 ● 医療者としての関わり方：事前アンケートForms 20点、感想Forms 30点 <p>2. ヒトの行動に関する理解：100点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カウンセリング：平常点 50点 ● カウンセリング：最終レポート50点 <p>授業中の課題と参加態度を平常点として評価する。 尚、講義時間内での提出とし、それ以後の提出は評価しない。 最終レポートの課題を第4回で呈示する。 最終レポートの提出がない場合は単位を認めない。</p> <p>3. 医療安全を常に念頭において行動できる医療人の養成：100点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 医療安全：100点 <p>4. 出席：100点</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 正当な理由なく出席が2/3以下の場合は不合格（D）とする。 ● 必要な提出物を提出しない場合も不合格とする。 <p>一つでも不合格の領域があった場合は原則として行動科学Ⅱは不合格となるが、再試験ないしレポートにて再判定を行う場合がある。特に出席には十分注意すること。 フィードバック方法：カウンセリングレポートについて授業内で全体に対して行う。希望者に対してはフィードバックを個別に行う。</p>

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特に指定しない
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	<p>(R) 山口育子、2018「賢い患者」岩波書店</p> <p>(R) 日下隼人、2020「温かい医療をめざして——サービスを支える コミュニケーション——」篠原出版新社</p> <p>※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの</p> <p>(A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	<p>授業中随時紹介</p> <p>※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの</p> <p>(A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【行動科学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/8	水	4	医療安全(1)	医療者も人間である以上、過ちをおかす。これは避けられない現実であるが、少しでも医療事故を減らすためにわれわれは日々努力しなければならない。本講義ではビデオ視聴を通して医療安全を考えるきっかけとしたい。双方向性の授業を実施する。	武井秀史		講義(AL)
4/15	水	4	医療安全(2)	前回の講義に引き続きビデオ視聴を通して医療安全を考える。双方向性の授業を実施する。	武井秀史		講義(AL)
5/18	月	1	ダイバーシティ②	多様な性と医療を軸に、健康の社会的決定要因という概念について学ぶ。さらに診察室だけでは解決しない健康問題に取り組むためのアドボケート活動について学び、医師の役割について考える。	吉田絵理子		講義(AL)
6/3	水	1	カウンセリング(1)	場面や対象によってコミュニケーションで留意する点は異なる。人に伝え、人の言うことを理解するための概念や姿勢をカウンセリング理論を用いて概観する。ナラティブ・ベイスド・メディスンの考え方を踏まえ、傾聴についての理論的な理解を深める。	柳田多美		講義
6/10	水	1	カウンセリング(2)	カウンセリングの技法について概観する。特に健康・医療心理学の分野から、ストレスが身体に及ぼす影響、マインドフルネス・ストレスコーピングなどの理解と力動的精神療法における葛藤と防衛機制などを理解し、対人援助における理論と技法を紹介する。特に「クライアント中心療法」、「力動的精神療法」他、技法について理解を深めると共に、人とかかわるための技法を紹介する。	柳田多美		講義
6/17	水	1	カウンセリング(3)	日本の医療現場でも、多くの患者が家族問題を抱えている。そのため治療において「家族」という視点に基づいた理解が不可欠である。家族理解の基本となる「システム理論」と「家族療法」を紹介する。	大西真美		講義
6/24	水	1	カウンセリング(4)	家族理解をさらに深めるため、「多世代派」「構造派」と呼ばれるアプローチを紹介し、さらに家族と関わる上で重要となるアサーションなどのコミュニケーション理論について取り上げる。	大西真美		講義
9/1	火	2	コミュニケーション②(1)	患者が置かれている現状や、患者が医師に求めていることを理解する。そのうえで、患者と医師のコミュニケーションのあり方について、患者の視点から考えていく。	山口育子		講義
9/1	火	3	医療者としての関わりの方①	映画視聴：映画「一人になる——小笠原登とハンセン病強制隔離隔離政策」を通じて、医療が常に「正解」をもっているわけではないこと、そして医療が社会や価値観と深く結びついていることを学ぶ。	江頭説子 三枝七都子 山口育子		講義(AL)
9/1	火	4	医療者としての関わりの方②	グループワーク：映画の内容を踏まえて、「医療の不確実性」とは何か、それに対して医療者としてどのように向き合うことができるのかについて、グループで話し合うワークをおこなう。	江頭説子 三枝七都子 山口育子		講義(AL)
9/1	火	5	医療者としての関わりの方③	対話の時間：グループワークで話し合った内容を踏まえて、別の立場からはどう見えるのか、どう聞こえるのかに触れ、思考を深める。	江頭説子 三枝七都子 山口育子		講義(AL)
9/7	月	1	コミュニケーション②(2)	言語・コミュニケーションの実態を理解し、日常の言語・コミュニケーションを非日常的な文脈から理解する。また、感じの良いコミュニケーション、評価されないコミュニケーション、言語によって異なるコミュニケーション作法について考える。	八木橋宏勇		講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	早期体験学習Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2A07
単位	2単位	コマ数	38コマ
科目責任者	柴原純二 教授		
担当教員	教授 矢島知治 (医学教育学) 准教授 江頭説子 (医学教育学) 講師 関口進一郎 (医学教育学) 助教 三枝七都子 (医学教育学) 教授 慶野博 (眼科学) ※研究室配属 その他の教員は講義予定表に記載		

A. 教育の基本方針	<p>「良き医師」になるためには、医学・医療に関する知識・技能だけでなく、福祉の果たす役割を理解し、医療は病院だけで完結するのではなく、患者や患者家族、そして支援する人々や関係する施設によって成り立っていることへの理解が求められる。本科目では、身体診察に必要な基本的な技能の習得、病院や地域の福祉施設での体験学習を通して、医学生としての自覚を高めることを目的とする。また、医学・医療の発展に不可欠な研究の重要性の理解を深めることも目的とする。教育方法としては、チーム活動を中心とした能動的な学習(アクティブ・ラーニング)を基本とする。</p> <p>早期体験学習Ⅱは、以下の領域で構成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体診察入門① ・地域体験学習 ・研究室配属 <p>M1の「早期体験学習Ⅰ」に続き、M2の「早期体験学習Ⅱ」、M3の「早期体験学習Ⅲ」において、地域での暮らし、福祉の果たす役割、地域医療と大学病院の関係と役割、身体診察に必要とされる基本的な技能等について段階的に学んでいく。これらの「早期体験学習」は、M4から開始される臨床実習につながっていく。</p>
B. 到達目標	<p>身体診察入門①：解剖学や生理学との関連を意識しながら身体診察の目的や手順を理解し、基本的な診察法や手技を習得する。</p> <p>地域体験学習：地域包括ケアシステムの役割や、医療と社会構造との関係について理解し、的確に説明できるようになる。また、地域におけるケアの実態を体験し、その意義について理解する。</p> <p>研究室配属：配属先の研究室で医学研究の実際に触れ、その目的や意義を理解する。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①,②,③,④, (2)-⑤, (3)-①,②,③,④,⑤, (4)-①,②,③, (5)-①,④</p>
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 身体診察の目的、手順および評価法を説明できる。 2. 基本的な身体診察法と手技を習得する。 3. 高齢者や障がいのある人々とコミュニケーションをとることができる。 4. 高齢者や障がいのある人々の健康と生活について社会環境や社会構造の視点から説明できる。 5. 医学・医療の発展における研究の役割を理解する。 6. 医学研究の基本的なプロセスを理解する。 7. 科学的探究心を養う。
D. 学習内容	<p>身体診察入門①：身体診察の方法や手順についての講義を行う。</p> <p>地域体験学習：障害児者福祉施設、高齢者福祉施設、地域・在宅医療施設をテーマとして学んだうえで、実際に障害児者福祉施設、高齢者福祉施設、地域・在宅医療施設等での体験を1日かけて実施する。</p> <p>研究室配属：基礎・臨床医学教室の研究室において1週間の研究活動を体験する。</p>
E. 実習・課外授業	<p>地域体験学習：11月2日(月)または11月6日(金)に障害児者福祉施設、高齢者福祉施設、地域・在宅医療施設等での体験学習を行う。</p> <p>研究室配属：8月24日(月)～8月28日(金)に配属先の研究室で研究活動を体験する。</p> <p>実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。</p>
F. 準備学習の内容	<p>身体診察入門：内科学の教科書において該当するページを読み、目的、手順、注意点等を理解しておくこと</p> <p>地域体験学習：地域においておこなわれているケアについて調べ、その可能性や課題について自分なりに考えておくこと。また、体験学習に備えて、体験する施設の概要についても十分に調べておくこと。</p> <p>研究室配属：HPなどで配属先の教室や研究室の研究活動について調べておく。</p> <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>
G. 復習学習の内容	<p>身体診察入門①で学習する手技については、地域体験学習のなかで実践の機会を得る可能性がある。また、これらの手技は、将来学ぶことになる臨床診断学やBSLにつながる内容でもある。復習として、友達間等で繰り返し練習をしてほしい。</p> <p>地域体験学習では、1. 配属先の施設の特徴について、2. 施設で体験した具体的な内容、3. 地域における生活を支えるための工夫についてまとめ、Formsで提出すること。</p> <p>研究室配属では、1週間の活動内容や学んだことなどについて、レポートを提出すること。</p> <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>
H. 成績評価の方法・基準	<p>早期体験学習Ⅱを構成する各領域を100点満点で評価し、60点以上で合格とする。各領域の評価内容は以下となる。</p> <p>(1)出席 100点 (2)身体診察入門 100点</p>

(3)地域体験学習	100点
(4)研究室配属	100点 計400点
身体診察入門①：学習した身体診察手技の実技により評価する。	
地域体験学習	：授業および報告会の参加態度の評価 20点
	必要とされる書類や課題の提出 20点
	体験学習の参加態度の評価 20点
	活動報告の提出及びその内容 40点
研究室配属	：参加態度の評価 50点
	レポートの提出及び内容 50点
最終評価はすべての領域の評価を基にS A B C Dの5段階（Dは不合格とする）で表す。一つでも不合格の領域があった場合は原則として早期体験学習Ⅱは不合格となるが、再試験ないしレポートにて再判定を行う場合がある。特に出席には十分注意すること。正当な理由を除き、出席が2/3以下となった場合は、当該科目の評価は不合格（D評価）とする。 なお、必要な提出物を提出しない者は原則として不合格とする。 フィードバック方法：リフレクションペーパーへの記載内容について授業内で全体に対して行う。活動報告については希望者に対して個別に行う。	

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	特になし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	授業内で紹介する ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 日下隼人、2020「温かい医療をめざして——サービスを支えるコミュニケーション——」 篠原出版新社。 (R) 佐伯晴子、2014「あなたの患者になりたい 患者の視点で語る医療コミュニケーション」 医学書院。 (A) 三井さよ、2018「はじめのケア論」 有斐閣ストゥディア。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【早期体験学習Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/13	水	3	身体診察入門① バイタルサイン測定	バイタルサイン（体温、呼吸数、脈拍数、血圧）測定の基本につき解説する。 できる範囲で実際にやってみる。	関口進一郎		講義(AL)
8/24	月	1	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/24	月	2	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/24	月	3	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/24	月	4	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/24	月	5	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/25	火	1	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/25	火	2	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/25	火	3	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/25	火	4	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/25	火	5	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/26	水	1	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/26	水	2	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/26	水	3	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/26	水	4	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/26	水	5	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/27	木	1	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/27	木	2	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/27	木	3	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/27	木	4	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/27	木	5	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/28	金	1	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/28	金	2	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/28	金	3	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/28	金	4	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
8/28	金	5	研究室配属	配属された研究室で研究活動を体験する。	慶野博		実習(AL)
9/3	木	2	地域体験学習 オリエンテーション	地域体験学習の目的、概要について説明する。 地域や生活とは何かをグループワークを交えて考える時間とする。	三枝七都子		講義(AL)
9/9	水	2	地域体験学習 事前学習(1)	体験施設一覧を提示、エントリーの方法を説明する。	三枝七都子		講義(AL)
9/28	月	1	地域体験学習 事前学習(2)	「入院」「外来」に次ぐ第三の医療としての「在宅医療」について、その背景、実例、問題点等について解説する。	金井文彦		講義(AL)
9/28	月	3	地域体験学習 事前学習(3)	病いや障害をもち、支援を受けながら生活するとはどのようなことなのかを学ぶ。また、当事者と支援者の関わりの中で生じる戸惑いや迷いに目を向けながら、支援における関係性のあり方について考える。	三井さよ		講義(AL)
10/5	月	2	地域体験学習 事前学習(4)	認知症の症状について学び、体験学習での関わり方、コミュニケーションの取り方などについて考えていく。	冨田泰彦		講義(AL)
10/7	水	3	地域体験学習 事前学習(5)	各学生の体験先を発表。自己紹介シートなど、体験学習を実施するうえで必要な準備について解説する。	江頭説子 三枝七都子		講義(AL)
11/2	月	1	地域体験学習 【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者で連絡をとり、事前準備、当日の注意点等を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをする。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/2	月	2	地域体験学習 【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者で連絡をとり、事前準備、当日の注意点等を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをする。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)

2026年度 2年 講義予定表

【早期体験学習Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/2	月	3	地域体験学習 【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/2	月	4	地域体験学習 【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/2	月	5	地域体験学習 【A班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/6	金	1	地域体験学習 【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/6	金	2	地域体験学習 【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/6	金	3	地域体験学習 【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/6	金	4	地域体験学習 【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/6	金	5	地域体験学習 【B班】	配属された各自の体験施設先で体験学習を行う。体験する施設の概要について十分に調べておくこと。体験先の担当者と連絡をとり、事前準備、当日の注意点を必ず確認すること。患者や利用者、その家族の前に立つことの意味をよく考え、それにふさわしい身だしなみ、立ち居振る舞いをすること。分からないこと、不安なことは、必ず体験先の担当者に確認すること。自ら考え能動的に行動し、積極的に質問すること。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)
11/11	水	3	地域体験学習 報告会	学生同士で地域体験学習の振り返りを行うと同時に、事後学習として介護保険制度をはじめとする福祉・医療に関わる法制度について学ぶ。	江頭説子 三枝七都子		実習(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	英語・医学英語 II	科目ナンバリング	FME-2B02
単位	2単位	コマ数	25コマ
科目責任者	市川弥生子 教授 (教務部長)		
担当教員	准教授 黒田 航 講師 Khan, Fayyaz Ahmad 学内講師 Cameron, Colin Iain 非常勤講師 山田 奎祐		

A. 教育の基本方針	<p>まえがき</p> <p>本学部の英語は、M1とM2では「英語・医学英語 n」と「実践英語 n」(n=1, 2)とに大別される。これら2つは異なる目的のために設計され、担当する教員のグループも分かれており、評価の方法も異なる。「英語・医学英語 n」の目的は英語の媒介にした一般教養と専門知識の獲得であり、「実践英語 n」の目的は運用技能の向上である。本項目では「英語・医学英語 II」の指導要領を述べる。「実践英語 I」の指導要領はそれ専用の項目を参照するように。</p> <p>英語を実用技能だと認識した場合、多くの日本人は大学生の段階で (a) 英語で話す技能と (b) 英語で書く技能が十分ではないだけでなく、実際には (c) 英語で話された事を正確に聴き取る技能や (d) 多量の文章を十分に早く読む技能も十分ではない。ただ、どの技能をどの段階でどれほど必要とするかは個人で、また時期によって大きく異なる。本学部では学習効率を意識し、学生一人一人が自分の要望になるべく近い形で英語が学べるように授業を構成する(一般的に言って、学習者の必要や技能に応じた個別化をしない、大人数相手の異国語の指導は無駄が多過ぎて、学生にも教員にも苦痛である)。</p> <p>具体的には、英語・医学英語 IIをA、B、C、Dの4クラスに分け、クラス毎に別の目標を設定し受講者の技能水準に合わせた指導を行なう。具体的な指導は担当教員に拠るものとする。このため、それぞれのクラスで学生が取り組む授業の内容は異なる。</p> <p>AクラスとDクラスの定員は20名程度、BクラスとCクラスの定員は40名前後で、前年度末の希望調査と成績に基づいて構成する。Aクラスに関してのみ、初回授業で受講資格検査を実施し、その成績によって帰属の可否を判定する。Aクラスに帰属が認められなかった学生はBクラスかCクラスに所属の変更を行う。このように分けたクラスを英語・医学英語 II-A、英語・医学英語 II-B、英語・医学英語 II-C、英語・医学英語 II-Dと呼び、以後、簡略して医学英語 II-A、B、C、Dとも呼ぶ。</p> <p>その一方、英語は医学部のカリキュラムで不足しがちな人文学や社会科学との接点となる教科の一つである。その点を考慮し、英語の授業で取り上げる教材は医療に特化する事を避け、教養としての価値の高い素材をクラスごとに受講生の実力と志向性を考慮しつつ選ぶ。ただし具体的な指導は担当教員に拠るものとする。従ってA、B、C、Dのそれぞれのクラスで学生が取り組む授業の内容は異なる。なお、成績は特定のクラスにすることが不利にも有利にもならないように調節する。</p> <p>クラスにより課題の難度が異なるため、最終成績は特定のクラスにすることが不利にも有利にもならないように調節する。具体的にはA、Bクラスの最高点は100点、Cクラスの最高点は95点、とする。Dクラスの最高点は90点とする。得点算出の具体的な方法については後述する。</p>
B. 到達目標	<p>到達目標は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (3)-①, (4)-③</p>
C. 修得すべき能力	修得すべき能力は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
D. 学習内容	学習内容(アクティブ・ラーニング関連事項含む)は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
E. 実習・課外授業	予定せず。
F. 準備学習の内容	準備学習は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	復習学習の内容は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	<p>成績評価の方法・基準は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なるが、最終成績は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで独立に評価するのではなく、英語・医学英語 II 全体として行う。その際、後述の調整を行う。</p> <p>成績評価は前期と後期の二期に分けて出すが、後期の成績は以下の述べる調整の結果となり、通年の成績と等価である。なお、本年度はA、Dクラスは前期14コマ、後期11コマで、B、Cクラスは前期13コマ、後期12コマ(07/03が前期の最終日で、07/10が後期の最初日となる)。出席率はこの補正後のコマ数で行なう。</p> <p>前期成績と後期成績はそれぞれ次のように決める：</p> <ul style="list-style-type: none"> • i) A、B、C、Dの別によらず、学期毎の得点 U は学期中の授業内課題の成績 S と期末試験の得点 T から求める(クラス毎に学期内課題の実施回数は異なる)。S と T の混合比率は 5:3 とする(つまり $U = S*5/8 + V*3/8$)。学期末試験の受験には学期の出席率が2/3を超えている事が要件となる(出席率は学期ごとに評価する)。 • iii) クラスごとの課題の難度の不公平を解消するため、AのUの平均点 \approx BのUの平均点 $>$ CのUの平均点 $>$ DのUの平均点となり、A、Bクラスの最高点の上限は100点、Cクラスの最高点の上限は95点、Dクラスの最高点の上限は90点となるようにUを事後調節する。 • iii) 前期・学年末定期試験の受験を必須とする。 <p>通年の成績は次のように決める：</p> <ul style="list-style-type: none"> • iv) 前期の得点を U、後期のみ得点を V とした時、通年評価 (= 最終成績) W は U と V の平均値 $U*1/2 + V*1/2$ である。 • v) W が60点に満たず D評価を受けた者には年度末 (= 後期末) に再試を課し、その評価に基づき W を60点に修正できるかを判定する。前期の得点 U が60点に満たなくても、最終評価 W が60点を越えていれば再試の対象とはならない。 <p>授業内外で実施した課題には事後的に正解を示す他に解説を与え、これをフィードバックとする。</p>

I. 学習指導書

①教科書(学生が所持しなければならないもの)	教科書は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。
------------------------	---

②参考書 A (学生の所持をすすめるもの)	<p>参考書 A は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。</p> <p>※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>
③参考書 B (図書館等での利用をすすめるもの)	<p>参照書 B は英語・医学英語 II-A、B、C、Dで異なる。それぞれの授業の別紙資料の当該項目を参照のこと。</p> <p>※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>

J. 講義予定表

「添付資料」参照

学科目 (班)	英語・医学英語Ⅱ [Anatomy Module] (前期・後期 A 班)
科目責任者	市川弥生子 教授 (教務部長)
担当教員	講師 Khan, Fayyaz Ahmad

A. 教育の基本方針	Same as the general description for English/Medical English II.
B. 到達目標	Learning outcomes On successful completion of this module, students should be able to: <ul style="list-style-type: none"> • Describe the gross anatomy of the muscular, cardiovascular, nervous and gastrointestinal systems. • Communicate effectively in both written and verbal presentation.
C. 修得すべき能力	Problem-Based Learning (PBL): Collaboration and teamwork- Oral and written communication skills- Technology literacy.
D. 学習内容	Spring and Fall semesters deal with different topics. You will learn gross anatomy. Their outlines are the following: Semester 1 (Spring) Week 1 - Assessment for class A. Week 2 and 3 - Muscle compartments of the upper limb Week 4 – In-Course Assessment 1 (lesson 2 and 3) Week 5 to 7 - Muscle compartments of the lower limb Week 8 - In-Course Assessment 2 (lesson 5 to 7) Week 9 to 12 – Muscles of the axial skeleton Week 13 – In-Course Assessment 3 (lesson 9 to 12) Semester 2 (Fall) Week 1 to 3 - Anatomy of the Heart /Pulmonary and Systemic circuits Week 4 – In-Course Assessment 1 (lesson 1 to 3) Week 5 to 7– Neuroanatomy Week 8 - In-Course Assessment 2 (lesson 5 to 7) Week 9 to 11 - Anatomy of the Alimentary Canal & Accessory Organs Week 12 - In-Course Assessment 3 (lesson 9 to 11)
E. 実習・課外授業	Same as the general description for English/Medical English II.
F. 準備学習の内容	You are required to do the essential reading (as instructed by the tutor) before each face-to-face tutorial.
G. 復習学習の内容	After each tutorial, you will be required to continue your discussions on the online discussion forum and complete a reflective report on the lesson as part of your self-assessment. You can find the reflective report section in your e-portfolio.
H. 成績評価の方法・基準	At the end of each semester, your provisional mark for the summative assessment will be based on the following: Discussion Board and In-Class Discussions (17.5%) In-Course Assessments (45%) End-of-Course (Term-Final) Assessment (37.5%) During the modules, there will also be a formative assessment to test your knowledge.
I. 学習指導書	Reading list- CORE: Handout. FURTHER READING: Gray's Anatomy: The Anatomical Basis of Clinical Practice 41E. Apps List- ESSENTIAL: Complete Anatomy & Padlet. RECOMMENDED: Khan Academy
J. 講義予定表	「添付資料」参照

学科目 (班)	英語・医学英語Ⅱ (前期B班、後期C班)
科目責任者	市川弥生子 教授 (教務部長)
担当教員	学内講師 Cameron, Colin

A. 教育の基本方針	As specified as common items in English II.
B. 到達目標	The goal of this course is to help students improve their English speaking, reading, listening, and writing skills and increase their confidence in using English inside and outside of the classroom. They will gain a greater cultural understanding and be more ready to express their ideas about a variety of topics in English. Participation will be important, as will regular assignments to demonstrate effort and learning.
C. 修得すべき能力	1) The ability to express ideas and opinions more confidently in English. 2) The ability to read English at a sufficient speed. 3) The ability to listen to English spoken at a natural speed. 4) The ability to write smoothly and naturally in English.
D. 学習内容	Classes will be structured around textbooks topics, involving discussion and examination of key ideas from the Getting to know Medical Genres textbook each class. The final class will review all of the units covered. The class will also focus on small group presentations in English during classes 5 and 10/11. Classes will begin with a conversational activity where small groups will discuss diverse topics together in English, before moving on to look at the textbook topic for the class. A section of the textbook activities will be completed as a group in class. Note that Spring semester for B and C groups ends on 7/4 rather than 7/11 this year to balance the number of weeks in Spring and Fall semesters. Week 1 Introductions, class explanations; homework and grading, attendance, punctuality, absences, ice breakers. Set up a warmup activity quiz. Week 2 Intro quiz, Textbook unit 1, reading story and discussion, activities. Check and explain homework journals. Week 3 Intro quiz, Textbook unit 2, reading story and discussion, activities. Presentation practice 1 - students prepare a 1-2-minute presentation for class 5, poster style in small groups of 4 or 5 members. Week 4 Intro quiz, Textbook unit 7, reading story and discussion, activities. Presentation practice 2 - peer check notes, review, and practice. Week 5 Intro quiz, Textbook unit 10, reading story and discussion, activities. 1st Presentations - Peer feedback forms, Week 6 Textbook unit 11, reading story and discussion, activities. detailed feedback from the teacher on their presentations. Week 7 Intro quiz, Textbook unit 14, reading story and discussion, activities. Student-made Qs for conversation practice. Week 8 Intro quiz, Textbook unit 15, reading story and discussion, activities. Presentation 2 practice 1 - students prepare a 2-minute presentation for class 10/11, poster style in small groups of 4 /5. Week 9 Intro quiz, Textbook unit 16, reading story and discussion, activities. Presentation 2 peer review Week 10 Intro quiz, Textbook unit 17, reading story and discussion, activities. Presentation 2. Peer feedback forms, Week 11 Intro quiz, Textbook unit 20, reading story and discussion, activities. Presentation 2. Peer feedback forms, Week 12 Intro quiz, Final-term test preparation, Term review, Presentations feedback
E. 実習・課外授業	As specified as common items in English/Medical English II.
F. 準備学習の内容	Students will be expected to complete the chapter reading of the textbook in advance of the class, so they have some familiarity with the topic to be discussed. There will be two presentations (weeks 5 and 10/11) where students will present a 1-2-minute talk with visual aids in small groups.
G. 復習学習の内容	Students will be assessed based on the contents of the textbook units covered and their participation in class and activities. Students will also be expected to write in English in a weekly journal as homework.
H. 成績評価の方法・基準	As specified as common items in in English/Medical English II.
I. 学習指導書	医療系学生のための総合英語 Getting to Know Medical Genres 定価 2,090 円 (本体 1,900 円 + 税) ISBN 978-4-384-33417-3 C1082 発行日 2012/02/20
J. 講義予定表	「添付資料」参照

学科目(班)	英語・医学英語Ⅱ(前期C班、後期B班)
科目責任者	市川弥生子 教授(教務部長)
担当教員	准教授 黒田 航
A. 教育の基本方針	英語・医学英語Ⅱで共通して指定した通り
B. 到達目標	日本の英語教育の主流である(読解中心の)実用性からかけ離れた英語ではなく、日本人に欠落している(a)聴き取り技能と(b)(日本語への翻訳を媒介としないで)十分に速く読む技能と(c)(日本語を媒介としないで)英語を産出する技能の獲得のための訓練を行なう。それを通じて専門教育で必要となる専門英語運用への橋渡しを目的とする。
C. 修得すべき能力	1. 自然な速度で話される英語発話を聴き取る実力 2. 十分な速度で英文を読める実力 3. 英文を逐一日本語に訳さないうで直観で概要を把握できる理解力
D. 学習内容	英語は実技であり、講師の説明を聞くだけで学べるはずがない。そのため、課題を中心にした授業を構成する。講義形式の授業は12か13週のうち7回である。具体的には、授業は次の4つの段階を1サイクルとする実習形式で実施する(1学期あたり3サイクル): 段階1で授業で取り上げる教材Xを選ぶ。具体的には、教員が用意した3つか4つのTED講演を視聴して貰い、学生の希望に基づいて1つの講演を選ぶ。これは調査学習と双方向アンケート(AL)に該当する。 段階2で教員が講演Xの解説をする。M1時と違い、講演はどれも13分前後なので、解説には2回かける。 段階3でXに基づいて作成した読解課題を実施する。これは単なるテストと言うより実習を兼ねた課題である。なお、課題の一環として反転学習(AL)を行う。 段階4で、Xに基づいた聴き取り課題を実施する。 これを一学期に3サイクル実施する予定であるが、時間の都合で聴き取り課題は2回しか実行できない可能性が大きい。 今年のB/Cは前期の最終週が7/11でなく7/3になる。前期と後期の週数の食い違いを緩和するための処置である。
E. 実習・課外授業	英語・医学英語Ⅱで共通して指定した通り。
F. 準備学習の内容	授業は講義内で完結する。従って、i)受講生の事前の予習を前提とせず、ii)復習を強要しない。この方針は個々の受講生の自主的な予習と復習の実行を妨げるものではない(予習と復習を自主的に実行すれば、受講生は自分の予想以上の実力を身につけることができる)。
G. 復習学習の内容	段階3と段階4の課題が成績評価に直結するので、それに対して十分な準備をする事が大切である。本授業では方針として、どの課題でも日本語訳を要求しない。実地で英語が使えるようになる(ための準備を整える)のに、それは効果的でないからである(翻訳家になるのでもなければ、日本語訳がどんなに上手にできても英語が使えるようになったとは言えない)。教材を日本語に訳して内容が分った段階で学習を終わりにすると、段階3と段階4の課題に十分に対応できない。段階3の読解はTOEFL形式の全文英文課題である。特に段階4の準備のために必要なのは講演を繰り返し、繰り返し聴いて、音声記憶を定着させる事である。聴き取り課題を最後の段階4に配置しているのは準備の時間を十分に与えるためである。聴き取り技能向上の支援ツールの使い方は授業で紹介する。
H. 成績評価の方法・基準	英語・医学英語Ⅱで共通して指定した通り。
I. 学習指導書	教科書は指定しない(学習教材は教員が用意したTED講演から学生が選択する)。教科書とは別に学習参考書を幾つか挙げておく: **学習法関係** 1. 日本人の英語勉強法:なぜ日本人はこんなにも英語ができないのか?(J・バーダマン), 中経出版. 2. 毎日の英速読:頭の中に「英文読解の回路」をつくる(J・バーダマン), 朝日新聞出版. **単語習得関係** 3. 毎日の英単語:日常頻出語の90%をマスターする, 朝日新聞出版. 4. 読んで覚える英単語【標準編】3000語レベル, 桐原書店. 5. 読んで覚える英単語【発展編】4500語レベル, 桐原書店. 6. 英単語レポリビューション Book 1 Classic (宮岸羽会), 南雲堂. 7. 英単語レポリビューション Book 2 Renaissance I (宮岸羽会), 南雲堂. 8. 英単語レポリビューション Book 3 Renaissance II (宮岸羽会), 南雲堂. 9. 英単語レポリビューション Book 4 Modern (宮岸羽会), 南雲堂. 10. 語源で増やすサイエンス英単語(清水建二+William Currie), ベレ出版. **英文法関係** 11. 毎日の英文法:頭の中に「英語のパターン」をつくる(J・バーダマン), 朝日新聞出版. 12. 一億人の英文法(大西泰斗&ポール・マクベイ), 東進ブックス. 解説 [1,2]はいわゆる〈勉強法の概説〉である。特に英語が不得意な学生は[1]を読んで自分の英語の勉強法の建て直しを強く勧める。英語を苦手になる最大の理由は、他に良い勉強法があるのにそれを知らずに、我流の誤った勉強法を続け、さっぱり効果があがらないことである。その悪循環は早く脱した方がよい。 [3, ..., 10]はいわゆる〈単語帳〉であるが、学習が効果的になるように工夫されている。[3,4]は基礎固めに良い。品詞別の学習という方略を採用しているのが[6,7,8,9]である。[6]では動詞の使い方を、[7,8]では名詞と動詞の組み合わせ方を、[9]では形容詞の使い方を効率的に学べる。日本人が得意分野的を絞った[6]だけでも試す価値がある。[10]は自然科学で使われる英単語を語源的に解説したものである。ある程度の語彙力があり更に語彙を増やしたい場合には勧められる。 [11,12]はいわゆる〈文法書〉であるが、実用的な英語(話し言葉への適用)も射程に入れたもので、他の読解中心の文法書とは一線を画す。[11]は読み物風で気楽に読め、[12]は研究書風で説明が丁寧で詳しい。ただ、その分読み通すのは大変である。
J. 講義予定表	「添付資料」参照

学科目(班)	英語・医学英語Ⅱ(D班)
科目責任者	市川弥生子 教授(教務部長)
担当教員	非常勤講師 山田奎裕

A. 教育の基本方針	英語・医学英語Ⅱの共通項目として指定した通り。
B. 到達目標	本講座は、英文読解と英作文の能力の相互向上を目的とし、英文を的確に読み解いたうえで、英文の内容を適当に要約し、かつその内容に対しての意見を英語で主張できる能力を育む。
C. 修得すべき能力	1. 英文の内容を正確に理解できる能力。 2. 初見の英文に対し正確な読解を行い、批判的思考をもってその内容を精査できる能力。 3. 英文の内容に対し行った批判的思考を英語で発信することができる能力。
D. 学習内容	<p>【教材について】 教員が事前に用意する教材英文を用いる。</p> <p>【授業内容について】 本講座では、1つの教材英文を2週にわたり取り扱い、次に示す(1)から(4)を1つのサイクルとする:(1)教材英文の前半部の読解と解説、(2)教材英文の後半部の読解と解説、(3)教材英文全体を対象とする試験の実施、(4)試験の解説。前期はこのサイクルを2回、後期は3回行う。</p> <p>【アクティブ・ラーニングについて】 本講座では、上に示したサイクルのうち、(1)と(2)と(4)でアクティブ・ラーニングを行ってもらおう。具体的な内容は以下の通りである。 まず、(1)と(2)では、英文読解を行った後、読み取った内容の要約を英語で行ってもらおう。その後、学生に2人1組(ないしは3人1組)のペアを作ってもらい、ペアを組んだ相手の英文を読み合い、ディスカッションを行ってもらおう。この活動では、英文の内容を正確に把握した上で、内容の正誤を正しく判断する能力が求められる。なお、英文読解と内容要約の2つの精度が成績に一部反映されるため、最終的な判断・評価は教員が行う。 次に、(4)では、授業サイクル(3)で取り組んでもらった試験の解説を聞き、出題英文の内容に対する自らの意見・主張を英語で記してもらおう。この活動では、英文の内容をきちんと把握した上で、自らの意見・主張を論理的かつ客観的に記述する能力が求められる。</p>
E. 実習・課外授業	英語・医学英語Ⅱの共通項目として指定した通り。
F. 準備学習の内容	本講座を受講するにあたっての特別な予習や予備知識は前提としない。ただし、英語の運用能力というものは積み上げ式に習得されるため、既習の英文について、(1)英文の構造を的確に把握すること、(2)内容を批判的に読み解くこと、(3)内容を要約してみることを、の3点は、併せて1時間30分から2時間程度じっくり行うよう推奨する。
G. 復習学習の内容	授業で扱った英文を、英語運用における主張・論考の展開法則を意識した上で、音読することを推奨する。また、自主的なテーマを設定し、英語での主張・論考の展開を繰り返し模し習熟するよう努めるのも英語の運用能力を向上させるに有益である。
H. 成績評価の方法・基準	英語・医学英語Ⅱの共通項目として指定した通り。
I. 学習指導書	<p>教科書を購入する必要はなく、教員が英文テキストを配布する。しかし、自主学習を行う場合は、下記の教材を適宜参考にするとうい。下記の教材のうち、(R)の印は日常的な英語学習の補助教材として使えるものを、(A)の印は多少難解だが授業外での進んだ学習のために参照できるものを意味する。</p> <p>【単語学習に関するもの】 (R) 北村一真・八島純.『上級英単語 LOGOPHILIA ロゴフィリア』. アスク出版. (A) Lewis, Norman. Word Power Made Easy. Anchor.</p> <p>【文法・語法に関するもの】 (R) 中村捷.『実例解説英文法』. 開拓社. (R) 江川泰一郎.『英文法解説』. 金子書房. (A) Swan, Michael. Practical English Usage, 4th. Oxford University Press. [スワン, マイケル(著)、吉田正治(訳).『オックスフォード実例現代英語用法辞典 <第4版>』. 研究社/オックスフォード大学出版会.]</p> <p>【英文読解に関するもの】 (R) 高橋善昭.『英文読解講座 [新装復刊]』. 研究社. (A) 朱牟田夏雄.『英文をいかに読むか <新装復刊>』. 研究社.</p> <p>【英語ライティングに関するもの】 中山裕木子.『英語論文ライティング教本一正確・明確・簡潔に書く技法一』. 講談社. 長尾和夫、トーマス・マーティン.『英語で書く力。—70のサンプル・ライティングで鍛える!』. 三修社. Strunk, William., & White E. B. The Elements of Style. Longman Publishers. Swales, John M., & Feak, Christine B. Academic Writing for Graduate Students. The University of Michigan Press.</p>
J. 講義予定表	「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（A班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	2	Lesson 1 Anatomy	Class A Assessment	Khan, Fayyaz	Handout	講義
4/10	金	2	Lesson 2 Anatomy	Appendicular Musculature 1	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
4/17	金	2	Lesson 3 Anatomy	Appendicular Musculature 1	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
4/24	金	2	Lesson 4 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1	Khan, Fayyaz		講義
5/8	金	2	Lesson 5 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/15	金	2	Lesson 6 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/22	金	2	Lesson 7 Anatomy	Appendicular Musculature 2	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
5/29	金	2	Lesson 8 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2	Khan, Fayyaz		講義
6/5	金	2	Lesson 9 Anatomy	Axial Musculature	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/12	金	2	Lesson 10 Anatomy	Axial Musculature	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/19	金	2	Lesson 11 Anatomy	Axial Musculature	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
6/26	金	2	Lesson 12 Anatomy	Axial Musculature	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
7/3	金	2	Lesson 13 In-Course Assessment 3	復習のための課題 3	Khan, Fayyaz		講義
7/10	金	2	Lesson 1 Anatomy	Cardiovascular System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/4	金	2	Lesson 2 Anatomy	Cardiovascular System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/11	金	2	Lesson 3 Anatomy	Cardiovascular System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
9/18	金	2	Lesson 4 In-Course Assessment 1	復習のための課題 1	Khan, Fayyaz		講義
9/25	金	2	Lesson 5 Anatomy	Nervous System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/2	金	2	Lesson 6 Anatomy	Nervous System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/9	金	2	Lesson 7 Anatomy	Nervous System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
10/23	金	2	Lesson 8 In-Course Assessment 2	復習のための課題 2	Khan, Fayyaz		講義
11/13	金	2	Lesson 9 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
11/20	金	2	Lesson 10 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
11/27	金	2	Lesson 11 Anatomy	Gastrointestinal System	Khan, Fayyaz	Blended PBL/XR & 360° VR video	講義(AL)
12/4	金	2	Lesson 12 In-Course Assessment 3	復習のための課題 3	Khan, Fayyaz		講義

2026年度 2年 講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（B班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	2	オリエンテーション	Intro quiz, unit 1, reading & discussion, explain homework journals.	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義
4/10	金	2	Textbook materials, writing	Intro quiz, unit 2, reading & discussion, activities, 1st presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
4/17	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 3, reading & discussion, activities, 1st presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
4/24	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 4, reading & discussion, activities, 1st presentations peer review	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
5/8	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 5, reading & discussion, activities, 1st presentations part 1	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
5/15	金	2	Textbook materials, reading, speaking	Intro quiz, unit 6, reading & discussion, activities, 1st presentations part 2	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義
5/22	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, review, small group discussions, activities, 1st presentations feedback	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
5/29	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 9, reading & discussion, activities, 1st presentations feedback	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
6/5	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 10, reading & discussion, activities, 2nd presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
6/12	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 11, reading & discussion, activities, 2nd presentations peer review	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
6/19	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 12, reading & discussion, activities, 2nd presentations part 1	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
6/26	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 13, reading & discussion, activities, 2nd presentations part 2	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
7/3	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit review test, activities, presentations feedback	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義
7/10	金	2	ガイダンスと英語講演1の理解	開講案内+TED講演1の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
9/4	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/11	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/18	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の読解課題(課題1)	黒田航	スライドと配布資料	講義
9/25	金	2	英語講演2,3の理解	課題1の正解解説; TED講演2, 3の候補の試聴と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
10/2	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
10/9	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
10/23	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の読解課題(課題2)	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/13	金	2	英語講演3の理解	課題2の正解解説; TED講演3の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/20	金	2	英語講演3の理解	TED講演3の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
11/27	金	2	英語講演3の理解	TED講演3の読解課題(課題3)	黒田航	スライドと配布資料	講義
12/4	金	2	英語講演1,2,3の理解	課題3の正解解説; TED講演1, 2, 3のどれかの聴き取り課題(課題4)	黒田航	スライドと配布資料	講義

2026年度 2年 講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（C班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	2	ガイダンスと英語講演1の理解	開講案内+TED講演1の候補の試験と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
4/10	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
4/17	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
4/24	金	2	英語講演1の理解	TED講演1の読解課題(課題1)	黒田航	スライドと配布資料	講義
5/8	金	2	英語講演2の理解	課題1の正解解説; TED講演1の聴き取り課題(課題2)	黒田航	スライドと配布資料	講義
5/15	金	2	英語講演2の理解	TED講演2, 3の候補の試験と選択	黒田航	スライドと配布資料	講義(AL)
5/22	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
5/29	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/5	金	2	英語講演2の理解	TED講演2の読解課題(課題3)	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/12	金	2	英語講演3の理解	課題3の正解解説; TED講演3の解説 1/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/19	金	2	英語講演3の理解	TED講演3の解説 2/2	黒田航	スライドと配布資料	講義
6/26	金	2	英語講演3の理解	TED講演3の読解課題(課題4)	黒田航	スライドと配布資料	講義
7/3	金	2	英語講演2, 3の理解	課題4の正解解説; TED講演2か3の聴き取り課題(課題5)	黒田航	スライドと配布資料	講義
7/10	金	2	オリエンテーション	Intro quiz, unit 1, reading & discussion, explain homework journals.	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義
9/4	金	2	Textbook materials, writing	Intro quiz, unit 2, reading & discussion, activities, 1st presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
9/11	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 3, reading & discussion, activities, 1st presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
9/18	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 4, reading & discussion, activities, 1st presentations peer review	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
9/25	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 5, reading & discussion, activities, 1st presentations part 1	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
10/2	金	2	Textbook materials, reading, speaking	Intro quiz, unit 6, reading & discussion, activities, 1st presentations part 2	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義
10/9	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, review, small group discussions, activities, 1st presentations feedback	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
10/23	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 9, reading & discussion, activities, 1st presentations feedback	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
11/13	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 10, reading & discussion, activities, 2nd presentations intro	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
11/20	金	2	Textbook materials, listening	Intro quiz, unit 11, reading & discussion, activities, 2nd presentations peer review	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
11/27	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit 12, reading & discussion, activities, 2nd presentations part 1	Cameron, Colin	Medical Ethics	演習(AL)
12/4	金	2	Textbook materials, speaking	Intro quiz, unit review, reading & discussion, activities, 2nd presentations part 2	Cameron, Colin	Medical Ethics	講義

2026年度 2年 講義予定表

【英語・医学英語Ⅱ（D班）】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	2	D班趣旨説明と課題の実施	講義内容についての説明、現状確認のための課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
4/10	金	2	教材英文Ⅰ(1)	教材英文Ⅰ(前半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
4/17	金	2	教材英文Ⅰ(2)	教材英文Ⅰ(後半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
4/24	金	2	第1回授業内試験	教材英文Ⅰ(全体)を対象とする試験の実施	山田奎裕	配布資料	講義
5/8	金	2	試験の解説と課題の実施	第1回授業内試験の解説と試験振り返り課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
5/15	金	2	教材英文Ⅱ(1)	教材英文Ⅱ(前半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
5/22	金	2	教材英文Ⅱ(2)	教材英文Ⅱ(後半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
5/29	金	2	第2回授業内試験	教材英文Ⅱ(全体)を対象とする試験の実施	山田奎裕	配布資料	講義
6/5	金	2	試験の解説と課題の実施	第2回授業内試験の解説と試験振り返り課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
6/12	金	2	教材英文Ⅲ(1)	教材英文Ⅲ(前半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
6/19	金	2	教材英文Ⅲ(2)	教材英文Ⅲ(後半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
6/26	金	2	第3回授業内試験	教材英文Ⅲ(全体)を対象とする授業内試験の実施	山田奎裕	配布資料	講義
7/3	金	2	試験の解説と課題の実施	第3回授業内試験の解説と試験振り返り課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
7/10	金	2	学期末学習成果の確認	前期の学習状況を測る課題の実施	山田奎裕	配布資料	演習(AL)
9/4	金	2	後期授業導入	夏休み中の学習成果の確認課題の実施	山田奎裕	配布資料	演習(AL)
9/11	金	2	教材英文Ⅳ(1)	教材英文Ⅳ(前半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
9/18	金	2	教材英文Ⅳ(2)	教材英文Ⅳ(後半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
9/25	金	2	第4回授業内試験	教材英文Ⅳ(全体)を対象とする授業内試験の実施	山田奎裕	配布資料	講義
10/2	金	2	試験の解説と課題の実施	第4回授業内試験の解説と試験振り返り課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
10/9	金	2	教材英文Ⅴ(1)	教材英文Ⅴ(前半部)の読解と解説、ライティング活動	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
10/23	金	2	教材英文Ⅴ(2)	教材英文Ⅴ(後半部)の読解と解説、ライティング活動	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
11/13	金	2	第5回授業内試験	教材英文Ⅴ(全体)を対象とする授業内試験の実施	山田奎裕	配布資料	講義
11/20	金	2	試験の解説と課題の実施	第5回授業内試験の解説と試験振り返り課題の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
11/27	金	2	教材英文Ⅵ(1)	教材英文Ⅵ(前半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)
12/4	金	2	教材英文Ⅵ(2)	教材英文Ⅵ(後半部)の読解と解説、ライティング活動の実施	山田奎裕	スライド、配布資料	講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	実践英語 II	科目ナンバリング	FME-2B07
単位	2単位 (自由選択)	コマ数	24コマ
科目責任者	市川弥生子 教授 (教務部長)		
担当教員	学内講師 Cameron, Colin		

A. 教育の基本方針	<p>本学部の英語の授業は、M1 とM2 では「英語・医学英語 n」と「実践英語 n」(n = 1, 2) とに大別される。これら2つは異なる目的のために設計され、担当する教員のグループも分かれており、評価の方法も異なる。</p> <p>「英語・医学英語 n」の目的は教養の獲得で評価は学内試験で決まる。「実践英語 n」の目的は運用技能の向上である。本項目では「実践英語 II」の指導要領を述べる。「英語・医学英語 II」の指導要領はそれ専用の項目を参照するように。</p> <p>本授業の目的は次の二つである: 第一にM2で不足しているspeaking と writing の学習機会を追加的に提供する事(週に2コマの英語を M2の必修にするのは負担が大き過ぎる)。なお、本授業の受講生はM2には限定されない。M3, M4の学生の受講も可能である。</p>																				
B. 到達目標	<p>The main focus for this class is to provide an opportunity to develop oral proficiency and listening skills, with a secondary aim of developing reading and writing skills.</p> <p>Students will learn a variety of conversational skills and have the opportunity to practice them in both teacher-led and student-led discussions. This course will be of benefit for students who are interested in travelling abroad during their studies, and for those interested in passing English tests such as the TOEFL iBT, Eiken or IELTS.</p> <p>If students want to, they are allowed to take TOEFL ITP Level 1 together with M1 students.</p> <p>このクラスの主な目的は、口頭能力とリスニング能力を伸ばす機会を提供することであり、副次的な目的はリーディング能力とライティング能力を伸ばすことである。</p> <p>学生は様々な会話スキルを学び、教師主導と学生主導のディスカッションの両方で実践する機会を得ます。このコースは、留学中に海外旅行を希望する学生や、TOEFL iBT、Eiken、IELTSなどの英語試験に合格したい学生にとって有益なものとなるでしょう。受講者の希望があればM1と一緒にTOEFL ITP Level 1を受験する事も可能です。</p>																				
C. 修得すべき能力	<p>The ability to communicate at a reasonably high level with native English speakers in the areas of i) listening, ii) speaking and iii) reading and writing skills.</p> <p>英語を母国語とする人々と、i) リスニング、ii) スピーキング、iii) リーディングおよびライティングの各分野において、相応に高いレベルでコミュニケーションができる能力。</p>																				
D. 学習内容	<p>Materials provided by the teacher and on occasion selected by the students.</p> <p>教材は教師が用意し、学生が選択することもある。</p> <table border="1" data-bbox="371 1339 1268 2130"> <tr> <td colspan="2">Term 1 (Spring)</td> </tr> <tr> <td>Week 1: Overview of the Course</td> <td>Course aims, study advice, rubrics, class method</td> </tr> <tr> <td>Week 2: Integrated speaking task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate</td> </tr> <tr> <td>Week 3: Integrated speaking task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share</td> </tr> <tr> <td>Week 4: Independent speaking & listening task</td> <td>Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions</td> </tr> <tr> <td>Week 5: Independent speaking & reading task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys</td> </tr> <tr> <td>Week 6: Independent speaking & reading task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration</td> </tr> <tr> <td>Week 7: Independent speaking & listening task</td> <td>Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions</td> </tr> <tr> <td>Week 8: Integrated speaking & writing task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study</td> </tr> <tr> <td>Week 9: Integrated speaking & writing task</td> <td>Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study</td> </tr> </table>	Term 1 (Spring)		Week 1: Overview of the Course	Course aims, study advice, rubrics, class method	Week 2: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate	Week 3: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share	Week 4: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions	Week 5: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys	Week 6: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration	Week 7: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions	Week 8: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study	Week 9: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study
Term 1 (Spring)																					
Week 1: Overview of the Course	Course aims, study advice, rubrics, class method																				
Week 2: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate																				
Week 3: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share																				
Week 4: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions																				
Week 5: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys																				
Week 6: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration																				
Week 7: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions																				
Week 8: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study																				
Week 9: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study																				

	Week 10: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 3, AL Small Group Discussions
	Week 11: Independent writing & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 7, AL Case Study
	Week 12: Integrated speaking & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 8, AL Self/Peer Formative Assessment
	Week 13: Term 1 Review	Term 1 Review
	Term 2 (Fall)	
	Week 1: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate
	Week 2: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share
	Week 3: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions
	Week 4: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys
	Week 5: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration
	Week 6: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions
	Week 7: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study
	Week 8: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study
	Week 9: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 3, AL Small Group Discussions
	Week 11: Independent writing & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 7, AL Self/Peer Formative Assessment
	Week 12: Term 2 Review	Term 2 Review
E. 実習・課外授業	実施せず。	
F. 準備学習の内容	詳細は担当教員の指示に従うように。 所要時間の目安：各コマ75分程度	
G. 復習学習の内容	詳細は担当教員の指示に従うように。 所要時間の目安：各コマ75分程度	
H. 成績評価の方法・基準	出席、並びにクラス内での技能と課題によって評価する。 授業内外の課題の正解を授業内かオンラインで解説し、これをフィードバックとする。毎回の授業開始時に、前回の授業内容に関するフィードバックが行われ、試験の成績についても詳細なフィードバックが行われる。	
I. 学習指導書		
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	授業で用いる資料は講師が適宜配布する。	
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの	
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの	
J. 講義予定表		

2026年度 2年 講義予定表

【実践英語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	5	Week 1: Overview of the Course	Course aims, study advice, rubrics, class method	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
4/17	金	5	Week 2: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
4/24	金	5	Week 3: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/8	金	5	Week 4: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/15	金	5	Week 5: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/22	金	5	Week 6: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
5/29	金	5	Week 7: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/5	金	5	Week 8: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/12	金	5	Week 9: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/19	金	5	Week 10: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 3, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
6/26	金	5	Week 11: Independent writing & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 7, AL Case Study	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
7/3	金	5	Week 12: Integrated speaking & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 8, AL Self/Peer Formative Assessment	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
7/10	金	5	Week 13: Term 1 Review	Term 1 Review	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/4	金	5	Week 1: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 1, AL Debate	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/18	金	5	Week 2: Integrated speaking task	Discussion skills, Teacher Topic 2, AL Think-Pair-Share	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
9/25	金	5	Week 3: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 1, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/2	金	5	Week 4: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 3, AL Formative quizzes/surveys	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/9	金	5	Week 5: Independent speaking & reading task	Discussion skills, Teacher Topic 4, AL Debate Exploration	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/23	金	3	Week 6: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 2, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
10/23	金	5	Week 7: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 5, AL Case Study	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/13	金	5	Week 8: Integrated speaking & writing task	Discussion skills, Teacher Topic 6, AL Case Study	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/20	金	5	Week 9: Independent speaking & listening task	Discussion skills, Student Topic 3, AL Small Group Discussions	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
11/27	金	5	Week 11: Independent writing & listening task	Discussion skills, Teacher Topic 7, AL Self/Peer Formative Assessment	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)
12/4	金	5	Week 12: Term 2 Review	Term 2 Review	コリン・キャメロン	配布資料/スライド	講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	フランス語Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2B11
単位	2単位（自由選択）	コマ数	24コマ
科目責任者	市川弥生子 教授（教務部長）		
担当教員	非常勤講師 鈴木良和		

A. 教育の基本方針	発音に留意しつつ、中級、上級の文法の習得を目指します。さらに一般教養科目としての役割もはたせるよう、フランスの社会や文化についての情報も提供するつもりです。
B. 到達目標	フランス語の仕組みを、文法レベルで全体的に眺めることができるようになることが期待されます。同時に「外国語を学ぶこと」についての基本的な作法も身につけてもらいたいと考えています。フランス語に限らず、将来なんらかの外国語の習得に迫られたときに独学できる能力を備えてもらうのが理想です。この能力を鍛えることによって、異なる文化的背景をもつ人々とのコミュニケーション能力を向上させることが期待されます。
C. 修得すべき能力	1. 中級レベル以上の文法書を読み通すことができる。 2. 様々な媒体を使い、基礎的な文法問題を解決することができる。 3. 辞書を使ってフランス語の文章が読めるようになる。
D. 学習内容	1年次の初級文法の確認をしながら文法の学習を深めます。参加者のレベルを考えながら進めていくので、1年次の勉強で不安を覚えた人でも大丈夫です。フランス語検定3級から準2級程度の学力をつけることができるよう指導します。アクティブ・ラーニングの一環として、理解度を高めるための小テストを随時行います。
E. 実習・課外授業	1. 実習 なし 2. 課外授業 なし
F. 準備学習の内容	特に予習は必要ありません。1年次の学習内容に不安がある場合は復習をしておいてください。
G. 復習学習の内容	講義内容は、授業で使用した教科書以外の参考書やNHKのラジオ講座など他の媒体で補完しつつ復習するのが望ましい。各コマ150分程度。
H. 成績評価の方法・基準	1. 試験の方針 定期試験を行う。 2. 試験の期日と実施方法 二回実施する。再試験は実施しない。 3. 評価方法 4の判定基準に基づいて評価する。 4. 判定基準 定期試験、および出欠状況。 【評価配分：試験（40%）、出欠状況（60%）】 5. フィードバックの方法 試験実施後に解説を行う。

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	大阪大学『新・フランス語文法』編纂部会『新・フランス語文法』朝日出版社、2023年（四訂版）
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) プログレッシブ仏和辞典（小学館）、ロワイヤル仏和中辞典（旺文社）、スタンダード仏和辞典（大修館）、ロベール仏和辞典（小学館）などの仏和辞典。またLe Petit Robertなどの仏仏辞典。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	授業中に指示する。 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【フランス語Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	4	オリエンテーション	昨年度学習した文法事項について復習を行う。	鈴木良和	資料配布	講義
4/17	金	4	第8課	さまざまな否定表現と複合過去について学ぶ。複合過去は英語の現在完了と同じ形を取るが、現在完了と違って過去の出来事について述べる場合に用いられる。	鈴木良和	p. 46-50	講義
4/24	金	4	第9課	命令法と受動態について講義する。フランス語の命令法は1人称複数形を使った提案表現を含む。つまり「○○しよう」といういい方である。形式自体は易しい。フランス語の受動態は英語と同じように「être+過去分詞」で表現される。	鈴木良和	p. 51-54	講義
5/8	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文章を読解する。2024年夏に開催されたパリオリンピック・パラリンピックについての記事を読む。	鈴木良和	資料配布	講義
5/15	金	4	第10課+小テスト	中性代名詞と指示代名詞について学ぶ。フランス語の中性代名詞にはle、en、yの三種類があり使い方が少し複雑なので、その点について重点的に解説していく。またAL(アクティブ・ラーニング)の一環として、これまでの学習の理解度を確認するための小テストを行う。	鈴木良和	p. 55-59	講義(AL)
5/22	金	4	第11課	半過去について学ぶ。すでに複合過去形を学習したが、フランス語には過去をあらわす時制が5つある。複合過去との違いに注意しながら、半過去形について解説する。また大過去についても講義する。	鈴木良和	p. 60-64	講義
5/29	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文章を読解する。2019年に大規模な火災が発生したパリのノートルダム寺院についての記事を読む。	鈴木良和	資料配布	講義
6/5	金	4	第12課	代名動詞と過去分詞の一致について学ぶ。再帰代名詞を伴った動詞を代名動詞といい、フランス語ではよく用いられる。	鈴木良和	p. 65-69	講義
6/12	金	4	会話と発音	シチュエーションを設定し、簡単な会話の練習をする。発音の確認もおこなう。パン屋で買い物してみよう。	鈴木良和	資料配布	講義
6/19	金	4	第13課	非人称構文と単純未来について講義する。英語では助動詞を使うことで未来を表現するが、フランス語では動詞を活用させることにより表現する。	鈴木良和	p. 71-74	講義
6/26	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文章を読解する。フランス大統領エマニュエル・マクロンとフランス議会についての記事を読む。	鈴木良和	資料配布	講義
7/3	金	4	定期試験	文法項目について、総合的な問題を出題する。	鈴木良和	試験	試験
7/10	金	4	期末試験解説	テストの解説に1コマをすべて使い、丁寧に解説していく。	鈴木良和	試験解説	講義
9/4	金	4	会話と発音	シチュエーションを設定し、簡単な会話の練習をする。発音の確認もおこなう。パリの市場と食料品店で買い物してみよう。	鈴木良和	資料配布	講義
9/18	金	4	長文読解	これまでに学習した文法の知識を用いて、実際にフランス語の文章を読解する。フランス語が話されているのはフランスだけではない。フランコフォニーについての記事を読み、アフリカにおけるフランス語について考えてみたい。	鈴木良和	資料配布	講義
9/25	金	4	第14課	現在分詞とジェロンディフについて説明する。分詞構文は基本的には英語と同じであるが、フランス語には「en+現在分詞」の形をとるジェロンディフという用法がある。	鈴木良和	p. 75-78	講義
10/2	金	4	第15課	前置詞とともに用いる疑問代名詞、関係代名詞について講義する。また間接疑問文の作り方についても学ぶ。	鈴木良和	p. 79-83	講義
10/9	金	4	会話と発音	シチュエーションを設定し、簡単な会話の練習をする。発音の確認もおこなう。フランスのレストランで注文してみよう。	鈴木良和	資料配布	講義
10/23	金	3	第16課	条件法について講義する。英語では婉曲表現に助動詞を使用するが、フランス語では条件法を用いる。また仮定を示す表現にも使用される。	鈴木良和	p. 84-87	講義
10/23	金	4	第17課+小テスト	接続法について講義する。接続法は基本的にはque以下の従属節において用いられる叙法である。しかし、従属節であれば必ず接続法を用いるわけではないため、使用する動詞に応じて確認しなければならない。またAL(アクティブ・ラーニング)の一環として、これまでの学習の理解度を確認するための小テストを行う。	鈴木良和	p. 88-92	講義(AL)
11/13	金	4	第18課	単純過去と前過去について講義する。単純過去は日常会話では使われないが、書き言葉、文学作品には非常によく使われる。	鈴木良和	p. 93-96	講義
11/20	金	4	会話と発音	シチュエーションを設定し、簡単な会話の練習をする。発音の確認もおこなう。フランスのホテルで予約してみよう。	鈴木良和	資料配布	講義
11/27	金	4	定期試験	文法項目について、総合的な問題を出題する。	鈴木良和	試験	試験
12/4	金	4	定期試験解説	テストの解説に1コマをすべて使い、丁寧に解説していく。	鈴木良和	試験解説	講義

年度	2026年度	学年	2年
学科目	肉眼解剖学 II	科目ナンバリング	FME-2C02
単位	5単位	コマ数	123コマ
科目責任者	長瀬美樹 教授 (肉眼解剖学教室)		
担当教員	教授 長瀬美樹 (肉眼解剖学教室)、徳嶺譲芳 (麻酔科学教室)、森井健司 (整形外科科学教室)、丸山啓介 (医療管理学教室)、遠藤英仁 (心臓血管外科学教室)、阪本良弘 (消化器・一般外科学教室)、谷垣伸治 (産科婦人科学教室)、北善幸 (眼科学教室)、増田正次 (耳鼻咽喉科学教室) 特任教授 森秀明 (医学教育学教室) 客員教授 松村譲児 (肉眼解剖学教室) 講師 上野仁之 (肉眼解剖学教室)、大石篤郎 (肉眼解剖学教室) 学内講師 本保晃 (麻酔科学教室) 助教 竹下祐平 (放射線医学教室)、平田佳史 (呼吸器・甲状腺外科学教室)、寺田さとみ (病態生理学教室)		

A. 教育の基本方針	<p>肉眼解剖学は、医師を志す学生が人体の正常構造を理解するための基盤となる科目である。解剖学実習は、医学生が「人体から直接情報を得る」最初の実践的訓練であり、単なる知識の習得にとどまらず、剖出と観察を通じて人体構造を体感し、正確な立体的イメージを形成することを目的とする。</p> <p>本教科では、実習を通して観察力を養い、人体構造と機能の統理解を深めるとともに、人間に向き合う姿勢を涵養することを教育目標とする。医師を志す者にとって、学生の段階から専門職としての自覚を持つことは不可欠である。常に誇りと責任をもって学修に臨み、真摯さと謙虚さを失わない態度を貫かなければならない。</p> <p>解剖学実習は、医学教育の中でも「唯一無二の機会」である。本教科は、この特別な経験を通じて、医師を目指す者としての自覚を強く促す。学生はその重みを深く認識し、「医師を目指す者としての自覚」をもって自らを律し、専門職にふさわしい態度を確立することを最重要課題とする。</p> <p>さらに、気管挿管など医療現場で求められる基本的臨床手技を体験し、その実践に不可欠な解剖学的知識を修得する。本教科では、生理学講義と連動させた二軸統合（水平統合・垂直統合）の教育を通じて、呼吸の解剖と生理を結びつけ、人工呼吸の基本概念を構造的な理解へと接続する。解剖体に人工呼吸器を接続し換気を行った状態を教育的に提示することで、換気様式と胸郭運動の関係を体験として理解させ、基礎医学の臨床的意義を明確化する。また、ご遺体のオートプシー・イメージング（死後CT・MRI画像）と解剖学実習を関連づけることで、医用画像を解剖学的に理解し、読影の基礎を身につけることも目標とする。</p>				
B. 到達目標	<p>医師に求められる医学知識の根幹となる人体の正常構造について、ご遺体から直接情報を収集してイメージを身につけ、その概略を説明することができる。人体の構造を機能と関連づけて理解し、疾病の成り立ちを説明することができる。人体の各部の三次元的配置、横断画像を想起し、医用画像の読影に活用できる。解剖学の知識が臨床医学にどのように接続されるかを理解し、その臨床的意義を説明できる。命の尊厳、医師という職業の重み、献体者への感謝の念を心に刻み、高い倫理観、他者への礼意をもって接することができる。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,④,⑥,⑦、実習：(1)-①,②,④、(2)-①,②,④,⑥,⑦、(3)-②,③,④</p>				
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体構造の立体的イメージを把握したうえで、生理機能および主要な病態との関連を説明できる。 2. 身体の中に埋もれている臓器の位置関係および境界を見極め、系統解剖に基づいて適切に剖出する手法を修得する。 3. 自ら問いを設定し、ご遺体と真摯に向き合い観察を重ねることで、根拠に基づいて考察し答えを導き出す問題解決能力を身につける。 4. 献体者の崇高なご意思に報いる姿勢を持ち、命の尊厳および医の倫理について熟考し、医師としての社会的責任を自覚し、感謝の気持ちを持って実習に臨む態度を身につける。 5. ALではグループワークでご遺体と死後の医用画像を比較しその結果の発表を行い、医用画像の基礎知識や生体と画像の相違点を学び、コミュニケーション能力や情報・科学技術の活用法を身につける。 6. 解剖学の知識が臨床医学へと接続される過程を理解し、その臨床的意義を説明できる。 				
D. 学習内容	1. 講義				
	項目	概要	期	コマ	担当
	実習講義	人体の構造と機能について、解剖実習とリンクするよう、講義する	前	16	長瀬、松村、上野、大石
	特別講義	臨床各科(放射線科、整形外科、救急医学、呼吸器・甲状腺外科、医学教育学、消化器・一般外科、眼科、産科婦人科、耳鼻咽喉科)の担当者が、手術ビデオや医用画像の供覧を交えて、専門領域について解剖学と関連づけた講義を行う	前	10	徳嶺、森井、阪本、谷垣、遠藤、増田、丸山、北、森、寺田、竹下、平田、本保
	脳実習講義	脳の構造と機能について講義する	前	2	長瀬、松村
	実習講義（アクティブラーニング）	死後CT画像について講義した後、実習体のCT画像（配布）を読影して異常所見を見つけ出す（グループワーク）。	前	1	上野、長瀬、松村、大石
E. 実習・課外授業	<p>1. 実習の基本方針</p> <p>解剖学実習、脳実習は「人体から直接情報を得る最初の経験」であり「人生唯一度の機会」である。日々真摯な態度でご遺体と向き合い、五感を駆使し、ご遺体が発する情報を獲得する術を身につけ、教科書や講義で得た知識と有機的にリンクさせて人体の三次元構造を体得することを目標とする。同時に、人体の神秘、命の尊厳、医師という職業の重み、献体者への感謝の念を心に刻む機会でもある。学生はこの経験を通じて精神的にも成長し、専門職としての自覚をより確かなものとするのが求められる。さらに、本実習で得た構造理解は、将来の診察、手技、医用画像の読影、さらには臨床判断の基盤となるものである。解剖で目にした立体構造を臨床場面へと接続する意識を常に持ち、基礎医学の学修を臨床医学へと橋渡しする姿勢を養うことが重要である。実習の成果は自学自習によってもたらされるので、必ずマニュアルで予習し、剖出・観察の目標をもって主体的・能動的に実習に臨むこと。限られた時間内に集中して学習することが重要であり、「後でまとめてやる」という逃避行動は許されない。準備もせずに実習室に顔を出すのみであったり、自ら剖出せず傍観に終始するのであれば、それは人生唯一度の機会を無駄にするだけでなく、献体者に対して著しく礼を欠く行為であ</p>				

る。礼を欠いた段階で「解剖」ではなく「死体損壊」となる。

2. 実習講義・実習の項目

項目	概要
解剖学実習	ご遺体を用いて人体を構成する構造を剖出し、名称、形状、走行、周囲臓器との位置関係、生理機能を修得する。 [体壁、上下肢、胸腹部内臓（呼吸器系、循環器系、消化器系、泌尿生殖器系）、脊髄、末梢神経系（脳神経、脊髄神経、自律神経）、頭頸部諸器官] ご遺体のCT（配布）と胸腹部臓器の肉眼所見を対比しながら解剖する。
解剖学実習・解剖学演習（アクティブラーニング）	柔らかい固定のご遺体を用いて気管挿管手技を体験する。事前にstudent teacher役の学生に手技を教え、学生が学生に教えるアクティブラーニング形式で実施する。 また、人工呼吸を行った状態で換気モードの概念を短時間解説し、概念を理解する。 CT課題（実習体のCT画像の異常所見と肉眼解剖所見を対比する）をグループ毎に発表する。
脳実習	解剖体より摘出し固定した脳の各部の構造を剖出し、肉眼所見を観察精査し、ご遺体のMRI画像と対比させ、三次元的配置や機能を修得する。 終脳（終脳皮質・脳葉・脳溝・脳回・機能局在・大脳基底核・海馬）、間脳（視床・視床下部）、脳幹（中脳・橋・延髄）、小脳、脳神経、動静脈・髄膜・脳室・脈絡叢・連合／交連／投射線維・錐体路・線維束剖出

3. 実習のオリエンテーションと持ち物、注意事項

初日（4月7日）に解剖実習オリエンテーションを行い、実習の概要、心構え、注意、班分け、試験について説明する。実習班は学生番号順ではなく、ランダムに班を設定する（実習途中での変更は行わない）。

実習では解剖衣（ガウンまたは防水エプロン）・汚れてもよい普段着・サンダル・不織布マスクを着用し、解剖用具（外科剪刀、眼科剪刀、ピンセット、イカ頭ピンセット、ゾンデ）・実習マニュアル・図譜（班で1冊準備する）・筆記用具を必ず持参する。実習室では専用の解剖衣を着用し、実習室の外に出る際には脱ぐ。貴重品はロッカーにしまい、実習室には持参しない。脳実習時には解剖衣・手術着ではなく、白衣を着用する。身だしなみに注意する（シワだらけの白衣、土足、スリッパ、ハイヒールは厳禁、長髪は束ねる、爪は短く切っておく）。サンダルはメスを落とした時に怪我をしないようにつま先が隠れるものにする。解剖用具には自分の物であることがわかる目印をつけておく。〔注：外科剪刀は合わせ（支点）の内側にそれぞれの番号が刻印されているので、自分のハサミの番号は必ず覚えておくこと。〕一括購入した手袋、メス、ペーパータオルは実習時に直接配布するので持参する必要はない。

実習室内での以下の行為は厳禁である。

①写真撮影（カメラ・スマホ・タブレット等の撮影可能機器の持ち込み禁止）

②標本・パネルの持ち出し、持ち歩き

③飲食物の持ち込みと飲食・飲酒・喫煙

④図書館の本の持ち込み

※献体者に対して礼意を欠く行為は厳禁である。

4. 欠席連絡方法

実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。

課外授業：積極的に参加して、様々なことにチャレンジしてほしい。

1. 解剖実習中に教科書やアトラスの記載と異なる「破格」例を見つけた場合に、学会発表に向けた準備の指導を行う。

2. 肉眼解剖学教室で行っている基礎研究や、解剖体を用いた研究、メディカルイラストレーションなどに興味を持つ学生を対象に、研究室に受け入れ、指導を行う。

3. 臨床の教室と共同で臨床手技体験セミナーを開催することがある。

F. 準備学習の内容

事前にシラバスの「実習テーマ」「実習内容」に目を通し、実習マニュアルの該当ページを読み、実習で剖出・観察する構造名を書き出し、実習内容、剖出の手順を説明できる状態で実習に臨むこと。図譜の該当ページをみてイメージトレーニングしておく。胸腹部に関してはCT画像も目を通しておくと実習体の状態が把握出来る。所要時間の目安：各コマ75分程度。

G. 復習学習の内容

実習マニュアルを中心に、図譜・教科書・講義資料で定義や機能、走行などを調べ、自分なりの「解剖学事典」を作成してみる。その際、必ず自分で模式図を作成し、その模式図を使って説明できるようにする。記憶定着アプリ（Monoxer）で配信された課題（解剖学用語英単語、医用画像など）を学習する。所要時間の目安：各コマ75分程度。

H. 成績評価の方法・基準

1. 受験資格

欠席回数が講義または実習コマ数の1/3を超える場合、あるいは講義・実習の態度について指導を受けたにもかかわらず改善が認められない場合には、実習試験や筆記試験の受験資格および以後の実習参加を認めないことがある。ただし、特別な理由がある場合、長期加療が必要な場合は教務係と相談のうえ、可能な範囲で対応するので無理せず早めに連絡すること。実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。

2. 評価方法（形成的評価と総括的評価）

①形成的評価：講義後には Microsoft Forms を用いた確認テストを実施し、学生が自身の理解度を客観的に把握する。これにより、学習到達度を可視化し、教員は理解が不十分な学生を早期に把握して個別指導を行う。実習後にはブリーフィングシートを用い、班員がその日に観察した構造を確認・記録し、学生同士の相互評価と自己省察を促す。最後に教員が内容をチェックし、口頭および記述によるフィードバックを行うことで、自己調整学習（self-regulated learning）の定着を図る。

②総括的評価：ご遺体を用いた実地試験を3回（浅層／骨・深層・脳）行い、実習のモチベーション向上をはかり、実習態度や知識の定着、三次元的理解を確認する。CTやMRI問題も出題し、解剖の知識の医用画像への応用を促す。筆記試験にて実習で修得した知識の総合確認を行う。浅層／骨・深層試験では試験後すぐに採点・返却し、試験の模範解答と成績のヒストグラムを開示し、学生にフィードバックする。成績不振学生を早期に抽出し指導する。質問に対しては、メールまたは直接教室にて対応する。

③履修態度：本授業では、医師として求められる基本的専門職行動（professional behavior）の形成を重視し、これを単位認定の必須要件とする。講義においては、出席状況および確認テストの提出状況をもって学習参加状況を確認する。肉眼解剖学実習においては、

教員が巡回し、実習手順の遵守、ご遺体の適切な取り扱い、班内での協働姿勢、教員の指示への適切な対応など、観察可能な行動を確認する。実習終了時にはプリーフィングのチェックを行い、学習内容の理解状況および誠実な取り組み姿勢を評価する。またCT/MRI課題とその発表会、ご遺族への手紙、特別講義・特別実習後のアンケート提出なども評価する。不適切な行動が認められた場合は是正指導を行う。指導後も改善が認められない場合、または重大な不適切行為があった場合には、単位を認定しないことがある。本評価は、本学ディプロマ・ポリシーに掲げる倫理観、責任感および協働性の涵養と対応するものである。

3. 試験の期日と実施方法
 実習試験（浅層/骨）（5月7日3～4限）、実習試験（深層）（6月15日1～2限）、実習試験（脳）（7月6日4～5限）は解剖実習室にて実際のご遺体を用いた筆答試験形式で実施し、人体構造に対するイメージの取得成果を評価する。
 筆記試験1は5月7日2限に301・302講義室にて行う。筆記試験2は6月15日3限に301・302講義室にて行う。
 試験の解答に使用する用語は、原則として英語・日本語とも解剖学用語（改訂13版）掲載の用語を以て正解とする。
 ※再履修生も、（全履修生共通の）実習試験、筆記試験を受ける。希望者には、実習試験前に解剖体を観察する機会を設ける。

4. 判定基準
 実習試験および筆記試験の合格判定は、下記1) 2) 3) に記す評価方法で別個に行う。なお、3つの試験（実習試験（浅層/骨）、実習試験（深層）、実習試験（脳））のうち、1つでも受験資格を喪失した場合、科目の評価は不合格となる。
 1) 実習試験：実習試験（浅層/骨）(30点)、実習試験（深層）(40点)、実習試験（脳）(30点)で換算し、総合点100点として6割以上を合格とする。4月9日5限の試験は実習試験の最終成績に加味する。AL課題は発表内容・発表態度を評価し実習試験の総合点に加味する。不合格者に対しては学年末に画像による再試験を行う。
 2) 筆記試験：筆記試験1(40点)、筆記試験2(60点)で換算し、総合点100点として6割以上を合格とする。不合格者に対しては学年末に筆記形式による再試験を行う。
 実習試験、筆記試験とも試験欠席者に対しては、杏林大学医学部試験規則第10条に準じて対応する。
 3) 最終評価：実習試験、筆記試験ともに合格に達していた場合、その平均点を学年試験の最終成績とする。合格点に達しなかった試験には再試験を行う。
 実習再試験受験者の最終成績は、浅層/深層実習再試験（75点満点に換算）および脳実習本試験（25点満点に換算）の合計を素点（60点を最高限度）として報告される。
 筆記再試験受験者の最終成績は、筆記再試験の点数を素点（60点を最高限度）として報告される。
 再試験受験者は実習再試験、筆記再試験の素点をもとに、その平均点を学年試験の最終成績（60点を最高限度）として報告する。最終判定については、試験の成績の他、履修態度等も含め総合的に行う。
 ※再履修生も、上記評価基準にて判定する。

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	○イラスト解剖学 第10版：中外医学社 ○ネッター解剖学アトラス 第7版：南江堂
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R)解剖生理がわかる 全身をめぐる血管系の旅：メジカルビュー社 (R)臨床につながる解剖学イラストレイティッド：羊土社 (R)カラー図解 人体の正常構造と機能 縮刷版第5版：日本医事新報社 (R)ムーア臨床解剖学 第3版：MEDSI (R)グレイ解剖学 原著第5版：エルゼビア・ジャパン (R)カラー図解 神経解剖学講義ノート：金芳堂 (R)プロメテウス解剖学アトラス 頭部/神経解剖（脳実習用） (R)解剖学カラーアトラス（Rohen・横地）第9版：医学書院 (R)プロメテウス解剖学コアアトラス第4版：医学書院 (R)医学大辞典WEBパッケージ アカデミック専用6年版：医学書院 (R)解剖学用語 改訂13版：医学書院（試験の解答はこれに則る） ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(A)解剖学講義 第3版：南山堂 (A)標準解剖学：医学書院 (R)カラー図解 新しい人体の教科書 上下（ブルーボックス） (R)カラー図解 脳神経ペディア～解剖と機能が見える・つながる事典：羊土社 (A)フィッツジェラルド カラー 臨床神経解剖学—機能的アプローチ：西村書店 (A)プロメテウス解剖学アトラス（3冊組）：医学書院 (A)グラント解剖学図譜 第7版：医学書院 (A)ソボッタ解剖学アトラス 原書24版（3冊組）：丸善出版 (R)医学大辞典 改訂20版：南山堂 (R)ステッドマン医学辞典（英和・和英）第6版：メジカルビュー社 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/3	金	1	解剖学実習オリエンテーション	解剖学実習序論・解剖学実習と倫理・関連する法律・献体の趣旨・実習の説明と諸注意・試験/特別講義/特別実習について	長瀬美樹	配布資料	講義
4/6	月	3	実習講義 1	体表解剖 1・皮膚の構造と皮膚剥離・動脈と神経と筋肉の同定・背面浅層の筋 (実習1の説明)	松村譲児	配布資料	講義
4/7	火	1	解剖学実習準備 解剖用品販売 (4階空きスペース)	選抜者は準備作業 (於解剖実習室) 他の学生は解剖衣等の購入 (別途指示)	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎		実習
4/7	火	2	解剖学実習準備 解剖用品販売 (4階空きスペース)	選抜者は準備作業 (於解剖実習室) 他の学生は解剖衣等の購入 (別途指示)	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎		実習
4/7	火	3	解剖実習 1: 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・大殿筋・神経 (副神経・脊髄神経前枝・後枝)・聴診三角	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/7	火	4	解剖実習 1: 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・大殿筋・神経 (副神経・脊髄神経前枝・後枝)・聴診三角	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/7	火	5	解剖実習 1: 背面の皮膚剥離と浅背筋の解剖	皮膚・僧帽筋・広背筋・大小菱形筋・肩甲挙筋・大殿筋・神経 (副神経・脊髄神経前枝・後枝)・聴診三角	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/9	木	5	スライド試験 (202・203)	春休み課題のスライド試験	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎		試験
4/13	月	1	実習講義 2	デルマトーム・乳房・胸腹壁の筋・固有背筋と神経 (実習2の説明)	上野仁之	配布資料	講義
4/13	月	2	実習講義 3	頸部の筋・神経・血管・頸部内臓・頸根部血管の解剖 (実習2,3の説明)	長瀬美樹	配布資料	講義
4/13	月	3	解剖実習 2: 前面の皮膚剥離・乳房・胸腹壁・頸部の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳房・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・鼠径靭帯・腹直筋・頸部リンパ節・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨下筋・頸神経ワナ	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/13	月	4	解剖実習 2: 前面の皮膚剥離・乳房・胸腹壁・頸部の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳房・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・鼠径靭帯・腹直筋・頸部リンパ節・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨下筋・頸神経ワナ	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/13	月	5	解剖実習 2: 前面の皮膚剥離・乳房・胸腹壁・頸部の筋の解剖	皮膚・デルマトーム・乳房・大胸筋・小胸筋・前鋸筋・外腹斜筋・鼠径靭帯・腹直筋・頸部リンパ節・胸鎖乳突筋・副神経・舌骨下筋・頸神経ワナ	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/14	火	2	実習講義 4	腕神経叢・上肢の筋・神経・血管・肩関節・肘関節の解剖 (実習4-8の説明)	上野仁之	配布資料	講義
4/14	火	3	解剖実習 3: 頸部の解剖	舌骨上筋・頸動脈三角・総頸動脈・内頸静脈・迷走神経・外頸動脈と枝 (上甲状腺動脈)・内頸動脈・顎下三角・顎下腺・筋三角・甲状腺・副甲状腺・気管・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/14	火	4	解剖実習 3: 頸部の解剖	舌骨上筋・頸動脈三角・総頸動脈・内頸静脈・迷走神経・外頸動脈と枝 (上甲状腺動脈)・内頸動脈・顎下三角・顎下腺・筋三角・甲状腺・副甲状腺・気管・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/14	火	5	解剖実習 3: 頸部の解剖	舌骨上筋・頸動脈三角・総頸動脈・内頸静脈・迷走神経・外頸動脈と枝 (上甲状腺動脈)・内頸動脈・顎下三角・顎下腺・筋三角・甲状腺・副甲状腺・気管・鎖骨下筋・鎖骨切除	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/16	木	2	実習講義 5	下肢の筋・神経・血管・コンパートメント・股関節・膝関節の解剖 (実習6-8の説明)	大石篤郎	配布資料	講義
4/16	木	3	解剖実習 4: 鎖骨部・腕神経叢・腋窩・橈骨動脈の解剖	前斜角筋・横隔神経・斜角筋・腕神経叢・鎖骨下動脈と枝 (椎骨・内胸・甲状頸動脈・下甲状腺動脈)・鎖骨下静脈・内頸静脈・左右腕頭静脈・左右総頸動脈・左右鎖骨下動脈・腕頭動脈・静脈角・胸管・腋窩・腋窩静脈・橈側皮静脈・腋窩動脈と枝・尺側皮静脈・肘正中皮静脈・橈骨動脈	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/16	木	4	解剖実習 4: 鎖骨部・腕神経叢・腋窩・橈骨動脈の解剖	前斜角筋・横隔神経・斜角筋・腕神経叢・鎖骨下動脈と枝 (椎骨・内胸・甲状頸動脈・下甲状腺動脈)・鎖骨下静脈・内頸静脈・左右腕頭静脈・左右総頸動脈・左右鎖骨下動脈・腕頭動脈・静脈角・胸管・腋窩・腋窩静脈・橈側皮静脈・腋窩動脈と枝・尺側皮静脈・肘正中皮静脈・橈骨動脈	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/16	木	5	解剖実習 4: 鎖骨部・腕神経叢・腋窩・橈骨動脈の解剖	前斜角筋・横隔神経・斜角筋・腕神経叢・鎖骨下動脈と枝 (椎骨・内胸・甲状頸動脈・下甲状腺動脈)・鎖骨下静脈・内頸静脈・左右腕頭静脈・左右総頸動脈・左右鎖骨下動脈・腕頭動脈・静脈角・胸管・腋窩・腋窩静脈・橈側皮静脈・腋窩動脈と枝・尺側皮静脈・肘正中皮静脈・橈骨動脈	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	月	2	解剖実習 5: 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋 (三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・上腕三頭筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋)と支配神経 (脊髄神経前枝)・回旋筋腱板・腋窩動脈と枝・上腕動脈・腕神経叢 (筋皮/正中/尺骨/橈骨/腋窩神経など)・外側/内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	月	3	解剖実習 5: 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋 (三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・上腕三頭筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋)と支配神経 (脊髄神経前枝)・回旋筋腱板・腋窩動脈と枝・上腕動脈・腕神経叢 (筋皮/正中/尺骨/橈骨/腋窩神経など)・外側/内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	月	4	解剖実習 5: 腋窩・肩・上腕の解剖	腋窩・肩～上腕の筋 (三角筋・棘上筋・棘下筋・肩甲下筋・小円筋・大円筋・上腕三頭筋・烏口腕筋・上腕二頭筋・上腕筋)と支配神経 (脊髄神経前枝)・回旋筋腱板・腋窩動脈と枝・上腕動脈・腕神経叢 (筋皮/正中/尺骨/橈骨/腋窩神経など)・外側/内側腋窩隙	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/20	月	5	特別講義	整形外科特別講義	森井健司	配布資料	講義
4/21	火	1	脳講義 1	神経解剖のオーバービュー・脳血管	長瀬美樹	配布資料	講義
4/21	火	2	脳講義 2	大脳基底核・辺縁系・小脳の機能と疾患	大石篤郎	配布資料	講義
4/21	火	3	解剖実習 6: 股部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	大腿屈筋群 (ハムストリングス)・驚足・坐骨神経・坐骨結節・殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・膝窩・下腿三頭筋・浅/深後方コンパートメント・屈筋支帯 (足根管)・脛骨神経・後脛骨動脈・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・脊柱起立筋 (棘筋・最長筋・腸肋筋)・支配神経 (脊髄神経後枝)	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2026年度 2年 講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/21	火	4	解剖実習6： 殿部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	大腿屈筋群（ハムストリングス）・驚足・坐骨神経・坐骨結節・殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・膝窩・下腿三頭筋・浅／深後方コンパートメント・屈筋支帯（足根管）・脛骨神経・後脛骨動脈・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・脊柱起立筋（棘筋・最長筋・腸筋筋）・支配神経（脊髄神経後枝）	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/21	火	5	解剖実習6： 殿部・大腿屈側・膝窩・下腿屈側・固有背筋の解剖	大腿屈筋群（ハムストリングス）・驚足・坐骨神経・坐骨結節・殿筋群・上下殿神経・回旋筋群・膝窩・下腿三頭筋・浅／深後方コンパートメント・屈筋支帯（足根管）・脛骨神経・後脛骨動脈・板状筋・半棘筋・後頭下筋・後頭下三角・椎骨動脈・脊柱起立筋（棘筋・最長筋・腸筋筋）・支配神経（脊髄神経後枝）	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/23	木	2	脳講義3	間脳・脳幹	長瀬美樹	配布資料	講義
4/23	木	3	解剖実習7： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋群・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/23	木	4	解剖実習7： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋群・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/23	木	5	解剖実習7： 前腕屈側～手・大腿伸側 前腹壁の解剖	前腕屈筋群・上腕骨内側上顆・正中神経・尺骨神経・屈筋支帯・手根管・ギヨン管・手内筋・尺骨動脈・橈骨動脈・浅／深掌動脈弓・大腿伸筋・大腿三角・大腿VAN・内転筋群・閉鎖神経・内腹斜筋・腹横筋	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/27	月	2	特別講義	脳神経外科特別講義	丸山啓介	配布資料	講義
4/27	月	3	解剖実習8： 前腕伸側・下腿伸側～外側・肩関節・肘関節・股関節の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・左上肢離断・左肩関節・肘関節・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈・右股関節開放	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/27	月	4	解剖実習8： 前腕伸側・下腿伸側～外側・肩関節・肘関節・股関節の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・左上肢離断・左肩関節・肘関節・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈・右股関節開放	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/27	月	5	解剖実習8： 前腕伸側・下腿伸側～外側・肩関節・肘関節・股関節の解剖	前腕伸筋・上腕骨外側上顆・腕橈骨筋・橈骨神経・伸筋支帯・解剖学的嗅ぎタバコ入れ・橈骨動脈・左上肢離断・左肩関節・肘関節・前方／外側コンパートメント・深・浅腓骨神経・前脛骨動脈・足の伸筋支帯・足背動脈・右股関節開放	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/30	木	2	実習講義6	脊髄と脊髄神経・伝導路・内頭蓋底・脳神経・硬膜・下垂体（実習9の説明）	松村譲児	配布資料	講義
4/30	木	3	解剖実習9： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頸動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/30	木	4	解剖実習9： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頸動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
4/30	木	5	解剖実習9： 脊髄の摘出と内頭蓋底の観察	脊柱管・脊髄髄膜・脊髄・脊髄神経節・黄色靭帯・後縦靭帯・椎骨静脈叢・脳硬膜・硬膜静脈洞・内頭蓋底・脳神経・内頸動脈・海綿静脈洞・三叉神経節・下垂体	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/7	木	2	筆記試験1 (301・302)	範囲：解剖実習1～9 実習講義1～6	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
5/7	木	3	実習試験（浅層）（於解剖実習室）	範囲：解剖実習1～9	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
5/7	木	4	実習試験（浅層）（於解剖実習室）	範囲：解剖実習1～9	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
5/7	木	5	CT画像読影（AL）	死後医用画像読影（オートプシーイメージング）・実習体のCT画像と正常CT画像を比較し異常所見を探す（グループワーク）	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料	講義(AL)
5/11	月	2	実習講義7	体表解剖・開胸開腹・胸部臓器（実習10-13の説明）	長瀬美樹	配布資料	講義
5/11	月	3	解剖実習10： 開胸および開腹	胸膜・心膜・肺・心臓・大血管・横隔神経・腹膜・横隔膜・大網・胃～直腸・結腸ヒモ・肝臓・胆嚢・脾臓・腸間膜・小網・網嚢孔・網嚢・腹膜ヒダ・腹膜陥凹・腹膜後器官	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/11	月	4	解剖実習10： 開胸および開腹	胸膜・心膜・肺・心臓・大血管・横隔神経・腹膜・横隔膜・大網・胃～直腸・結腸ヒモ・肝臓・胆嚢・脾臓・腸間膜・小網・網嚢孔・網嚢・腹膜ヒダ・腹膜陥凹・腹膜後器官	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/11	月	5	特別講義	特別講義（心臓血管外科）	遠藤 英仁	配布資料	講義
5/12	火	2	実習講義8	腹部臓器・後縦靭・横隔膜・腹膜後器官・自律神経・腰神経叢の解剖（実習11-14の説明）	松村譲児	配布資料	講義
5/12	火	3	解剖実習11： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺	心臓・上大静脈・下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・冠状動脈と枝・心臓内腔の構造・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支・肺動静脈	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/12	火	4	解剖実習11： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺	心臓・上大静脈・下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・冠状動脈と枝・心臓内腔の構造・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支・肺動静脈	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/12	火	5	解剖実習11： 胸部臓器の摘出と観察：心臓・肺	心臓・上大静脈・下大静脈・上行大動脈・肺動脈幹・冠状動脈と枝・心臓内腔の構造・肺・水平裂・斜裂・肺葉・肺区域・主／葉／区域気管支・肺動静脈	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/14	木	2	特別講義	特別講義（医用画像：放射線科）	竹下祐平	配布資料	講義
5/14	木	3	解剖実習12： 腹部血管と胆道系の剖出	腹腔動脈（→脾・左胃・総肝動脈）と枝・上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・門脈（上／下腸間膜静脈・脾静脈）・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2026年度 2年 講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
5/14	木	4	解剖実習12: 腹部血管と胆道系の剖出	腹腔動脈(→脾・左胃・総肝動脈)と枝・上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・門脈(上/下腸間膜静脈・脾静脈)・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/14	木	5	解剖実習12: 腹部血管と胆道系の剖出	腹腔動脈(→脾・左胃・総肝動脈)と枝・上腸間膜動脈と枝・下腸間膜動脈と枝・門脈(上/下腸間膜静脈・脾静脈)・肝門三つ組・カロー三角・胆嚢動脈	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	月	2	解剖実習13: 腹部臓器の摘出と観察	腹部臓器の摘出・消化管(胃～S状結腸)の切開・洗浄と観察・肝臓・肝鎌状間膜・肝門索・カントリー線・門脈分枝・肝区域・クイノー肝区域・肝静脈・胆嚢・総肝管・胆嚢管・総胆管・膵臓・主膵管・大十二指腸乳頭・脾臓・腎動脈・副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	月	3	解剖実習13: 腹部臓器の摘出と観察	腹部臓器の摘出・消化管(胃～S状結腸)の切開・洗浄と観察・肝臓・肝鎌状間膜・肝門索・カントリー線・門脈分枝・肝区域・クイノー肝区域・肝静脈・胆嚢・総肝管・胆嚢管・総胆管・膵臓・主膵管・大十二指腸乳頭・脾臓・腎動脈・副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	月	4	解剖実習13: 腹部臓器の摘出と観察	腹部臓器の摘出・消化管(胃～S状結腸)の切開・洗浄と観察・肝臓・肝鎌状間膜・肝門索・カントリー線・門脈分枝・肝区域・クイノー肝区域・肝静脈・胆嚢・総肝管・胆嚢管・総胆管・膵臓・主膵管・大十二指腸乳頭・脾臓・腎動脈・副腎動脈・下大静脈・腎臓～尿管・副腎	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/18	月	5	特別講義	特別講義(肝胆膵外科)	阪本良弘	配布資料	講義
5/19	火	2	特別講義	レスピレーター-の使い方(生理学解剖学麻酔科学二軸統合授業)	本保晃	配布資料	講義
5/19	火	3	解剖実習14: レスピレーター特別実習 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	レスピレーター実習・大動脈弓・動脈管索・左反回神経・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・横隔膜・後腹壁の筋・腹大動脈の枝・腰神経叢	本保晃、長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習(AL)
5/19	火	4	解剖実習14: レスピレーター特別実習 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	レスピレーター実習・大動脈弓・動脈管索・左反回神経・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・横隔膜・後腹壁の筋・腹大動脈の枝・腰神経叢	本保晃、長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習(AL)
5/19	火	5	解剖実習14: レスピレーター特別実習 縦隔・横隔膜・後腹壁・腰神経叢の解剖	レスピレーター実習・大動脈弓・動脈管索・左反回神経・胸大動脈とその枝・食道・迷走神経・胸管・奇静脈系・交感神経幹・大内臓神経・横隔膜・後腹壁の筋・腹大動脈の枝・腰神経叢	本保晃、長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習(AL)
5/21	木	2	実習講義9	骨盤壁・会陰・骨盤底・骨盤臓器(実習15,16の説明)	大石篤郎	配布資料	講義
5/21	木	3	解剖実習15 骨盤腔・骨盤隔膜・尿生殖隔膜・会陰・生殖器	上下半身離断・骨盤腔・骨盤隔膜・尿生殖隔膜・会陰・膀胱・男性生殖器・女性生殖器・坐骨直腸窩・内陰部動静脈・陰部神経・陰部神経管	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/21	木	4	解剖実習15 骨盤腔・骨盤隔膜・尿生殖隔膜・会陰・生殖器	上下半身離断・骨盤腔・骨盤隔膜・尿生殖隔膜・会陰・膀胱・男性生殖器・女性生殖器・坐骨直腸窩・内陰部動静脈・陰部神経・陰部神経管	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/21	木	5	特別講義	呼吸器・甲状腺外科特別講義	平田 佳史	配布資料	講義
5/25	月	2	特別講義	産科婦人科学特別講義	谷垣伸治	配布資料	講義
5/25	月	3	解剖実習16: 骨盤半切・骨盤臓器・骨盤壁の解剖	骨盤半切・肛門挙筋腱弓・直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・生殖器・内腸動脈の壁側枝/臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/25	月	4	解剖実習16: 骨盤半切・骨盤臓器・骨盤壁の解剖	骨盤半切・肛門挙筋腱弓・直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・生殖器・内腸動脈の壁側枝/臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/25	月	5	解剖実習16: 骨盤半切・骨盤臓器・骨盤壁の解剖	骨盤半切・肛門挙筋腱弓・直腸・肛門管・膀胱・前立腺・尿道・生殖器・内腸動脈の壁側枝/臓側枝・仙骨神経叢・骨盤内臓神経・仙骨内臓神経・骨盤底筋・骨盤周囲の筋・大小坐骨孔	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/26	火	2	実習講義10	頭部顔面・頸部深層・頭頸部離断・眼窩(実習18,19の説明)	上野仁之	配布資料	講義
5/26	火	3	解剖実習17: 胸腹部骨盤の総復習、CT課題	胸腹部骨盤の総復習、CT課題	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/26	火	4	解剖実習17: 胸腹部骨盤の総復習、CT課題	胸腹部骨盤の総復習、CT課題	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/26	火	5	解剖実習17: 胸腹部骨盤の総復習、CT課題	胸腹部骨盤の総復習、CT課題	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/28	木	2	解剖実習18: 頭頸部離断と咽頭の解剖	頭頸部離断・環椎後頭関節・頸部交感神経幹・脳神経(IX・X・XI)・外頸動脈の枝・内頸動脈・上/中/下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・上/下喉頭神経・扁桃	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/28	木	3	解剖実習18: 頭頸部離断と咽頭の解剖	頭頸部離断・環椎後頭関節・頸部交感神経幹・脳神経(IX・X・XI)・外頸動脈の枝・内頸動脈・上/中/下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・上/下喉頭神経・扁桃	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/28	木	4	解剖実習18: 頭頸部離断と咽頭の解剖	頭頸部離断・環椎後頭関節・頸部交感神経幹・脳神経(IX・X・XI)・外頸動脈の枝・内頸動脈・上/中/下咽頭・咽頭の筋と神経・喉頭・上/下喉頭神経・扁桃	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
5/28	木	5	特別講義	腹部エコー	森秀明	配布資料	講義
6/1	月	2	特別講義	特別講義(眼科学)	北善幸	配布資料	講義
6/1	月	3	解剖実習19: 頭頸部正中切・眼窩の解剖	頭頸部正中切・眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経(II・III・IV・V・VI)・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/1	月	4	解剖実習19: 頭頸部正中切・眼窩の解剖	頭頸部正中切・眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経(II・III・IV・V・VI)・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/1	月	5	解剖実習19: 頭頸部正中切・眼窩の解剖	頭頸部正中切・眼瞼・眼窩・涙腺・外眼筋・脳神経(II・III・IV・V・VI)・眼動脈・網膜中心動脈・眼球の内部構造	長瀬美樹、松村讓兒、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/2	火	2	実習講義11	口腔・鼻腔・副鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管挿管(実習20,21,22の説明)	長瀬美樹	配布資料	講義

2026年度 2年 講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/2	火	3	解剖実習20: 口腔の解剖	口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋/口蓋帆張筋・舌(神経支配)・大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/2	火	4	解剖実習20: 口腔の解剖	口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋/口蓋帆張筋・舌(神経支配)・大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/2	火	5	解剖実習20: 口腔の解剖	口腔・硬口蓋・軟口蓋・口蓋帆挙筋/口蓋帆張筋・舌(神経支配)・大唾液腺(耳下腺・顎下腺・舌下腺)	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/4	木	2	特別実習:気管挿管実習 解剖実習21: 喉頭の解剖	ご献体を用いた気管挿管実習(代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える)※代表学生は事前にトレーニングを受ける 解剖実習:喉頭の観察(喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門)	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/4	木	3	特別実習:気管挿管実習 解剖実習21: 喉頭の解剖	ご献体を用いた気管挿管実習(代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える)※代表学生は事前にトレーニングを受ける 解剖実習:喉頭の観察(喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門)	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/4	木	4	特別実習:気管挿管実習 解剖実習21: 喉頭の解剖	ご献体を用いた気管挿管実習(代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える)※代表学生は事前にトレーニングを受ける 解剖実習:喉頭の観察(喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門)	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/4	木	5	特別実習:気管挿管実習 解剖実習21: 喉頭の解剖	ご献体を用いた気管挿管実習(代表学生がstudent teacherとして他の学生に教える)※代表学生は事前にトレーニングを受ける 解剖実習:喉頭の観察(喉頭蓋軟骨・甲状軟骨・輪状軟骨・披裂軟骨・喉頭筋・声帯・仮声帯・声門)	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習(AL)
6/8	月	2	特別講義	耳鼻咽喉科特別講義	増田正次	配布資料	講義
6/8	月	3	解剖実習22: 鼻腔・副鼻腔の解剖	鼻中隔・キールバツハ部位・上/中/下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋神経節・翼口蓋窩	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/8	月	4	解剖実習22: 鼻腔・副鼻腔の解剖	鼻中隔・キールバツハ部位・上/中/下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋神経節・翼口蓋窩	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/8	月	5	解剖実習22: 鼻腔・副鼻腔の解剖	鼻中隔・キールバツハ部位・上/中/下鼻甲介・鼻道・副鼻腔と開口部・口蓋管・翼口蓋神経節・翼口蓋窩	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/9	火	2	実習講義12	側頭窩・側頭下窩、翼口蓋窩、耳の解剖(実習23,24の説明)	松村譲児	配布資料	講義
6/9	火	3	解剖実習23: 側頭窩・側頭下窩・翼口蓋窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝(舌神経など)・翼口蓋窩	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習
6/9	火	4	解剖実習23: 側頭窩・側頭下窩・翼口蓋窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝(舌神経など)・翼口蓋窩	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習
6/9	火	5	解剖実習23: 側頭窩・側頭下窩・翼口蓋窩の解剖	側頭窩・側頭下窩・顎関節・咀嚼筋・顎動脈の枝・下顎神経の枝(舌神経など)・翼口蓋窩	徳嶺譲芳 長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	配布資料 実習マニュアル	実習
6/11	木	2	実習講義13	脳のCT・MRI画像	上野仁之	配布資料	講義
6/11	木	3	解剖実習24: 耳の解剖	側頭骨錐体・外耳・鼓膜・中耳・鼓室・耳管・耳小骨・乳突蜂巣・内耳・蝸牛・三半規管・脳神経(VII・VIII)・顔面神経管・膝神経節	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/11	木	4	解剖実習24: 耳の解剖	側頭骨錐体・外耳・鼓膜・中耳・鼓室・耳管・耳小骨・乳突蜂巣・内耳・蝸牛・三半規管・脳神経(VII・VIII)・顔面神経管・膝神経節	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/11	木	5	解剖実習24: 総復習	総復習	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/15	月	1	実習試験(深層) (於解剖実習室)	範囲:解剖実習(深層)	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
6/15	月	2	実習試験(深層) (於解剖実習室)	範囲:解剖実習(深層)	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
6/15	月	3	筆記試験2 (301・302)	範囲:解剖実習 実習講義8~13	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		試験
6/15	月	5	納棺/実習室清掃	納棺	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		実習
6/16	火	4	CT課題発表会1(AL)	ご遺体のCT課題(CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる)(グループワーク)を発表する	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/16	火	5	CT課題発表会2(AL)	ご遺体のCT課題(CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる)(グループワーク)を発表する	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/18	木	2	CT課題発表会3(AL)	ご遺体のCT課題(CT画像から異常所見を見つけ、対応する部位の肉眼所見をスケッチして対比させる)(グループワーク)を発表する	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎		実習(AL)
6/24	水	4	脳実習1: 脳の外観、クモ膜、脳室、脳血管、脳神経 脳の外観	脳区分・髄膜(硬膜/クモ膜/軟膜)・クモ膜下腔・クモ膜下槽・脳室・大脳縦裂・大脳半球・脳回・脳溝・脳底面(嗅球/嗅索/視交叉/下垂体茎/乳頭体)・脳表面の血管・ウィリス動脈輪・脳動脈瘤・脳神経	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/24	水	5	脳実習1: 脳の外観、クモ膜、脳室、脳血管、脳神経 脳の外観	脳区分・髄膜(硬膜/クモ膜/軟膜)・クモ膜下腔・クモ膜下槽・脳室・大脳縦裂・大脳半球・脳回・脳溝・脳底面(嗅球/嗅索/視交叉/下垂体茎/乳頭体)・脳表面の血管・ウィリス動脈輪・脳動脈瘤・脳神経	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/25	木	4	脳実習2: 大脳の脳室・脳溝、正中断面の観察 脳MRI(正中断)	前/中/後大脳動脈・前頭葉/頭頂葉/後頭葉/側頭葉/島葉/辺縁葉・中心溝の同定・機能局在・間脳(視床上部・視床・視床下部)・側脳室・第三脳室・室間孔・脳梁・脳弓・辺縁葉 脳の正中断面とご遺体のMRI画像(正中断)の比較	長瀬美樹、松村譲児、上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習

2026年度 2年 講義予定表

【肉眼解剖学Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
6/25	木	5	脳実習2： 大脳の脳葉・脳溝、正中断面の 観察 脳MRI（正中断）	前／中／後大脳動脈・前頭葉／頭頂葉／後頭葉／側頭葉／島葉／辺縁葉・中心 溝の同定・機能局在・間脳（視床上部・視床・視床下部）・側脳室・第三脳 室・室間孔・脳梁・脳弓・辺縁葉 脳の正中断面とご遺体のMRI画像（正中断）の比較	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/29	月	4	脳実習3： 前額断面と水平断面の観察	大脳基底核（尾状核・被殻・淡蒼球・線条体）・視床・内包・皮質脊髄路（錐 体路）・視覚伝導路・辺縁系（海馬・歯状回・海馬采・鈎・扁桃体） 脳の前額・水平断面とご遺体のMRI画像（前額断・水平断）の比較	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
6/29	月	5	脳実習3： 前額断面と水平断面の観察	大脳基底核（尾状核・被殻・淡蒼球・線条体）・視床・内包・皮質脊髄路（錐 体路）・視覚伝導路・辺縁系（海馬・歯状回・海馬采・鈎・扁桃体） 脳の前額・水平断面とご遺体のMRI画像（前額断・水平断）の比較	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/1	水	4	脳実習4： 脳幹・小脳・線維束の観察	中脳・橋・延髄・第四脳室底（菱形窩）・脳神経・小脳（小脳半球・虫部・片 葉小節葉・裂・歯状核・小脳脚）・連合／交連／投射線維・皮質脊髄路（錐体 路）	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/1	水	5	脳実習4： 脳幹・小脳・線維束の観察	中脳・橋・延髄・第四脳室底（菱形窩）・脳神経・小脳（小脳半球・虫部・片 葉小節葉・裂・歯状核・小脳脚）・連合／交連／投射線維・皮質脊髄路（錐体 路）	長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎	実習マニュアル	実習
7/6	月	4	実習試験(脳) (於解剖実習室)		長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎		試験
7/6	月	5	実習試験(脳) (於解剖実習室)		長瀬美樹、松村譲児、 上野仁之、大石篤郎		試験

年度	2026年度	学年	2年
学科目	組織解剖学	科目ナンバリング	FME-2C03
単位	4単位	コマ数	72コマ
科目責任者	宮東昭彦 教授（顕微解剖学教室）		
担当教員	教授 宮東昭彦（顕微解剖学教室） 客員教授 川上速人（顕微解剖学教室） 特任教授 秋元義弘（顕微解剖学教室） 准教授(兼任) 瀧上 周（保健学部） 学内講師 菅原大介（顕微解剖学教室） 学外講師 金井正美（東京科学大）		

A. 教育の基本方針	人体の構造と形態に関する知見の集積は膨大である。そのなかでも特に基礎的で且つ重要な項目を、他の基礎教科や臨床医学との関連性に留意しつつ、講義・実習を通じて反復学習し、確実に理解、把握することを主眼とする。同時に医学のもつ自然科学としての側面をも強く認識しながら、形態学的な思考方法・解析方法の涵養に務める。																		
B. 到達目標	人体の構造を肉眼レベルから光学顕微鏡、電子顕微鏡レベルに至るまでシステムとして理解し、かつそれを実際の組織標本を観察しつつ識別し、所見をとることができる。組織学の専門用語を適切に使用して、医療人としてのコミュニケーションを確実に行うことができる。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④、実習：(2)-①,②,③,④、(3)-②,③,④																		
C. 修得すべき能力	1. 各種臓器や組織に関する基本的な知識を習得し、述べることができる。 2. 各種細胞や細胞下の構造に関する基本的な知識を習得し、述べるができる。 3. 顕微鏡標本や組織画像を観察し、所見をとることができる。 4. 解剖学、組織学用語を邦語、英語いずれも理解し、適切に使用することができる。 5. 人体の構造全般にわたり器官系より細胞下レベルに至るまでシステムとして把握し、総合的に説明することができる。																		
D. 学習内容	1. 講義： <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 60%;">概要</th> <th style="width: 10%;">コマ</th> <th style="width: 15%;">担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>組織学総論</td> <td>細胞学、組織学的研究法、4種の基本組織型（上皮、結合、筋、神経）の概説</td> <td>15</td> <td>秋元、宮東</td> </tr> <tr> <td>組織学各論</td> <td>人体を構成する各臓器の構造とその成り立ちに関する顕微解剖学。器官系（消化器系、循環器系、呼吸器系、皮膚、感覚器系、内分泌系、女性生殖器系、男性生殖器系、泌尿器系）ごとの解説</td> <td>31</td> <td>秋元、宮東 川上、瀧上 菅原</td> </tr> <tr> <td>特別講義</td> <td>発生学特論</td> <td>2</td> <td>金井</td> </tr> </tbody> </table> <p>各回の講義は、構造と機能に関連付けた解説（系統講義）と、実習標本で観察できる項目を具体的に解説するガイダンス（実習講義）から構成される。系統講義は実習内容の理解のために必須であるとともに、定期試験の出題と関連が深い。実習講義は、当日の実習の観察事項の確認を含む。</p> 2. アクティブラーニングの実施法 各回の講義では、講義中には組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）、受講後には確認テストを実施し、形成的評価を行う。H. 成績評価の方法・基準を参照のこと。			項目	概要	コマ	担当	組織学総論	細胞学、組織学的研究法、4種の基本組織型（上皮、結合、筋、神経）の概説	15	秋元、宮東	組織学各論	人体を構成する各臓器の構造とその成り立ちに関する顕微解剖学。器官系（消化器系、循環器系、呼吸器系、皮膚、感覚器系、内分泌系、女性生殖器系、男性生殖器系、泌尿器系）ごとの解説	31	秋元、宮東 川上、瀧上 菅原	特別講義	発生学特論	2	金井
項目	概要	コマ	担当																
組織学総論	細胞学、組織学的研究法、4種の基本組織型（上皮、結合、筋、神経）の概説	15	秋元、宮東																
組織学各論	人体を構成する各臓器の構造とその成り立ちに関する顕微解剖学。器官系（消化器系、循環器系、呼吸器系、皮膚、感覚器系、内分泌系、女性生殖器系、男性生殖器系、泌尿器系）ごとの解説	31	秋元、宮東 川上、瀧上 菅原																
特別講義	発生学特論	2	金井																
E. 実習・課外授業	1. 基本方針 主として予め作製してある永久標本を光学顕微鏡下で、またはバーチャルスライドなどデジタル資料を用いて観察する。各種組織並びに各臓器に特徴的な形態と構造とを把握し、併せて組織学講義の内容を十分に理解する。																		
	2. 概要 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">項目</th> <th style="width: 60%;">概要</th> <th style="width: 10%;">コマ</th> <th style="width: 15%;">担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総論実習</td> <td>組織学総論の講義で解説された4種の基本組織型のそれぞれについて、組織を構成する重要な構造を実習標本で確認、観察する。スケッチ、課題あり</td> <td>6</td> <td rowspan="3">全教員</td> </tr> <tr> <td>各論実習</td> <td>組織学各論の講義で解説された器官系ごとの主な器官について、器官の成り立ちと組織学的な特徴を観察する。スケッチ、課題あり</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">実習試験</td> <td>実習試験（総論）：総論実習を対象とした中間試験</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>実習試験：実習全範囲を対象とした最終試験、再試験あり</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>			項目	概要	コマ	担当	総論実習	組織学総論の講義で解説された4種の基本組織型のそれぞれについて、組織を構成する重要な構造を実習標本で確認、観察する。スケッチ、課題あり	6	全教員	各論実習	組織学各論の講義で解説された器官系ごとの主な器官について、器官の成り立ちと組織学的な特徴を観察する。スケッチ、課題あり	14	実習試験	実習試験（総論）：総論実習を対象とした中間試験	1	実習試験：実習全範囲を対象とした最終試験、再試験あり	3
項目	概要	コマ	担当																
総論実習	組織学総論の講義で解説された4種の基本組織型のそれぞれについて、組織を構成する重要な構造を実習標本で確認、観察する。スケッチ、課題あり	6	全教員																
各論実習	組織学各論の講義で解説された器官系ごとの主な器官について、器官の成り立ちと組織学的な特徴を観察する。スケッチ、課題あり	14																	
実習試験	実習試験（総論）：総論実習を対象とした中間試験	1																	
	実習試験：実習全範囲を対象とした最終試験、再試験あり	3																	
	3. 実習方法 実習は、事前に配布された実習プリントに従って、個人単位で行う。本年度の実習方法については事前に連絡する。 (1) 顕微鏡実習（実習室） ① 顕微鏡と実習標本を一式貸与する。教員の指導に従い、標本の観察、スケッチを行い、課題に取り組む。スケッチは教員が査閲する。 ② 顕微鏡の使用、観察方法を体得するとともに、実習方法及び態度につき助言を受ける。																		

	<p>(2) オンライン実習（実習室、講義室、リモート等）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① バーチャルスライド、デジタル資料をもとに標本の観察、スケッチを行い、課題に取り組む。 ② スケッチは教員が査閲する。 <p>(3) アクティブラーニングの実施法</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 各自が標本で観察できた事項やできなかった事項、講義で得た知識をもとに行った考察等を所見として記述する。 ② 各回で課される発展的な課題に取り組み、講義・実習で得られた知識や概念を各自で整理する。 <p>(4) 欠席連絡方法 実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。</p> <p>4. 実習の評価</p> <p>(1) 実習試験（総論）及び実習試験 総論実習の終了時、及びすべての実習終了時に実習試験を実施する。各試験の位置付けや、最終成績への算入方法は H、成績評価の基準・方法を参照のこと。</p> <p>(2) 実習ノート 組織のスケッチや課題を記入した実習ノートをすべての実習終了時に提出する。未提出または不合格の場合は、学年末定期試験の受験資格が認められない。</p> <p>(3) 出席 実習はすべて出席を原則とする。正当な理由なく実習を欠席した場合は、実習は不合格となる。また、学年末定期試験の受験資格が認められない。ただし、やむを得ない事情がある場合は考慮するので、必ず連絡すること。</p> <p>5. 課外授業 なし</p>
F. 準備学習の内容	事前に講義予定表の「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書、実習プリント等に十分目を通しておくこと。所要時間の目安：各コマ75分程度。
G. 復習学習の内容	講義確認テストにより重要事項を理解するとともに、講義内容と実習で観察した構造の関連について整理すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。 実習当日に十分観察できなかった標本があれば、実習試験までの時間を使い補充すること。
H. 成績評価の方法・基準	<p>1. 最終成績の算出法 実習試験の成績（X）、筆記試験（学年末定期試験）の成績（Y）、その他の評価（Z）を総合的に評価する。最終成績の配点比率は、$X : Y : Z = 2 : 7 : 1$とし、6割以上の得点を合格とする。 なお、正当な理由なく実習を欠席した場合は、実習不合格となる。この場合、他の項目の得点によらず、科目の最終評価は不合格となる。 ※ 学年末定期試験の再試験の取り扱い：筆記試験で所定の成績に満たなかった者が再試験を受験する。上記の最終成績が6割未満の場合の再試験は実施されないので注意すること。 ※ 評価の方法や配点比率が変更される場合は、事前に告知する。</p> <p>2. 実習試験と成績（X）の算定</p> <p>(1) 評価の基準： 到達目標に照らして、光顕及び電顕標本を直接観察し所見をとることができるか否かを点検する。</p> <p>(2) 実施時期：実習終了時</p> <p>(3) 合否判定と実習再試験： 6割以上の得点を合格とし、それに満たなかった者は実習再試験を受験する。実習試験と実習再試験（上限を6割とする）でより高い点を実習試験の成績（上記X）とする。</p> <p>(4) 試験内容のフィードバックは適宜行う。 ※ 実習途中で行われる実習試験（総論）の成績は、その他の評価（Z）に含まれる。</p> <p>3. 筆記試験と成績（Y）の算定</p> <p>(1) 評価の基準： 到達目標に照らして、人体の構造とその成り立ちに関して、主として顕微鏡レベルにおける基本的な理解と知識とを確認する。</p> <p>(2) 実施時期：学年末定期試験として行う</p> <p>(3) 受験資格： ① 講義の出席率3分の2以上、② 実習ノートを提出し合格していること、③ 実習を原則としてすべて出席していることを受験できる条件とする。ただし、やむを得ない事情がある場合は考慮するので、必ず連絡すること。</p> <p>(4) 合否判定と再試験： 合計得点が6割以上の得点を合格とし、それに満たなかった者は再試験を受験する。再試験は、出題分野ごとの得点に従い、6割未満だった分野のみを受験する。再試験を受験した分野の得点は上限6割として、合格した分野の得点と加算し、筆記試験の評価点（Y）とする。</p> <p>(5) 試験内容のフィードバックは適宜行う。</p> <p>4. その他の評価（Z）</p> <p>(1) 評価の基準 講義・実習時の能動的な学習姿勢（アクティブラーニング）と形成的評価（講義・実習の勉強方法、取り組み姿勢の確認）のために、以下の(2)～(5)の項目を評価の対象とする。最終成績には、その他の評価（上記Z）として加算される。</p> <p>(2) 講義確認テスト、組織画像演習、実習小テスト等 講義、実習時に随時実施される。重要事項についての理解度の確認、復習学習の支援のために行われる。正答の公開と解説を行う。確認テスト、組織画像演習については、点数ではなく、提出の有無が成績に参入される。</p> <p>(3) 実習試験（総論） 実習（総論）終了時に、すべての実習終了時の実習試験と同じ形式で実施される。目的は、実習の到達目標に対する達成度を確認し、以後の学習方法・参加態度を修正するため、及び実習試験の形式に慣れるためである。 フィードバックのために、得点の開示、正答の公開と解説を行う。再試験は行わない。</p> <p>(4) 実習スケッチノート</p>

	<p>実習中随時、教員の指導を受ける。実習終了時に提出する。標本のスケッチに加え、所見の記載の有無、課題への取り組みの有無を評価する。</p> <p>(5) 学習態度 実習中の長時間に及ぶ離席や実習に参加しない態度は、実習に出席していても減点の対象となる場合がある。</p>
--	---

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	<ul style="list-style-type: none"> • ジュンケイラ組織学, 丸善出版, 2024, 第6版（原書第16版）. (注1) <p>注1) 電子書籍あり（医書.jp, m3.com, メテオ, Amazon Kindle, honto, 楽天kobo等） ※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること</p>
②参考書 A（学生の所持をすすめるもの）	<ul style="list-style-type: none"> • (R) バーチャルスライド組織学, 羊土社, 2025, 改訂版. • (R) ガートナー／ハイアット組織学 アトラスとテキスト, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2024, 第4版. (注2,6) • (R) ひと目でわかるビジュアル人体発生学, 羊土社, 2022. (注2,3,4,5) • (A) Ross組織学, 南江堂, 2019, 原著第7版. (注6) • (A) ムーア人体発生学, 医歯薬出版, 2022, 原著第11版. (注6) <p>注2) 電子書籍あり（医書.jp） 注3) 電子書籍あり（m3.com） 注4) 電子書籍あり（メテオ） 注5) 電子書籍あり（Amazon Kindle） 注6) 医学図書館で原書（英語版）を所蔵。適宜参照してほしい</p> <p>※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること ※ (R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>
③参考書 B（図書館等での利用をすすめるもの）	<ul style="list-style-type: none"> • (R) カラー図解 人体の正常構造と機能（全10巻縮刷版）, 日本医事新報社, 2025, 改訂第5版. (注7,8,9) • (R) diFiore 人体組織図譜, 南江堂, 2025, 原書第13版. (注8,11) • (R) ウィーター図説で学ぶ機能組織学, エルゼビア・ジャパン, 2025, 原著第7版. (注9) • (R) Qシリーズ 新組織学, 日本医事新報社, 2025, 第8版. (注7,8,9) • (R) カラー図解 人体発生学講義ノート, 金芳堂, 2025, 第3版. (注8,9,10,12) • (R) ラングマン人体発生学, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2024, 第12版. (注8,11) • (A) 標準組織学 総論, 医学書院, 2022, 第6版. 標準組織学 各論, 医学書院, 2022, 第6版. • (A) 組織細胞生物学, 南江堂, 2022, 原書第5版. (注7,11) <p>注7) 電子書籍が付属 注8) 電子書籍あり（医書.jp） 注9) 電子書籍あり（m3.com） 注10) 電子書籍あり（メテオ） 注11) 医学図書館で原書（英語版）を所蔵。適宜参照してほしい 注12) 医学図書館ホームページより電子ブックをダウンロード可</p> <p>※ 電子書籍を選ぶ場合は、対応機種、機能などをよく確認すること ※ (R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
8/31	月	2	講義 組織解剖学概論	顕微鏡の原理と使い方（開口数と分解能、レンズの特性）、組織学的研究方法（組織切片と染色法の基礎）、細胞学（細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、細胞核）、基底膜と細胞間接着装置、細胞の特殊装置（線毛、微絨毛、基底陥入）	宮東昭彦	1～78 565～566	講義
8/31	月	3	講義 上皮組織①	上皮組織（単層上皮）：単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮の構造と機能	宮東昭彦	79～90	講義
8/31	月	4	講義 上皮組織①	上皮組織（単層上皮）：単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮の構造と機能。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	宮東昭彦	79～90	講義(AL)
8/31	月	5	実習 上皮組織①	顕微鏡の原理と使い方（開口数と分解能、レンズの特性）、上皮組織（単層上皮）の分類（単層扁平上皮、単層立方上皮、単層円柱上皮、多列上皮）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/2	水	3	講義 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）：重層扁平上皮、移行上皮などの構造と機能、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）	宮東昭彦	90～104	講義
9/2	水	4	講義 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）：重層扁平上皮、移行上皮などの構造と機能、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	宮東昭彦	90～104	講義(AL)
9/2	水	5	実習 上皮組織②	上皮組織（重層上皮）の分類（重層扁平上皮、移行上皮など）、腺組織（単細胞腺と多細胞腺、腺房と導管の違い、漿液腺、粘液腺、漿液半月）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/3	木	3	講義 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞（線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球）、線維（コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維）、基質	秋元義弘	105～131	講義
9/3	木	4	講義 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞（線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球）、線維（コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維）、基質。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	秋元義弘	105～131	講義(AL)
9/3	木	5	実習 結合組織①	結合組織の分類、固有結合組織、疎性結合組織、密性結合組織、弾性組織、細網組織、粘液組織、結合組織の細胞（線維芽細胞、脂肪細胞、マクロファージ（大食細胞）、単核食細胞系、マスト細胞（肥満細胞）、形質細胞、白血球）、線維（コラーゲン線維（膠原線維）、細網線維、弾性線維）、基質	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/7	月	2	講義 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生、骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球（赤血球、白血球、血小板、巨核球）	秋元義弘	133～139 141～150	講義
9/7	月	3	講義 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生、骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球（赤血球、白血球、血小板、巨核球）	秋元義弘	133～139 141～150	講義
9/7	月	4	講義 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生、骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球（赤血球、白血球、血小板、巨核球）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	秋元義弘	133～139 141～150	講義(AL)
9/7	月	5	実習 結合組織②	単房性脂肪組織、多房性脂肪組織、脂肪組織の発生、脂質の貯蔵と代謝、脂肪組織の組織形成、軟骨組織（硝子軟骨、線維軟骨、弾性軟骨）、軟骨基質、軟骨細胞、軟骨膜、軟骨組織の発生、骨組織、骨の細胞（骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞）、骨基質、骨膜、骨内膜、膜内骨化、軟骨内骨化、骨の成長、改造、修復、骨の内部構造、血球（赤血球、白血球、血小板、巨核球）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習

2026年度 2年 講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/8	火	2	講義 筋組織	筋組織の分類 [横紋筋 (骨格筋、心筋) と平滑筋] と筋線維 (筋細胞) の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア (A帯、I帯、Z線)、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類 (動脈、静脈、毛細血管)	宮東昭彦	209~231 240~250	講義
9/8	火	3	講義 筋組織	筋組織の分類 [横紋筋 (骨格筋、心筋) と平滑筋] と筋線維 (筋細胞) の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア (A帯、I帯、Z線)、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類 (動脈、静脈、毛細血管)	宮東昭彦	209~231 240~250	講義
9/8	火	4	講義 筋組織	筋組織の分類 [横紋筋 (骨格筋、心筋) と平滑筋] と筋線維 (筋細胞) の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア (A帯、I帯、Z線)、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類 (動脈、静脈、毛細血管)。組織画像演習 (ディスカッションとプレゼンテーション) を実施する	宮東昭彦	209~231 240~250	講義(AL)
9/8	火	5	実習 筋組織	筋組織の分類 [横紋筋 (骨格筋、心筋) と平滑筋] と筋線維 (筋細胞) の特徴、筋原線維、筋フィラメント、サルコメア (A帯、I帯、Z線)、介在板、神経支配、筋紡錘、血管系の構造と分類 (動脈、静脈、毛細血管)	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/9	水	3	講義 神経組織	神経系の発生、ニューロン (神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス)、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築 (灰白質と白質、神経核、線維路)、末梢神経系の組織構築 (神経線維束、神経節、神経叢)、神経の変性・再生、神経の可塑性	宮東昭彦	175~208	講義
9/9	水	4	講義 神経組織	神経系の発生、ニューロン (神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス)、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築 (灰白質と白質、神経核、線維路)、末梢神経系の組織構築 (神経線維束、神経節、神経叢)、神経の変性・再生、神経の可塑性。組織画像演習 (ディスカッションとプレゼンテーション) を実施する	宮東昭彦	175~208	講義(AL)
9/9	水	5	実習 神経組織	神経系の発生、ニューロン (神経細胞体、樹状突起、軸索、シナプス)、グリア細胞の種類と機能、中枢神経系の組織構築 (灰白質と白質、神経核、線維路)、末梢神経系の組織構築 (神経線維束、神経節、神経叢)、神経の変性・再生、神経の可塑性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/10	木	3	講義 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔 (口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の種類)、咽頭、食道 (筋層の部位差、食道腺)、胃 [噴門 (上皮の移行、噴門腺)、胃体 (表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞)、幽門 (幽門腺)]	秋元義弘	319~324 329~338	講義
9/10	木	4	講義 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔 (口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の種類)、咽頭、食道 (筋層の部位差、食道腺)、胃 [噴門 (上皮の移行、噴門腺)、胃体 (表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞)、幽門 (幽門腺)]。組織画像演習 (ディスカッションとプレゼンテーション) を実施する	秋元義弘	319~324 329~338	講義(AL)
9/10	木	5	実習 消化器系①	消化管の一般的構造、口腔 (口唇の構築と上皮の特性、舌の構造的特徴と舌乳頭の種類)、咽頭、食道 (筋層の部位差、食道腺)、胃 [噴門 (上皮の移行、噴門腺)、胃体 (表層粘液細胞、胃底腺、副細胞、主細胞、壁細胞、腸内分泌細胞)、幽門 (幽門腺)]	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/14	月	1	実習試験	自己の形成的評価に用いる実習試問 (範囲: 組織学総論)。実習終了時の試験と同じ形式で実施する	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験
9/14	月	2	講義 消化器系②	十二指腸 (絨毛、十二指腸腺)、空腸 (腸腺、パネート細胞)、回腸 (パイエル板、M細胞)、結腸 (腸腺、杯細胞、結腸ヒモ)、虫垂 (リンパ小節)、肛門 (肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部)	秋元義弘	338~352	講義
9/14	月	3	講義 消化器系②	十二指腸 (絨毛、十二指腸腺)、空腸 (腸腺、パネート細胞)、回腸 (パイエル板、M細胞)、結腸 (腸腺、杯細胞、結腸ヒモ)、虫垂 (リンパ小節)、肛門 (肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部)	秋元義弘	338~352	講義
9/14	月	4	講義 消化器系②	十二指腸 (絨毛、十二指腸腺)、空腸 (腸腺、パネート細胞)、回腸 (パイエル板、M細胞)、結腸 (腸腺、杯細胞、結腸ヒモ)、虫垂 (リンパ小節)、肛門 (肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部)。組織画像演習 (ディスカッションとプレゼンテーション) を実施する	秋元義弘	338~352	講義(AL)
9/14	月	5	実習 消化器系②	十二指腸 (絨毛、十二指腸腺)、空腸 (腸腺、パネート細胞)、回腸 (パイエル板、M細胞)、結腸 (腸腺、杯細胞、結腸ヒモ)、虫垂 (リンパ小節)、肛門 (肛門周囲腺、肛門括約筋、粘膜・皮膚移行部)	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/15	火	1	講義 消化器系③	消化器付属腺: 大唾液腺 (耳下腺、顎下腺、舌下腺) の構造的特徴と見分け方 (漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管)、胆嚢 (単層円柱上皮、筋層の収縮機序)、膵臓 (外分泌部: 腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部: A細胞、B細胞、D細胞、ホルモン調節)	秋元義弘	53~360 370~373 460~462	講義

2026年度 2年 講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/15	火	3	講義 消化器系③	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部：腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：A細胞、B細胞、D細胞、ホルモン調節）	秋元義弘	53～360 370～373 460～462	講義
9/15	火	4	講義 消化器系③	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部：腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：A細胞、B細胞、D細胞、ホルモン調節）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	秋元義弘	53～360 370～373 460～462	講義(AL)
9/15	火	5	実習 消化器系③	消化器付属腺：大唾液腺（耳下腺、顎下腺、舌下腺）の構造的特徴と見分け方（漿液腺、粘液腺、漿液半月、介在導管、線条導管、小葉間導管）、胆嚢（単層円柱上皮、筋層の収縮機序）、膵臓（外分泌部：腺房細胞、腺房中心細胞、導管系、内分泌部：A細胞、B細胞、D細胞、ホルモン調節）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/16	水	1	講義 皮膚	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、厚い皮膚と薄い皮膚の表皮の層構造（基底層、有棘層、顆粒層、透明層、角質層）、表皮を構成する細胞〔ケラチノサイト、メラノサイト、樹状細胞（ランゲルハンス細胞）、触覚細胞（メルケル細胞）〕、皮膚の免疫能	秋元義弘	400～407	講義
9/16	水	3	講義 皮膚	真皮（乳頭層、網状層）、表皮と真皮の接着機構（基底膜、ヘミデスモゾーム）。皮膚における脈管と知覚受容器（触覚盤、自由神経終末、根毛神経叢、触覚小体（マイスナー小体）、層板小体（パチニ小体））、角質器〔毛（毛根、毛幹、毛包、毛球、毛乳頭、毛髄質、毛皮質、毛小皮、内根鞘、外根鞘、硝子膜、結合組織性毛包、立毛筋）〕	秋元義弘	408～414	講義
9/16	水	4	講義 皮膚	爪（爪根、爪板、上爪皮、下爪皮、爪床、爪母基））、付属腺〔汗腺（エクリン汗腺、アポクリン汗腺）、脂腺（毛包腺、独立脂腺）、乳腺〕。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	秋元義弘	414～422 521～524	講義(AL)
9/16	水	5	実習 皮膚	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、表皮の層構造（基底層、有棘層、顆粒層、透明層、角質層）、表皮を構成する細胞〔ケラチノサイト、メラノサイト、樹状細胞（ランゲルハンス細胞）、触覚細胞（メルケル細胞）〕、真皮（乳頭層、網状層）、表皮と真皮の接着機構（基底膜、ヘミデスモゾーム）、皮膚における脈管と知覚受容器（触覚盤、自由神経終末、根毛神経叢、触覚小体（マイスナー小体）、層板小体（パチニ小体））、角質器〔毛、爪〕、付属腺〔汗腺（エクリン汗腺、アポクリン汗腺）、脂腺（毛包腺、独立脂腺）、乳腺〕	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/17	木	2	講義 循環器系	心血管系：心室壁（心内膜、心筋層、心外膜、刺激伝導系）、動脈（弾性型、筋型）、静脈の構造的特徴および動脈との見分け方、毛細血管（連続型、有窓型、類洞型）	川上速人	233～256	講義
9/17	木	3	講義 循環器系	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）	川上速人	289～318 275～287	講義
9/17	木	4	講義 循環器系	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	川上速人	289～318 275～287	講義(AL)
9/17	木	5	実習 循環器系	リンパ系器官：リンパ節（リンパ小節、被膜と小柱、リンパ洞、高内皮細静脈）、胸腺（上皮性細網細胞、胸腺細胞、ハッサル小体）、脾臓（被膜と脾柱、白脾髄と赤脾髄）、扁桃（リンパ小節、高内皮細静脈）、骨髄（骨髄球と造血、巨核球）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/24	木	3	講義 呼吸器系	鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、I型肺胞上皮細胞、II型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）、血液空気関門	菅原大介	375～397	講義
9/24	木	4	講義 呼吸器系	鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、I型肺胞上皮細胞、II型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）、血液空気関門。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	菅原大介	375～397	講義(AL)

2026年度 2年 講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/24	木	5	実習 呼吸器系	鼻腔（多列線毛上皮、嗅上皮、ボウマン腺）、喉頭（声帯ヒダ、室ヒダ、喉頭腺）、気管・気管支（気管腺、膜性壁、気管軟骨）、肺（細気管支、肺胞管、肺胞壁の構築、I型肺胞上皮細胞、II型肺胞上皮細胞、肺胞マクロファージ）、血液空気門	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介 川上速人	実習プリント	実習
9/28	月	4	講義 消化器系④	消化器付属腺：肝臓（肝血流、肝小葉、グリソン鞘、肝腺房、門脈小葉、門脈三つ組、肝細胞、類洞とKupffer細胞、ディッセ腔、伊東細胞、毛細胆管、ヘリング管）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	川上速人	361～371	講義(AL)
9/28	月	5	実習 消化器系④	消化器付属腺：肝臓（肝血流、肝小葉、グリソン鞘、肝腺房、門脈小葉、門脈三つ組、肝細胞、類洞とKupffer細胞、ディッセ腔、伊東細胞、毛細胆管、ヘリング管）	川上速人 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/29	火	2	講義 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿管、ヘンレのループ、遠位尿管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	秋元義弘	423～443	講義
9/29	火	3	講義 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿管、ヘンレのループ、遠位尿管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	秋元義弘	423～443	講義
9/29	火	4	講義 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿管、ヘンレのループ、遠位尿管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	秋元義弘	423～443	講義(AL)
9/29	火	5	実習 泌尿器系	腎臓（糸球体と傍糸球体装置、近位尿管、ヘンレのループ、遠位尿管、集合管、血管系の分布他）、尿管、膀胱の構造と機能、移行上皮の特性	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
9/30	水	3	講義 男性生殖系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣閥門、精巣網）、精巣下降、精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精囊、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	宮東昭彦	473～494	講義
9/30	水	4	講義 男性生殖系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣閥門、精巣網）、精巣下降、精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精囊、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	宮東昭彦	473～494	講義(AL)
9/30	水	5	実習 男性生殖系	精巣の構造と機能（精細管・間質、精子形成、減数分裂、精子完成、血液精巣閥門、精巣網）、精巣下降、精巣上体（精巣輸出管、精巣上体管）、精索、付属腺（精囊、前立腺）の構造と分泌物、陰茎（海綿体と陰茎勃起、尿道）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/1	木	2	講義 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部-下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）	宮東昭彦	445～460 462～472	講義
10/1	木	3	講義 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部-下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	宮東昭彦	445～460 462～472	講義(AL)
10/1	木	4	実習 内分泌系	ホルモン分子種（ペプチド、ステロイド、アミン）と分泌細胞の特徴、視床下部-下垂体系：下垂体の発生と腺・神経下垂体、副腎（皮質・髄質の組織構築）、甲状腺（甲状腺濾胞とホルモン分泌の特徴）	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/1	木	5	実習	標本返却	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		実習
10/5	月	4	講義 感覚器系①	視覚器：眼球壁の構造と機能（角膜、毛様体、虹彩、水晶体、網膜、脈絡膜、強膜など）、眼瞼の構造と機能（結膜、瞼板、睫毛）、眼球の発生。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	瀧上周	529～549	講義(AL)
10/5	月	5	実習 感覚器系①	視覚器：眼球壁の構造と機能（角膜、毛様体、虹彩、水晶体、網膜、脈絡膜、強膜など）、眼瞼の構造と機能（結膜、瞼板、睫毛）、眼球の発生	瀧上周 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/6	火	2	講義 女性生殖系	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長と卵胞閉鎖・排卵・黄体形成、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管、子宮内膜とその周期的変化、胎盤の構造、（絨毛膜と脱落膜）と胎盤閥門、子宮頸部、膣	宮東昭彦	495～521	講義

2026年度 2年 講義予定表

【組織解剖学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/6	火	3	講義 女性生殖系	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長と卵胞閉鎖・排卵・黄体形成、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管、子宮内膜とその周期的変化、胎盤の構造、（絨毛膜と脱膜）と胎盤関門、子宮頸部、腔	宮東昭彦	495～521	講義
10/6	火	4	講義 女性生殖系	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長と卵胞閉鎖・排卵・黄体形成、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管、子宮内膜とその周期的変化、胎盤の構造、（絨毛膜と脱膜）と胎盤関門、子宮頸部、腔。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	宮東昭彦	495～521	講義(AL)
10/6	火	5	実習 女性生殖系	卵巣の構造（卵胞、黄体）、卵胞の成長と卵胞閉鎖・排卵・黄体形成、卵巣周期（卵胞期、黄体期、妊娠期）、卵管、子宮内膜とその周期的変化、胎盤の構造、（絨毛膜と脱膜）と胎盤関門、子宮頸部、腔	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/7	水	4	講義 感覚器系②	聴覚器、平衡覚器：外耳道、耳道腺、鼓膜、中耳、内耳（蝸牛、ラセン器、前庭と平衡斑、半規管と膨大部稜）の構造と機能。組織画像演習（ディスカッションとプレゼンテーション）を実施する	瀧上周	549～564	講義(AL)
10/7	水	5	実習 感覚器系②	聴覚器、平衡覚器：外耳道、耳道腺、鼓膜、中耳、内耳（蝸牛、ラセン器、前庭と平衡斑、半規管と膨大部稜）の構造と機能	瀧上周 秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介	実習プリント	実習
10/8	木	3	講義 電子顕微鏡	透過型（TEM）および走査型（SEM）電子顕微鏡の原理と特徴の解説、試料作製の説明と電顕写真の観察（TEM, SEM）	秋元義弘	7～9	講義
10/8	木	4	組織画像演習	組織画像演習：初見標本（バーチャル）を観察し、臓器の特徴と判別に至る根拠についてディスカッションとプレゼンテーションを実施する	宮東昭彦	配布プリント	講義(AL)
10/13	火	4	実習試験	組織学実習試験	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験
10/13	火	5	実習試験	組織学実習試験	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験
10/19	月	3	講義 発生学特論	（特別講義）：胎児発生における遺伝子発現、染色体異常、各器官系に生じる先天異常、ES細胞・iPS細胞と再生医療	金井正美	講義プリント	講義
10/19	月	4	講義 発生学特論	（特別講義）：胎児発生における遺伝子発現、染色体異常、各器官系に生じる先天異常、ES細胞・iPS細胞と再生医療	金井正美	講義プリント	講義
10/20	火	5	実習再試験	実習再試験	秋元義弘 宮東昭彦 菅原大介		試験

年度	2026年度	学年	2年
学科目	細胞生物学	科目ナンバリング	FME-2D02
単位	2単位	コマ数	24 コマ
科目責任者	鈴木絢子 教授（細胞生化学教室）		
担当教員	教授 鈴木絢子（細胞生化学教室） 客員教授 今泉美佳（細胞生化学教室） 助教 芳賀泰彦（細胞生化学教室） 兼任教授 青柳共太（生命科学センター）		

A. 教育の基本方針	<p>細胞生物学は、生化学、分子生物学、生物物理学、遺伝学、微生物学等を束ねる統合分野であり、細胞を扱った実験科学である。すなわち、細胞が合成する数多くの様々なタンパク質の機能と脂質の機能、それらの相関関係、及び、細胞内における物質輸送、更に細胞とその周囲環境との相互作用を理解することが、出発点でもあり到達目標でもある。これらの知識を統合することにより、細胞内の複雑なシグナル伝達複合体や、細胞間相互作用のメカニズムが理解できるようになり、医学を含めてその応用分野は限りなく広い。この分野における最近のテクノロジーの発展は著しく、情報の本体は絶えず変化しており、学習すべき内容が飛躍的に拡大してきている。そのため、限られた時間内の学習でその全貌を把握することは不可能に近い。従って学習者自らがその中に興味をもてる命題を見出し、それを解明しようとする精神運動の発動が大変重要である。そのためには、学生の自己学習、継続学習能力の獲得を可能にする教育を行うことが基本方針である。</p>																		
B. 到達目標	<p>細胞レベルで個々の生化学的事象を統合的に把握することにより、疾患の病態生理の理解を深める。 M1で習得した生物学、分子生物学、生化学の基礎知識をもとに、個々の生化学的事象を細胞レベルでの統合的な理解へと発展させる。この作業によって医師を目指す学生が、疾患の病態生理を理解するために必要な細胞の構造・機能を分子レベルから理解する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (2)-①,②,③,④</p>																		
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞膜の構造と機能について説明できる。 2. 輸送体とチャネルによる細胞膜輸送について説明できる。 3. 細胞内区画とタンパク質の選別輸送について説明できる。 4. 細胞内における小胞の移動について説明できる。 5. 細胞の情報伝達の仕組み（シグナル伝達分子、細胞表面受容体、細胞内シグナル伝達経路）について説明できる。 6. 細胞骨格と細胞運動について説明できる。 7. 細胞周期と細胞分裂・増殖について説明できる。 8. プログラム細胞死の仕組みについて説明できる。 9. 細胞外マトリックスと細胞間コミュニケーションについて説明できる。 10. がんの細胞生物学について概説できる。 																		
D. 学習内容	<p>講義は、教科書（細胞の分子生物学）を使って講義予定表に沿って行い、前期に終了するものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>1.系統講義</th> <th>概要</th> <th>期</th> <th>コマ</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>細胞膜の構造と機能、輸送体とチャネルによる細胞膜輸送、細胞内区画とタンパク質の輸送、細胞における小胞の移動、細胞の情報伝達、細胞骨格、細胞周期、プログラム細胞死、細胞結合と細胞外マトリックス、がん</td> <td>前</td> <td>23</td> <td>鈴木 青柳 今泉 芳賀</td> </tr> <tr> <td>2.特別講義</td> <td>がんの進展に関わる細胞生物学</td> <td>前</td> <td>1</td> <td>芳賀・鈴木</td> </tr> </tbody> </table> <p>3.学生参加型講義（アクティブ・ラーニング）の実施法 細胞生物学的な知識と解析手法の理解度を確保するための演習を1コマ行う。 また、特別講義（1コマ）においてリアクションペーパーの提出を通じて行う。</p>				1.系統講義	概要	期	コマ	担当		細胞膜の構造と機能、輸送体とチャネルによる細胞膜輸送、細胞内区画とタンパク質の輸送、細胞における小胞の移動、細胞の情報伝達、細胞骨格、細胞周期、プログラム細胞死、細胞結合と細胞外マトリックス、がん	前	23	鈴木 青柳 今泉 芳賀	2.特別講義	がんの進展に関わる細胞生物学	前	1	芳賀・鈴木
1.系統講義	概要	期	コマ	担当															
	細胞膜の構造と機能、輸送体とチャネルによる細胞膜輸送、細胞内区画とタンパク質の輸送、細胞における小胞の移動、細胞の情報伝達、細胞骨格、細胞周期、プログラム細胞死、細胞結合と細胞外マトリックス、がん	前	23	鈴木 青柳 今泉 芳賀															
2.特別講義	がんの進展に関わる細胞生物学	前	1	芳賀・鈴木															
E. 実習・課外授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習 M1後期に行う分子生物学実習に組み込むものとする。また、実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。 2. 課外授業 なし 																		
F. 準備学習の内容	<p>事前にシラバスの「講義テーマ」と「講義内容」を読み、教科書「Essential 細胞生物学（原書第5版）」（南江堂）の相当する部分に目を通しておくこと（所要時間の目安：各75分程度）。</p>																		
G. 復習学習の内容	<p>講義で配布されたプリント、及び教科書の関連ページを熟読して、サブノートを作製するなどをを行い、復習すること（所要時間の目安：各75分程度）</p>																		
H. 成績評価の方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 1. 試験方針 系統講義の内容で、講義の基礎となるもの、論理的な思考法、将来医師・医学者になる者にとって必要かつ基礎事項を出題する。 2. 試験の期日と実施方法 前期終了時に定期試験を行い、不合格者に対しては学年末に定期試験の再試験を行う。 3. 評価方法 定期試験の成績をもとに総合的評価をする。 4. 判定基準 定期試験が100点満点のうち、60点以上の時、合格とする。 5. 定期試験受験資格 医学部試験規則第4条に準ずる。 6. フィードバック方法 試験終了後に模範解答を掲示 																		
I. 学習指導書	<ol style="list-style-type: none"> ①教科書（学生が所持しなければならぬもの） Essential 細胞生物学（原書第5版）（Albertsら著）南江堂 																		

②参考書 A (学生の所持をすすめるもの)	(R) THE CELL 細胞の分子生物学 原書第7版 メディカル・サイエンス・インターナショナル ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書 B (図書館等での利用をすすめるもの)	(R)分子細胞生物学 東京化学同人 (R)ヴォート基礎生化学 東京化学同人 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【細胞生物学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	木	1	イントロダクション	ガイダンス（講義内容・進級判定基準など）分子生物学・分子細胞生物学と医学との関連について実例を挙げながら解説する。	鈴木絢子	配布プリント参照	講義
4/6	月	1	膜の構造-1	脂質二重層の特徴的な性質である両親媒性、流動性、非対称について解説する。	今泉美佳	第11章	講義
4/10	金	1	膜の構造-2	生体膜の基本構造は脂質二重層だが、膜に特異的な機能の多くは膜タンパクが担っている。膜タンパクの構造と脂質二重層との結合様式について解説する。また、生体膜脂質から合成される生理活性物質について概説する。	今泉美佳	第11章	講義
4/14	火	1	膜を横切る輸送	細胞膜には様々な膜輸送タンパクが含まれていて、それぞれ特定の溶質を膜を通して輸送する。膜輸送タンパクは運搬体タンパクとチャネルタンパクの二つに分類される。本講義では運搬体タンパクによる輸送（能動輸送、受動輸送）と機能について解説した後、チャネルタンパク、特にイオンチャネルによる選択的なイオン輸送と機能について神経細胞を例に挙げて説明する。	今泉美佳	第12章	講義
4/17	金	3	細胞内区画とタンパク質の輸送-1	細胞内小器官のタンパク質は細胞質内にあるリボソームで合成され、それぞれが機能する小器官まで運ばれる。この輸送はタンパク質のアミノ酸配列の中にある選別シグナルがシグナル配列やシグナルパッチとして働いて、タンパク質を誘導し、特異的な経路を通って行われる。その概観、輸送系について解説し、引き続き、分子の核内輸送・核外輸送、ミトコンドリアへのタンパク輸送機構について解説する。	今泉美佳	第15章	講義
4/20	月	1	細胞内区画とタンパク質の輸送-2	タンパク合成の大部分は小胞体の細胞質ゾルに面した表面で行われる。分泌タンパクのすべてと小胞体自身、ゴルジ体、リソソーム、エンドソーム、細胞膜に輸送されるタンパク質はすべて、まず細胞質から小胞体に取り込まれる。タンパク質が小胞体に取り込まれる機構、小胞体でのタンパク質の折りたたみと品質管理について解説する。	今泉美佳	第15章	講義
4/24	金	3	細胞内における小胞の移動-1	小胞体からゴルジ体、ゴルジ体から別の区画への輸送は小胞輸送とよばれる機構で行われる。小胞は区画の積み荷を集めて出芽することによって生じ、次の区画の膜と融合することで積み荷を配送する。小胞輸送の基本となる出芽と融合の分子機構について解説する。	今泉美佳	第15章	講義
4/27	月	1	細胞内における小胞の移動-2	小胞体からゴルジ体を経由する小胞輸送とトランスゴルジ網からリソソームへの小胞輸送について解説した後、トランスゴルジ網から細胞外部への輸送（エキソサイトーシス）と細胞膜から細胞内への輸送（エンドサイトーシス）について解説する。	今泉美佳	第15章	講義
4/30	木	1	細胞のシグナル伝達-1	細胞における情報伝達の基本、およびGタンパク共役型細胞表面受容体（GPCR）と小分子細胞内仲介物質によるシグナル伝達について解説する。	今泉美佳	第16章	講義
5/11	月	1	細胞のシグナル伝達-2	ある種のGタンパクはホスホリパーゼCの活性化によりイノシトールリン脂質のシグナル伝達経路を活性化する。このイノシトールリン脂質経路を介したシグナル伝達について解説する。また、細胞質カルシウムイオン上昇に反応して活性化されるキナーゼである、Ca ²⁺ /カルモジュリン依存タンパクキナーゼ、タンパクキナーゼCを介したシグナル伝達について解説する。	今泉美佳	第16章	講義
5/19	火	1	細胞のシグナル伝達-3	受容体チロシンキナーゼの活性化および受容体チロシンキナーゼを介したシグナル伝達（Ras-MAPキナーゼ経路）について解説する。	今泉美佳	第16章	講義
5/22	金	1	細胞のシグナル伝達-4	受容体チロシンキナーゼを介したシグナル伝達（PI3キナーゼ-Aktシグナル経路）について解説する。講義の最後にGPCR、受容体チロシンキナーゼ、あるいはその両方によって活性化される細胞内シグナル伝達経路のまとめを行う。	今泉美佳	第16章	講義
5/26	火	1	細胞骨格-1	細胞骨格は微小管、アクチンフィラメント、中間径フィラメントの3種類のタンパク繊維を元に構築されている。これら細胞骨格繊維の特徴と機能、その起源について解説する。またアクチンフィラメントの調節に関わる様々な補助タンパク質の機能について学ぶ。	鈴木絢子	第17章	講義
5/29	金	1	細胞骨格-2	ATP加水分解のエネルギーを使って、微小管あるいはアクチンフィラメントに沿って動くモータータンパク質（ミオシン、キネシン、ダイニン）について解説する。また微小管の構造と動態、その調節に関わる補助タンパク質について、さらに中間径フィラメントの構造と機能について学ぶ。	鈴木絢子	第17章	講義
6/1	月	1	細胞周期-1	細胞周期を調節するサイクリンやCdkの制御機構を解説した後、S期の制御機構について解説を行う。	青柳共太	第18章	講義
6/5	金	1	細胞周期-2	細胞周期の中で最もダイナミックな過程であるM期について、染色体および細胞骨格の挙動に着目して解説する。またM期の最後におこる細胞質分裂について解説した後、各種のフィードバック機構による細胞周期の制御機構について解説する。	青柳共太	第18章	講義
6/9	火	1	細胞死	多細胞生物では不要となった細胞はプログラム細胞死つまりアポトーシスにより破壊される。アポトーシスのしくみについて解説する。	青柳共太	第18章	講義
6/12	金	1	細胞結合と細胞外マトリックス-1	生体を構成する上で重要な閉塞結合・固定結合・連絡結合について解説を行う。さらに各細胞接着に関与する分子とその分子機構について解説を行う。	青柳共太	第20章	講義
6/18	木	1	細胞結合と細胞外マトリックス-2	細胞外基質を構成する分子について解説を行い、各構成分子の役割について解説を行う。	青柳共太	第20章	講義
6/22	月	1	細胞結合と細胞外マトリックス-3	細胞と細胞外基質をつなぐインテグリンについて解説した後、インテグリンを介した細胞機能の制御機構について解説を行う	青柳共太	第20章	講義
6/22	月	2	がん-1	がんの形態と分類、発がんメカニズム、がん遺伝子とがん抑制遺伝子、遺伝性腫瘍の原因遺伝子について解説を行う	鈴木絢子	第20章	講義
6/25	木	1	特別講義-1	がんの進展に関する細胞生物学。講義終了後、リアクションペーパーの提出をもってALとする。	芳賀泰彦・鈴木絢子	配布プリント参照	講義(AL)
7/3	金	3	がん-2	がんの細胞生物学とそれに基づく治療法の開発について解説する。	鈴木絢子	第20章	講義
7/7	火	1	演習	細胞生物学的な知識と解析手法の理解度をCBTの方式に準拠した小テストにより確認する。その後、各問題の解説を行うことで半年間学んだ細胞生物学の復習を行い、ALとする。	今泉美佳、青柳共太	配布プリント参照	講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	統合生理学	科目ナンバリング	FME-2D04
単位	4単位	コマ数	62コマ
科目責任者	林玲匡 教授（統合生理学教室）		
担当教員	教授 林玲匡（統合生理学教室）、寺尾安生（病態生理学教室） 特任教授 大木紫（医学教育学） 准教授 渋谷賢（統合生理学教室） 特任准教授 八木淳一（統合生理学教室） 講師 鈴木伸弥（統合生理学教室） 非常勤講師 中島剛（国士館大学）		

A. 教育の基本方針	<p>生理学は生体が生命を維持するために必要な各機能単位のしくみおよび、それらの統合作用を解き明す学問である。統合生理学では、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①神経と筋で代表される興奮性細胞・組織の機能、 ②中枢神経系（脳・脊髄）の機能、 ③各種感覚器の機能、 ④精神機能に関連した脳の高次機能 ⑤心臓・循環系 <p>を解説し、実習を通して電気生理学的検査の手技・解析法を習得させることを目的としている。生物学、化学、物理学、解剖学、生化学で学んだ知識と統合し、人体の正常な機能を理解し、臨床科目の理解のための基礎知識を獲得してもらいたい。</p>												
B. 到達目標	<p>人体が正常に機能するためのメカニズムを人体の構造と結びつけて理解し、このメカニズムの異常がどのような病態を引き起こすかを理解することを目標とする。人体の各部の機能と同時に、全身の機能的結びつきとその異常について考えられるようにする。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④,⑥,⑦、実習：(1)-①,②,④, (2)-①,②,③,④,⑥,⑦, (3)-②,③,④</p>												
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体を構成する要素（細胞、組織、器官）と要素間の統合作用について、正常な機能を説明できる。 2. 構成要素と統合作用が正常に機能するための、基本的なメカニズムを説明できる。 3. これらのメカニズムの一部の異常がどのような原因によって引き起こされ、これによりどのような病態が見られるか説明できる。 4. 構成要素の機能状態を知るための、生理学的検査法を述べることができる。 												
D. 学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統講義年間コマ数（前期22；後期19） 講義日程は表を参照のこと。なお、一回目の講義の時に統合生理学サブノート資料を配布する。 2. 肉眼解剖学との合同講義（5回） 中枢神経系の機能を理解するため、解剖学と合同し、講義を行う。形態と機能を関連付けて学習する。 原則講義終了後に、その日の内容の小テストを行う。講義によっては、更に口頭試問を行う。 												
E. 実習・課外授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習 <ol style="list-style-type: none"> 1-1. 実習の基本方針 <ol style="list-style-type: none"> 1) 講義・教科書で得た知識を、自ら行う実験により裏づけ、観察・考察力を養う。 2) 神経系の正常機能を学ぶために、実習には動物実験の項目が含まれる。この内容については代替する手段がないため、動物の命を頂いているという意識をもって、真摯に取り組んでもらいたい。 3) 学生自身が験者・被験者になることにより、ヒト（患者）との応対への心がけを養う。 4) 実習中、得られたデータを基にディスカッションを行う。 5) 実習レポート（目的・方法・結果・考察・まとめ）の書き方の基本的形式を学ぶ。 1-2. その他、適宜講義の内容に沿った、デモンストレーションを行う。 1-3. 実習書は配布する。 1-4. 実習の項目 <table border="1" data-bbox="370 1579 1519 1926"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>活動電位</td> <td>カエル坐骨神経で活動電位の伝導の法則・伝導速度・不応期・閾値等を理解する。</td> </tr> <tr> <td>誘発筋電図</td> <td>ヒトでH波とM波を記録し、脊髄反射弓及び中枢神経活動を理解する。</td> </tr> <tr> <td>脳波</td> <td>ヒトで脳波、及び聴・体性感覚誘発電位を記録し、脳の機能局在・高次機能を理解する。</td> </tr> <tr> <td>心電図</td> <td>ヒトの心電図を記録し、その成因を理解する。</td> </tr> <tr> <td>視覚</td> <td>視野の計測と視覚の情報処理機序を理解する。</td> </tr> </tbody> </table> 1-5. 実習試験の施行の目的と方法 実習試験を、実習内容の理解を深めるために行う。試験の出題の内容は実習理解に必要な基礎的知識および実習内容に限る。 1-6. 実習の進め方 実習は、15名程度を1グループとしそれぞれのグループに指導教員がわりあてられる。1グループを更に小グループに分け、実習を行う場合がある。 	項目	概要	活動電位	カエル坐骨神経で活動電位の伝導の法則・伝導速度・不応期・閾値等を理解する。	誘発筋電図	ヒトでH波とM波を記録し、脊髄反射弓及び中枢神経活動を理解する。	脳波	ヒトで脳波、及び聴・体性感覚誘発電位を記録し、脳の機能局在・高次機能を理解する。	心電図	ヒトの心電図を記録し、その成因を理解する。	視覚	視野の計測と視覚の情報処理機序を理解する。
項目	概要												
活動電位	カエル坐骨神経で活動電位の伝導の法則・伝導速度・不応期・閾値等を理解する。												
誘発筋電図	ヒトでH波とM波を記録し、脊髄反射弓及び中枢神経活動を理解する。												
脳波	ヒトで脳波、及び聴・体性感覚誘発電位を記録し、脳の機能局在・高次機能を理解する。												
心電図	ヒトの心電図を記録し、その成因を理解する。												
視覚	視野の計測と視覚の情報処理機序を理解する。												

	<p>1-7. レポート提出 レポートは原則として当日中に学生が個々に提出する。提出されたレポートは“目的・方法・結果・考察”などの各項目の書き方について指導される。レポート未提出の場合は、実習試験を受験できない。</p> <p>1-8. 欠席連絡方法 実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。</p> <p>2. 課外教育 カンファレンス、あるいは抄読会への学生の参加の有無：特定のテーマに興味のある場合、学生の参加は自由である。</p>
F. 準備学習の内容	<p>授業前に、各項目ごとに使用する図・表および授業目標について資料を配布するので、十分予習をしておくことが望ましい。特に英文での説明があるものについては、よく理解しておくこと。</p> <p>項目によっては学生の発表をもとに討論を加える時間を設定するので、事前に各自が資料を作成しておくことを期待する。</p> <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>
G. 復習学習の内容	<p>授業後に、講義の内容を復習することが望ましい。理解できなかった点は、その都度担当教員に質問すること。</p> <p>所要時間の目安：各コマ75分程度</p>
H. 成績評価の方法・基準	<p>1. 試験の方針 系統講義の内容のうち、生理学的思考法、上級学年の講義の基礎となるもの、また将来臨床医となるために必要な基本的事項を出題する。一般的に使用される医学英語は理解しておくこと。</p> <p>2. 小テストは講義内容の理解の確認のために行うことがある。特に生理学・臨床科目の理解に絶対必要な生理学用語（日・英）の定着に重点を置く。</p> <p>3. 試験の実施方法と受験資格 前期期末試験 筆記（記述方式、多肢選択方式）：前期の講義を2/3以上出席した者 実習試験 筆記（記述方式、多肢選択方式）：全項目の実習を行い、レポートを提出した者 後期期末試験 筆記（記述方式、多肢選択方式）：後期の講義を2/3以上出席した者（実習を除く） なお、正当な理由により出席日数が足りない場合は、個別に判断する。</p> <p>4. 成績の評価法 前期試験：90点満点とし、これを担当者の講義時間に応じて配分し採点する。小テストの結果（時間内に提出した初回のもの）を、10点満点として加算する。 合計点が60点未満を不合格とする。 実習試験：レポート、解説をもとに試験を行う。試験は実習項目毎に行う。各項目100点満点とし60点未満を不合格とする。実習のレポートや態度は点数化し、最大5点の加点を行う（本試験のみ）。各項目の不合格者に対しては、別途レポートを課す。 後期試験：80点満点とし、これを担当者の講義時間に応じて配分し採点する。小テストの結果（時間内に提出した初回のもの）と実習試験の合計点を、それぞれ10点満点として加算する。合計点が60点未満を不合格とする。 年度末再試験：前期試験、または後期試験が60点未満の者に対して再試験を行う。再試験に合格した者の成績は60点とする。前期・後期の試験結果から総合成績を求める。 成績判定：前期・後期の総合成績と実習試験結果が、すべて60点以上を、合格とする。 フィードバック方法：試験終了後に各担当者ごとの点数を返却する。希望すれば、答案の閲覧を許可する。</p>

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	<p>オープン教育リソース動画 ・ Stanford Medicine 25 ・ Med School Made Easy</p>
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	<p>なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	<p>(A) 本間研一監修 標準生理学 医学書院 (R) 板東他監訳 バーン/レヴィ カラー基本生理学 西村書店 (A) 泰羅・中村監訳 カールソン神経科学テキスト 脳と行動 丸善 (R) 御手洗総監訳 ガイトン生理学 エルゼビア・ジャパン (R) 岡田・菅屋監訳 コスタanzo明解生理学 エルゼビア・ジャパン (A) 金澤他監修 カンデル神経科学 メディカル・サイエンス・インターナショナル ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/2	木	3	生理学概論	生理学の成り立ちを概説する。神経活動の性質を説明する。活動電位の細胞外記録、閾値、全か無の法則、伝導速度の測定法、強さ時間曲線、絶対・相対不応期を理解する。講義終了後に小テストを実施する。	林玲匡、大木紫	資料配布	講義(AL)
4/2	木	4	興奮性組織の特徴	興奮伝導の三原則を理解し、伝導ブロック等伝導異常の成因を考える。神経線維の分類の基準を理解する(末梢神経における感覚受容器との対応、伝導速度との関連性)。	大木紫	資料配布	講義(AL)
4/3	金	3	興奮性膜の電気現象(1)	ニューロンの情報処理(伝導・伝達)のメカニズムを学ぶ。第1回は「静止膜電位とは?」膜電位の記録法、イオン組成、平衡電位、ネルンストの式、Goldmanの式を踏まえて、その成り立ちを理解する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/6	月	2	興奮性膜の電気現象(2)	「イオンチャンネルとは?」電位依存型イオンチャンネルの開閉のメカニズムとイオン電流について、初歩的な電磁気学を踏まえて学ぶ。キーワード:電位固定、コンダクタンス、駆動力、I-Vカーブ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/8	水	3	興奮性膜の電気現象(3)	「活動電位とは?」第1、2日で学んだ内容を総合して、活動電位の発生メカニズムを理解する。研究の歴史的背景(Hodgkin & HuxleyのNa+説)も紹介する。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/9	木	1	興奮性膜の電気現象(4)	「シナプス伝達とは?」興奮性・抑制性シナプス伝達(EPSP、IPSP)とシナプスでの情報統合の仕組みを学ぶ。キーワード:グルタミン酸、GABA、受容体型イオンチャンネル、加重、促進と閉塞。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
4/9	木	2	感覚総論	感覚の分類を説明し、各感覚に共通する性質や用語(順応、受容野、周辺抑制等)を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
4/16	木	1	筋の生理学(1)	平滑筋と横紋筋の差異を概説した上で、骨格筋の微細構造(収縮蛋白質、筋節、内部膜系)、骨格筋の収縮機序(興奮収縮連関、滑走説)を説明する。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
4/22	水	3	筋の生理学(2)	骨格筋について、神経筋支配の特徴(運動単位)、筋線維の分類、力学的収縮特性(等張性収縮と等尺性収縮、単収縮と強縮)、病態を説明する。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
4/28	火	1	脊髄と脊髄神経	脊髄と脊髄神経の概観と脊髄神経の支配領域(皮膚分節)を概説した上で、脊髄の横断面で内部の構造を説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
4/28	火	2	脊髄反射	脊髄内の神経回路として、感覚神経からの入力(筋、腱、皮膚)、反射回路(伸張反射、自原抑制、屈曲反射)、その他の脊髄内神経回路(相反性神経支配、レزشョウ抑制、シナプス前抑制)を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
5/1	金	3	脊髄内回路とシナプスの性質	シナプスの性質について、脊髄内の回路と結びつけて説明する。加重、促進と閉塞、可塑性変化など。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/11	木	1	運動・感覚伝導路	脊髄内の上行・下行路を列挙し、主要なもの(錐体路、後索-内側毛帯路等)については脳との連絡の経路や伝える情報について説明する。伝導路障害を例をあげて解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/16	火	1	大脳皮質体性感覚野	受容器、感覚神経、伝導路を解説する(一部は脊髄で紹介)。更に一次体性感覚野に関し、存在部位、情報処理の性質(体部位局在、特徴抽出等)、脳内結合、病態について説明する。	寺尾安生	資料配布	講義(AL)
6/16	火	2	聴覚(1)	音の物理的性質を説明し、音情報を電気信号に変換するための聴器の構造と性質(耳小骨伝導、コルチ器、有毛細胞、進行波説等)を解説する。	洪谷賢	資料配布	講義(AL)
6/16	火	3	聴覚(2)	聴覚系の神経伝達経路(末梢神経、皮質下の神経核と経路、一次聴覚野)と、そこでの情報処理を解説する。更に音源定位のメカニズムや、聴覚障害について説明する。	洪谷賢	資料配布	講義(AL)
6/26	金	3	脳の構造と機能(1)	中枢神経系の系統発生・構成 脳の機能局在(一次運動野、一次感覚野、高次運動野、連合野の区分と機能)	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/29	月	3	脳の構造と機能(2)	一次運動野と一次感覚野を結ぶ連合野が、どのように高次精神機能を維持し育んでいくか、ヒトの症例を対比させ説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/30	火	1	脳の構造と機能(3)	12対の脳神経の機能を確認する。脳幹反射(対光反射、毛様脊髄反射、角膜反射など)の反射弓を理解する。統合生理学系統講義"姿勢、眼球運動、高次機能、脳幹"の項と関連し説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
6/30	火	2	脳の構造と機能(4)	大脳基底核について、その構造を概説し、基底核内の神経回路とその性質解説する。特にパーキンソン病とハンチントン病を取り上げ、病態における回路の変化やその結果生じる症状について説明する。	洪谷賢	資料配布	講義(AL)
7/1	水	3	脳の構造と機能(5)	小脳の構造と入力系の特徴、小脳の情報処理の性質、小脳症候の機序を説明する。特に、平衡機能、運動機能、高次脳機能における小脳の関与を学ぶ。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
7/6	月	3	平衡感覚と姿勢制御	平衡感覚の受容器である、前庭器について解説する。特に半規管、耳石器の構造と受容器細胞、感覚刺激を電気信号に変換機序、前庭反射・頸反射の機能的意義について説明する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
9/2	水	2	眼球運動	眼球運動を行う、外眼筋と支配神経について説明する。更に急速眼球運動と追従眼球運動について、発現のための神経経路と病態における変化を解説する。	寺尾安生	資料配布	講義(AL)
9/15	火	2	視覚(1)	視器の構造と性質を概説する。その上で、網膜内の受容器細胞と神経回路を説明、それぞれの光刺激に対する応答性を解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
9/24	木	2	視覚(2)	脳内の視覚伝導路を列挙する。特に膝状体系について、神経回路、それぞれの脳部位(網膜、外側膝状体、一次視覚野)での光応答性について解説する。	大木紫	資料配布	講義(AL)
10/8	木	1	味覚・嗅覚	味覚と嗅覚について説明する。特に、受容器細胞、感覚刺激を電気信号に変換する機序、中枢神経系への伝導路について説明する。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
10/14	水	2	痛覚	「痛みの受容と符号化」 侵害受容ニューロンが、様々な痛み刺激を受容し、電気信号へ符号化し、さらにその情報を中枢神経系で処理する機構を学ぶ。キーワード:C線維、Aδ線維、神経障害性疼痛。	鈴木伸弥	資料配布	講義(AL)
10/15	木	3	自律神経(1)	「末梢自律神経系の構成と作用」 交感・副交感神経(遠心路)の解剖と調節機構の基本を学び、さらに個別の組織・臓器への作用を理解する。	寺尾安生	資料配布	講義(AL)
10/21	水	2	自律神経(2)	「薬理作用」 交感・副交感神経から放出する伝達物質が、受容体を介して及ぼす作用について学ぶ。キーワード:アドレナリン、ノルアドレナリン、α作用、β作用、アセチルコリン。	寺尾安生	資料配布	講義(AL)
10/22	木	3	脳の高次機能(1)	錐体路と随意運動。筋緊張に影響する神経機序:γ系の役割、痙縮と固縮発現機序の理解。錐体路系と錐体外路系の随意運動における関連性を理解する。	林玲匡	資料配布	講義(AL)

2026年度 2年 講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/4	水	4	脳の高次機能(2)	学習と記憶。作業記憶・短期記憶から長期記憶へ。順行性健忘と逆行性健忘。Squireの記憶の分類(陳述記憶と手続き記憶)を理解する。	林玲匡	資料配布	講義(AL)
11/9	月	1	脳の高次機能(3)	情動。扁桃体とその他の脳・脊髄領域の、情動反応における関連性を理解する。パベツ回路、James-Lange説などを解説し、情動の異常について説明する。	林玲匡	資料配布	講義(AL)
11/9	月	3	意識と睡眠	意識と睡眠、脳波とその発生機序などについて解説する。実習の脳波の内容について、この時間で説明を行う。	大木紫	資料配布	講義(AL)
11/10	火	2	統合生理学と臨床神経学	統合生理学で学んだ内容と、臨床神経学(神経内科学)との関連を考察する。実際の疾患を例に挙げ、病態と診断、治療過程について生理学の観点から解説する。	寺尾安生	資料配布	講義(AL)
11/10	火	3	循環(1)	心臓と血液循環のメカニズムを、イオンチャネル・細胞・器官のレベルで理解し、合わせて心電図の基礎を学ぶ。第1回は、「循環回路と心臓の機能解剖学の基礎」。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/11	水	4	循環(2)	「洞房結節と心室筋の電気活動」 洞房結節の周期的な活動電位(ペースメーカー電位)と心室筋収縮のトリガーとなる心室筋細胞の活動電位の発生機序をイオンチャネルのレベルで理解する。	八木淳一	資料配布	講義
11/12	木	2	循環(3)	「心臓興奮伝導のメカニズムと心電図」 心臓の自動性を、ペースメーカー電位、興奮伝導、心筋の収縮という一連の流れから理解する。それを基に、心電図の記録法と成り立ちを学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/13	金	3	実習概説	実習項目についての概説	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	資料配布	講義
11/16	月	2	循環(4)	「自律神経系による心機能の調節」 自律神経系によるペースメーカーの変時作用と心筋収縮の変力作用を学ぶ。	八木淳一	資料配布	講義(AL)
11/17	火	2		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/17	火	3		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/17	火	4		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/17	火	5		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/18	水	2		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/18	水	3		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/18	水	4		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/18	水	5		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/19	木	2		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/19	木	3		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/19	木	4		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/19	木	5		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/20	金	3	循環(5)	「異常心電図」 典型的な不整脈と異常心電図の発生原因を電気生理学的論理から考察する。さらに、抗不整脈薬の基礎を学ぶ。	渋谷賢	資料配布	講義(AL)
11/24	火	2		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/24	火	3		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/24	火	4		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/24	火	5		A班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/25	水	2		A班:視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/25	水	3		A班:視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/25	水	4		A班:視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/25	水	5		A班:視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/26	木	2		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/26	木	3		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/26	木	4		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/26	木	5		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/27	金	3	循環(6)	「ポンプとしての心臓と循環系」 心臓のポンプ機能を、心周期・圧-容積曲線から理解する。また、血圧の調節機構とリンパの流れ等を学ぶ。	渋谷賢	資料配布	講義(AL)
11/30	月	2		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/30	月	3		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/30	月	4		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
11/30	月	5		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/1	火	2		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/1	火	3		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/1	火	4		B班:活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)

2026年度 2年 講義予定表

【統合生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
12/1	火	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/2	水	2		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/2	水	3		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/2	水	4		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/2	水	5		B班：活動電位、脳波、誘発筋電図、心電図	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/3	木	2		B班：視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/3	木	3		B班：視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/3	木	4		B班：視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/3	木	5		B班：視野	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛	実習書配布	実習(AL)
12/4	金	3	実習試験	実習試験（筆記）	林玲匡、大木紫、渋谷賢、八木淳一、鈴木伸弥、中島剛		試験

年度	2026年度	学年	2年
学科目	病態生理学	科目ナンバリング	FME-2D05
単位	4単位	コマ数	60コマ
科目責任者	寺尾安生 教授（病態生理学教室）		
担当教員	教授 寺尾安生（病態生理学教室）、林 玲匡（統合生理学教室） 准教授 三嶋竜弥（病態生理学教室） 学内講師 小藤剛史（放射性同位元素部門） 助教 中山高宏（病態生理学教室）、寺田さとみ（病態生理学教室）、渥美剛史（病態生理学教室）		

A. 教育の基本方針	<p>生理学は生体の調節と統合機能を究明する学問である。生体は体内における種々の調節機構によりその内部環境を一定に維持しており（恒常性）、多くの疾患はこのような調節機構に異常が生じるために起こる。本講座では主に人体の個体維持機能を理解するとともに、上のような調節機構がどのように障害されることで疾患の病態が生じるかを習得する。本講座の学習内容は脳・神経・筋・循環器系を扱う統合生理学と相補う関係にあり、主に体液、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌・代謝系の生理学に関する知識の習得と理解を深めることを目標とする。自然科学の一分野として、系統的、論理的な生理学的思考方法を涵養するとともに、疾患の病態生理の基礎的な理解を深めることで、3年次以降の臨床医学の学習につなげていくことを目指す。</p>				
B. 到達目標	<p>科目の学習終了時に、以下のような能力を習得していることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常の構造と機能を理解するとともに、個体の生命維持に関わる基本的な機能について生理学的に知識を習得し理解すること。 2. これらの機能を独立したものとしてではなく、相互に関連した統合的機能として理解すること。さらに最新の臨床医学の知見もとり入れた疾患の病態生理に関する基礎的な理解を深めること。 3. 様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考と研究的な態度によって問題解決を図る能力を身につけること。また自律的で、適切な自己評価に基づいて学び続ける態度を身につけること。 4. 上記により安全な医療を行う上で必要な、生理学の基礎知識、理解を身につけること。 <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④,⑥,⑦、実習：(1)-①,②,④, (2)-①,②,③,④,⑥,⑦, (3)-②,③,④</p>				
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・体液系、消化器系、腎臓、内分泌・代謝系、呼吸器系における人体の構造と正常生理について、その概略を理解し、説明できること。 2. 正常生理に基づいて上記の器官系における主要な疾患の病態を説明でき、実際の診療に応用できる基礎的な理解ができるようにすること。 3. 実習を通じて個体の生命維持に関わる機能についての基本的な実験の手法について理解し、実地に応用することができること。 				
D. 学習内容	系統講義	項目	概要	期	担当
	総論 一般生理学	生理学概論、生体膜と物質輸送	生体の基本単位である細胞膜の構造とそれを介した物質輸送、細胞内小器官について概説する。	前	寺尾、林
	各論 体液と血液	体液の区分と組成、血漿、血液凝固、線溶系、血液型、体液の緩衝系	体液と血液の区分、血漿と各血球について解説する。血液凝固と線溶系の機序、体液のpHや浸透圧の調節と異常、エネルギー代謝についても説明する。	前	寺尾、林
	呼吸生理	呼吸運動による肺の換気、肺胞のガス交換、血液ガスの運搬、呼吸中枢の働きと神経的調節、低酸素症、呼吸による酸塩基平衡の調節	呼吸により組織に酸素が供給され、二酸化炭素が排出される。血中の二酸化炭素分圧を変化させて酸塩基平衡を調節するという役割もある。呼吸を換気、ガス交換及び血液のガス運搬の面から説明し、その調節機構を説明する。	前	寺田
	消化と吸収の生理学	各消化器官における栄養素の消化と吸収。消化器官の機能調節機構	各臓器における消化と吸収を述べる。更に各消化器官が神経、ホルモンによりどのように調節されているかを説明する。	前	三嶋
	内分泌と生殖	ホルモンとは何か ホルモンの分泌とその調節、各ホルモンの作用、ホルモンによる生体機能の調節、ホルモンと生殖機能	総論ではホルモンの一般的性質について講義する。次に各ホルモンの作用、分泌細胞、化学構造、生理作用、分泌調節、過不足症について説明する。	後	寺尾、林
	腎臓と尿生成	腎臓の構造と尿細管の機能、腎臓における濾過・再吸収・分泌機能の機序、腎臓における体液の調節、排尿機序	腎臓の機能、尿生成について濾過・再吸収・分泌機能の観点から説明する。また排尿の過程、内分泌器官としての腎臓について述べて、恒常性維持における腎臓の重要性を説明する。	後	三嶋

アクティブラーニングの授業では、生理学講義の内容に関する問題や症例などを提示し、それに関して少人数のグループごと

	に学生にdiscussionをさせ発表してもらう。																								
E. 実習・課外授業	<p>[I] 実習</p> <p>1. 実習の基本方針 生理学は実験科学である。講義あるいは教科書等で学んだ知識を自らが行う実験により体得する。実験を通して観察力や洞察力を養い、レポートを書くことにより実験結果を理論的に解析することを学ぶ。また各人が被験者となることにより、他者（患者）との対応の仕方を経験する。実習は後期に実施する。</p> <p>2. 実習の項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>血液（人）</td> <td>血球観察と計算、ヘマトクリット、出血時間、凝固反応</td> <td>寺田</td> </tr> <tr> <td>消化管</td> <td>腸管のアミノ酸吸収能</td> <td>中山</td> </tr> <tr> <td>腎機能（人）</td> <td>腎臓におけるクリアランスの測定</td> <td>三嶋</td> </tr> <tr> <td>呼吸（人）</td> <td>スパイログラム</td> <td>小藤 渥美</td> </tr> <tr> <td>実習ディスカッション</td> <td>後述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習ガイダンス</td> <td>後述</td> <td></td> </tr> <tr> <td>実習試験</td> <td>後述</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 実習ガイダンス 実習開始前に学生の組み分けと実習の予定、心構え、内容および実習試験について説明する。</p> <p>4. 実習ディスカッション 実習の項目について、担当者から内容についての質疑応答を行い、理解を深める。</p> <p>5. 実験レポート 各項目毎にレポート提出を義務付けている。内容は実習データとそれに対する考察をまとめる。レポートを提出しない場合は実習試験の受験資格を失う。</p> <p>6. 実習試験とその評価 実習終了後に筆記試験を行う。試験内容は実際に実習で行った実験操作、技術と原理、実験データの解析、理解に関するものである。</p> <p>7. 実習及び実習試験は必修とする。</p> <p>8. 欠席連絡方法 実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。</p> <p>[II] 課外授業 希望者には教室で行っているセミナー、抄読会への参加、または休暇期間中の実験を主体とした課外教育を行う。</p>	項目	概要	担当	血液（人）	血球観察と計算、ヘマトクリット、出血時間、凝固反応	寺田	消化管	腸管のアミノ酸吸収能	中山	腎機能（人）	腎臓におけるクリアランスの測定	三嶋	呼吸（人）	スパイログラム	小藤 渥美	実習ディスカッション	後述		実習ガイダンス	後述		実習試験	後述	
項目	概要	担当																							
血液（人）	血球観察と計算、ヘマトクリット、出血時間、凝固反応	寺田																							
消化管	腸管のアミノ酸吸収能	中山																							
腎機能（人）	腎臓におけるクリアランスの測定	三嶋																							
呼吸（人）	スパイログラム	小藤 渥美																							
実習ディスカッション	後述																								
実習ガイダンス	後述																								
実習試験	後述																								
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書の関連事項について目を通しておくと共に、これまでに修得した学習内容との関連について知識を整理しておくことが必要である（所要時間の目安：各コマ75分程度）。疑問点についても必ず整理し、必要に応じて授業で質問できるようにしておく。																								
G. 復習学習の内容	講義で配布されたプリントおよび教科書の関連ページを熟読して復習すること。所要時間の目安：各コマ75分程度。																								
H. 成績評価の方法・基準	<p>1. 試験の方針 生理学の知識と論理的理解の評価を目的として試験を行う。</p> <p>2. 試験の実施方法と期日 (1) 前期試験（筆記） (2) 実習試験（筆記） (3) 後期試験（筆記）</p> <p>3. 成績の評価 ① (1) - (3) 試験及び再試験を各100点として、実習試験が60点未満、通年の成績で60点未満のいずれかであれば不合格とし、不合格となった者には通年の講義内容の再試験を行う（前期試験・実習試験については再試験を原則として行わないが、実習試験については60点未満の場合、必要に応じて適宜、再試験を行うことがある）。再試験に合格した者については通年の成績を60点とする。 ② 出欠 特別の事情がない場合、出席が講義時間数の3分の2未満の者は2. (1) - (3) の各試験の受験資格を失う。前期試験の受験資格は前期の出席率で、後期試験の受験資格は後期の出席率で判定する。実習試験の受験資格は実習100%出席、実習レポートの提出が前提となる。出席率は前期、後期の講義・実習を別々に判定する。</p> <p>4. フィードバック方法 試験終了後に模範解答を配布</p>																								
I. 学習指導書																									
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	ギャノン生理学 (William Ganong著 岡田泰伸訳 丸善 2022 原書26版) 文中の図、表を参考にして講義を行うことがあるので必ず講義に所持すること。																								
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	<p>(R) オックスフォード生理学 (G. Pocock著 植村慶一監訳 丸善 2016 第4版) (R) 標準生理学 (小澤 滯司/福田 康一郎編.医学書院 2019 第9版)</p> <p>※(R) : Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A) : Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>																								

③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
------------------------	--

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	水	2	血液と体液①	生理学総論1. 恒常性、細胞外液、細胞内液等の体液区分の細胞生理的意義、量・比率と測定法、各区分間での水分移動について説明する。	寺尾安生	6～9	講義
4/2	木	2	消化吸収①	糖質、蛋白質の特性について解説を行う。摂取後の消化について代表的な消化酵素をあげ、その吸収の機序について解説する。	三嶋竜弥	543、559～567	講義
4/8	水	2	消化吸収②	脂質の特性について解説を行い、消化器官での消化・吸収について説明する。また、電解質、ビタミン類の吸収についても解説する。	三嶋竜弥	543、567～578	講義
4/15	水	2	血液と体液②	生理学総論2. 各体液区分の組成の差異、それに関わる各区分間での物質輸送の形式(拡散、濾過、浸透、担体輸送等)について概説する。	寺尾安生	652～654	講義
4/22	水	2	血液と体液③	赤血球の諸性状、異常脆弱性、成人及び胎児ヘモグロビンの機能の差異、酸素解離曲線、貧血、ヘモグロビンの異常症、ABO及びRh型血液型について説明する。	寺尾安生	657～667	講義
4/28	火	3	血液と体液④	血漿の成分、アルブミンやグロブリン等の血漿タンパク質の分類、生理学的意義、量比、金属イオンや脂質輸送蛋白質について説明する。	林玲匡	3～5	講義
4/28	火	5	消化吸収③	消化器官の機能1: 消化器官の機能の概略について説明する。口腔、食道、胃の解剖学的特徴および消化器官としての機能を解説する。	三嶋竜弥	535～542、579～590	講義
5/1	金	4	消化吸収④	消化器官の機能2: 胃の機能制御機構について解説する。胆汁成分および、その分泌制御について解説する。小腸の解剖学的特徴と機能を解説する。	三嶋竜弥	538～552	講義(AL)
5/1	金	5	呼吸①	呼吸器の構造: 呼吸をするために必要な人体のしくみについて、それらの構造と呼吸における機能とを関連させて説明する。	寺田さとみ	722-728, 733-734	講義
5/13	水	2	血液と体液⑤	白血球の諸性状・分類、それらの基本的な機能について説明し、それに基づいて免疫系の概要について解説する。	寺尾安生	657～659	講義
5/14	木	1	呼吸②	呼吸のメカニクス: 吸息・呼息に伴う肺容積や圧力の変化、肺気量、肺や胸壁のコンプライアンスについて説明する。	寺田さとみ	729-736	講義
5/20	水	2	血液と体液⑥	止血と血液凝固: 止血の機序、血小板の機能と異常、血液凝固因子の作用、内因性・外因性血液凝固経路とカルシウムの役割、止血の異常、線溶系に係る因子群とその作用、血液凝固阻止剤等について説明する。	寺尾安生	668～673	講義
6/3	水	2	血液と体液⑦	体液pHの調節系(炭酸重炭酸系の緩衝作用とHenderson-Hasselbalchの式の意義、その他の体液系の緩衝系)について説明する。	寺尾安生	750-753	講義
6/8	月	1	消化吸収⑤	消化器官の機能3: 肝機能の概略を説明し、胆汁成分やその分泌制御について解説する。小テストあるいは小レポートを行う。	三嶋竜弥	729-736	講義
6/10	水	2	呼吸③	肺内ガス交換: ガスの物理化学的な性質、肺胞と血液間のガス交換について説明する。	寺田さとみ	736-738	講義
6/17	水	2	呼吸④	血液ガスの運搬: ヘモグロビンの構造と機能、ヘモグロビンの酸素親和性に影響する因子、血液による二酸化炭素運搬について説明する。	寺田さとみ	745-753	講義
6/23	火	2	エネルギー代謝	エネルギー代謝、酸素消費と呼吸商、酸素当量を用いたエネルギー産生の測定法等について説明する。	林玲匡	11, 26-34	講義
6/24	水	2	呼吸⑤	換気と血流: 肺循環、肺血流の調節、肺血流と換気の適合について説明する。	寺田さとみ	738-742	講義
6/24	水	3	内分泌①内分泌総論・甲状腺	甲状腺ホルモン: 甲状腺ホルモンの合成とヨード代謝、甲状腺ホルモンの作用、分泌調節、分泌亢進症とクレチン病等の不足による疾患について説明する。	寺尾安生	423～439	講義
6/25	木	2	呼吸⑥	呼吸の調節(1): 主に呼吸の自動的調節について、呼吸調節中枢・化学受容器・機械受容器などについて説明する。	寺田さとみ	763-773	講義
7/1	水	2	呼吸⑦	呼吸調節(2) 運動・高所環境における呼吸の変化、睡眠時無呼吸やCheyne-Stokes呼吸などの異常呼吸について説明する。	寺田さとみ	773-777, 755-757	講義
7/2	木	2	呼吸⑧	低酸素血症: 低酸素血症を来す原因について考える。呼吸不全についても簡単に説明する。小テストあるいはグループワークを行う。	寺田さとみ	753-761	講義(AL)
7/6	月	2	腎機能①	ネフロン構造と機能: 腎臓の解剖学的特徴やネフロンの各部位の機能について解説し、尿生成機構の概論を行う。	三嶋竜弥	781～785	講義
7/7	火	2	内分泌②	血糖調節(1) インスリンの血糖・脂質代謝等への作用、分泌調節、インスリンの成長への作用とIGF、グルカゴンの作用・分泌調節等について説明する。	寺尾安生	507～532	講義
7/8	水	2	腎機能②	糸球体機能: 糸球体で血漿を濾過し原尿を生成する機構およびそれに影響を与える要因について説明する。また、腎クリアランスの概念を説明する。	三嶋竜弥	785～790、815～819	講義
7/8	水	5	内分泌③	血糖調節(2) 正常の血糖調節のメカニズムに基づき、糖代謝と糖尿病の病態等について説明する。	寺尾安生	507～532	講義(AL)
10/7	水	2	内分泌④	副腎皮質: 副腎皮質ホルモン(糖質コルチコイド・電解質コルチコイド)の合成過程とその調節、副腎皮質ホルモンの分泌亢進症、アジソン病等不足症の病態について説明する。	寺尾安生	441～458	講義
10/13	火	2	内分泌⑤	副腎皮質: 副腎皮質ホルモン(副腎アンドロゲン)の合成過程と分泌調節、副腎過形成等の病態について、副腎髄質: カテコラミンの合成経路と作用、分解・分泌調節、交感神経受容体について説明する。	寺尾安生	393～422	講義
10/14	水	5	腎機能③	腎臓での再吸収・分泌: ヘンレループでの水、Naの再吸収機構について解説するとともに、対向流増幅器としての機能を解説する。遠位尿管での水、Naの再吸収機構について解説する。	三嶋竜弥	790～795	講義
10/15	木	5	内分泌⑥	下垂体前葉: 視床下部・下垂体門脈系による前葉ホルモンの分泌調節、各論として成長ホルモンの作用と分泌調節・過剰症、プロラクチンの作用と分泌調節について説明する。	林玲匡	393～422	講義

2026年度 2年 講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/19	月	5	内分泌⑦	下垂体後葉ホルモン：下垂体後葉ホルモンの産生と神経分泌の機序、バソプレッシン、オキシトシンの作用と関連する病態、神経内分泌反射等について説明する。	林玲匡	3 5 7～3 7 3	講義
10/20	火	2	内分泌⑧	血中カルシウムイオン代謝とホルモンによる調節（骨とカルシウム代謝、PTHの作用と分泌調節、カルシトニンの作用、ビタミンDの作用とUV・PTH等による合成調節過程）およびこれらに関連する病態について説明する。	寺尾安生	3 9 3～4 2 2	講義
10/21	水	5	腎機能④	尿生成の調節機能・排尿：集合管での水、Naの再吸収調節機構を解説する。尿細管内での尿原の浸透圧変化とその意味について説明する。	三嶋竜弥	796～801	講義
10/22	木	2	内分泌⑨	性腺機能（1）総論としての性染色体による性の決定、性分化の異常症、各論として精巣機能とテストステロンの作用、FSH・LHによる分泌調節について説明する。	寺尾安生	4 5 9～4 6 9、4 9 3～5 0 5	講義
11/4	水	2	腎機能⑤	腎による体液の恒常性の制御：体液量、体液浸透圧の変化に対する腎の役割について解説する。	三嶋竜弥	801～803、809～824	講義
11/4	水	5	内分泌⑩	性腺機能（2）卵巣機能と性周期：FSH・LHによる卵巣機能の調節と女性ホルモンの分泌、卵巣周期、子宮周期の調節について説明する。更に胎盤ホルモンの作用について概説する。	寺尾安生	4 5 9～4 9 1	講義(AL)
11/9	月	2	実習ガイダンス		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		講義
11/16	月	5	腎機能⑥	腎による体液の恒常性の制御：体液pHの変化に対する腎の役割について解説する。小テストあるいは小レポートを行う。	三嶋竜弥	804～808、825～835	講義(AL)
11/17	火	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/17	火	3	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/17	火	4	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/17	火	5	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/18	水	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/18	水	3	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/18	水	4	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/18	水	5	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/19	木	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/19	木	3	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/19	木	4	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/19	木	5	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/24	火	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/24	火	3	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/24	火	4	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/24	火	5	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/25	水	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/25	水	3	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/25	水	4	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/25	水	5	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/26	木	2	B班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習
11/26	木	3	A班：実習		寺尾安生、三嶋竜弥、寺田さとみ、中山高宏、小藤剛史、渥美剛史		実習

2026年度 2年 講義予定表

【病態生理学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
11/26	木	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
11/26	木	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	月	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	月	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	月	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
11/30	月	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/1	火	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/1	火	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/1	火	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/1	火	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/2	水	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/2	水	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/2	水	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/2	水	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/3	木	2		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/3	木	3		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/3	木	4		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/3	木	5		A班：実習	寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		実習
12/4	金	1	実習試験		寺尾安生、三嶋竜弥、 寺田さとみ、中山高宏、 小藤剛史、渥美剛史		試験

年度	2026年度	学年	2年
学科目	病理学 A	科目ナンバリング	FME-3E02
単位	2単位	コマ数	29コマ
科目責任者	柴原純二 教授		
担当教員	教授 柴原純二、藤原正親 准教授 長濱清隆、里見介史 学内講師 日比谷孝志 助教 村田翔平、加藤憲一郎 特任教授 市村幸一		

A. 教育の基本方針	<p>病理学は形態学を基盤に病気・病態の解明を目指す基礎医学の一分野であるとともに、形態に基づいた病気の診断（病理診断）を通して臨床医学にも貢献している。</p> <p>病理学Aは病理学総論と病理学各論の一部から構成され、病理学総論では疾患の分類や病因、成立機序の基本を理解し、病理学各論では各領域の主要疾患の病態や形態像について理解を深めることを目的とする。実習や講義中の演習では、講義や自習で得られた知識を深化させるとともに、論理的思考力を育む課題に取り組む。</p> <p>2年次前期までに学んだ基礎医学を応用しつつ、形態学を中心に据えた病理学の視点で疾患を学ぶことで基礎医学の理解を強固なものとする。また、数多くの具体的疾患の基礎を学び、臨床医学の理解を促進する。</p>																																						
B. 到達目標	<p>病理学総論では、病気の原因（病因）や基本病型を学び、炎症・免疫、先天異常、代謝障害、循環障害、腫瘍について分子～臓器レベルで病態を理解し、病理学各論では、循環器および消化器の主要な疾患の病因、発生機構と病理形態について理解を深めることを目標とする。実習では講義で得られた知識を深化させるとともに、科学的思考力を養うことを目標とする。</p> <p>【医学教育モデル・コア・カリキュラム（R4版）学修目標との関連】 RE-01-02-01,02, 02-01-01 PS-01-01-01,03,04,05,06,07,08,09,10, -01-02-04,05,07,10,11,12,13,14,25,28,29,30,31,32,37, -01-04-05,06,07,08,09,10,12,13,15,16,17,19,20,21,22,23,24, -02-01-01, -02-03-01,05, -02-06-01,05, -02-07-01,05, -02-08-01,05, -02-09-01,05, 02-10-01,05, -03-04-01,06,07,08,14, 03-05-02, S0-03-01-05</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④,⑥、実習：(1)-①,②, (2)-①,②,③,④,⑥, (3)-②,③,④</p>																																						
C. 修得すべき能力	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病因の分類、基本病型について説明できる。 2. 細胞傷害、炎症・感染、先天異常、代謝障害、循環障害、腫瘍について、病気・病態の成立機序や特徴的な形態変化を説明できる。 3. 主要な循環器・呼吸器・消化器・泌尿器・婦人科・血液・脳神経疾患の病態と形態変化を説明できる。 																																						
D. 学習内容	<p>以下の内容で病理学総論・各論の系統的講義・実習を行う。数字は講義数（うち実習数）。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 病理学総論</td> <td>17 (3)</td> </tr> <tr> <td> 序論</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 病理診断学</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 細胞傷害</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 炎症・感染症</td> <td>4 (1)</td> </tr> <tr> <td> 先天異常</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 代謝障害</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 循環障害</td> <td>3 (1)</td> </tr> <tr> <td> 腫瘍</td> <td>4 (1)</td> </tr> <tr> <td> 分子病理</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2. 病理学各論</td> <td>12 (4)</td> </tr> <tr> <td> 循環器疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 呼吸器疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 消化器疾患</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td> 泌尿器疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 婦人科疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 血液疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 脳神経疾患</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td> 各論実習</td> <td>4</td> </tr> </table> <p>アクティブラーニングの実施法 講義内容を題材とした討議・発表の機会を設ける。講義によっては小テストを実施する。</p>	1. 病理学総論	17 (3)	序論	1	病理診断学	1	細胞傷害	1	炎症・感染症	4 (1)	先天異常	1	代謝障害	1	循環障害	3 (1)	腫瘍	4 (1)	分子病理	1	2. 病理学各論	12 (4)	循環器疾患	1	呼吸器疾患	1	消化器疾患	2	泌尿器疾患	1	婦人科疾患	1	血液疾患	1	脳神経疾患	1	各論実習	4
1. 病理学総論	17 (3)																																						
序論	1																																						
病理診断学	1																																						
細胞傷害	1																																						
炎症・感染症	4 (1)																																						
先天異常	1																																						
代謝障害	1																																						
循環障害	3 (1)																																						
腫瘍	4 (1)																																						
分子病理	1																																						
2. 病理学各論	12 (4)																																						
循環器疾患	1																																						
呼吸器疾患	1																																						
消化器疾患	2																																						
泌尿器疾患	1																																						
婦人科疾患	1																																						
血液疾患	1																																						
脳神経疾患	1																																						
各論実習	4																																						
E. 実習・課外授業	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習 バーチャルスライドを用いた組織標本の観察と関連課題への取り組みを通して、病気の理解を深める。バーチャルスライドの観察にはPCもしくはタブレットを用いるため、各自持参のこと（スマートフォンは不可）。 実習は講義室で実施し、講義と同様の出欠管理を行う。欠席時に科目責任者への個別の連絡は不要。 アクティブラーニングの実施法：バーチャルスライドでの検討結果について討議・発表の機会を設ける。 2. 課外授業 希望する学生には「自由参加プログラム」で、より踏み込んだ病理診断力の習得や病理学に関する研究の機会を設ける。研究活動を通じて、研究の立案から論文作成に至るまでの研究プロセスを身に着けるとともに、倫理的側面についても理解を深めることが可能となる。 																																						

F. 準備学習の内容	講義に際しては、シラバスを参照し、教科書の該当箇所を目を通しておく。 実習に際しては、関連講義の内容について教科書や配布資料を用いて復習しておく。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	教科書や配布資料を再度熟読して復習する。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	1. 試験の方針 定期試験で講義・実習で学んだことの習得の有無を判定する。 2. 試験の方法と評価 試験は筆記試験でマークシート、再生形式、記述式を併用する。 3. 評価 試験では60点以上を合格とする。講義・実習時の態度や取組み内容についても進級判定の際の判断材料とする。 4. フィードバックの方法 講義や実習時の課題については講義・実習時間内に解説を行い、課題によってはUNIPAを介して全体ないし個別のフィードバックを行う。試験について試験終了後に模範解答を配布する。 実習は講義室で実施し、講義と同様の出欠管理を行う。欠席時に科目責任者への個別の連絡は不要。

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	標準病理学 医学書院 2023
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 病理組織の見方と鑑別診断 医歯薬出版 2020 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) ロビンス基礎病理学 丸善 2025 (R) ルービン病理学 西村書店 2017 (R) 解明病理学 医歯薬出版 2021 (A) 外科病理学 文光堂 2020 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【病理学 A】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/10	木	1	序論	病理学の概要について歴史を含めて概説する。	柴原純二	p3～p8	講義
9/18	金	1	病理診断学	病院における病理診断の実践について概説する。	柴原純二	p3～p8	講義
9/25	金	1	細胞障害	細胞障害の機序、変性、壊死、修復と再生、肥大、過形成、萎縮、細胞分化の異常について講義する。評価以外的小テストを行う。	藤原正親	p9～p32	講義(AL)
9/30	水	1	炎症 (1)	炎症の定義と病因、炎症の徴候、メディエーター、サイトカイン、炎症細胞浸潤と走化因子について解説する。講義内容を題材とした小テストをクリックー(ユニバを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	日比谷孝志	p33～p46	講義(AL)
10/1	木	1	炎症 (2)	炎症の分類と反応形式、その病理組織学的変化について解説する。講義内容を題材とした小テストをクリックー(ユニバを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	日比谷孝志	p46～p67	講義(AL)
10/2	金	1	感染症	ウイルスや細菌、真菌、原虫、寄生虫による感染について、頻度の高いものを中心に病理学的特徴を解説する。講義内容を題材とした小テストをクリックー(ユニバを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	日比谷孝志	p69～p92	講義(AL)
10/7	水	1	炎症/感染症・実習	代表的な炎症および感染症の組織像について、バーチャルスライドで検討し、理解を深める。	日比谷孝志	p33～p92	実習(AL)
10/9	金	1	先天異常	先天異常について、発生異常、染色体異常、遺伝子異常に分けて概説する。ユニバに付属するクリックー等を用いた演習や講義内容を題材とした課題を設定する。	長濱清隆	p201～p237	講義(AL)
10/13	火	1	循環障害 (1)	浮腫(水腫)、充血、うっ血、出血、血栓形成、塞栓症、梗塞、播種性血管内凝固症候群(DIC)について講義する。評価以外的小テストを行う。	藤原正親	p165～p188	講義(AL)
10/14	水	3	循環障害 (2)	心不全、高血圧と低血圧、ショックの概要とショックに伴う各臓器の組織所見について解説する。評価以外的小テストを行う。	藤原正親	p189～p199	講義(AL)
10/14	水	4	循環障害・実習	代表的な循環障害(出血、血栓症、梗塞など)の組織像について、バーチャルスライドで検討し、理解を深める。	藤原正親	p165～p199	実習(AL)
10/15	木	4	代謝障害	糖代謝、脂質代謝、蛋白質代謝を中心として、代謝障害の病理について解説する。ユニバに付属するクリックー等を用いた演習や講義内容を題材とした課題を設定する。	長濱清隆	p135～p164	講義(AL)
10/19	月	1	腫瘍 (1)	「『がん』とは何か?」をテーマとして、腫瘍の概念・定義、悪性腫瘍と良性腫瘍の違い、腫瘍の分類・命名法について講義する。発がんの原因や誘因についても解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	里見介史	p240～p283	講義(AL)
10/20	火	1	腫瘍 (2)	「『がん』の病理診断」をテーマとして、病理医がどのようにがんを診断しているかについて講義する。診断の補助となる免疫組織化学染色やin situ hybridizationについても解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	里見介史	p240～p283	講義(AL)
10/20	火	3	腫瘍 (3)	「『がん』の診断のその先へ」をテーマとして、近年その重要性が増す分子標的薬やがんゲノム医療などについて解説し、病理医が担う役割について解説する。講義内容を題材とした課題を設ける。	里見介史	p240～p283	講義(AL)
10/20	火	4	腫瘍・実習	これまでの講義を復習を中心とした演習形式の実習を行う。バーチャルスライドを使用して、実際のがんの診断も体験してもらう。	里見介史	資料配付	実習(AL)
10/21	水	3	循環器疾患	代表的な循環器疾患の病理・病態について解説する。評価以外的小テストを行う。	藤原正親	p339～p373	講義(AL)
10/21	水	4	呼吸器疾患	代表的な呼吸器疾患の病理・病態について解説する。評価以外的小テストを行う。	藤原正親	p375～p416	講義(AL)
10/22	木	1	消化管疾患	代表的な消化管疾患の病理・病態について解説する。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p433～p480	講義(AL)
10/22	木	4	肝胆膵疾患	代表的な肝胆膵疾患の病理・病態について解説する。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	柴原純二	p481～p534	講義(AL)
11/4	水	1	泌尿器疾患	代表的な泌尿器疾患の病理・病態について解説する。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	村田翔平	p535～p580	講義(AL)
11/4	水	3	婦人科疾患	子宮および子宮付属器に生じる代表的疾患、頻度の高い疾患について解説を行う。ユニバに付属するクリックー等を用いた演習や講義内容を題材とした課題を設定する。	長濱清隆	p627～p648	講義(AL)
11/5	木	1	血液疾患	血液疾患を理解する上で必要な免疫系の基本的な知識と、骨髄・リンパ節疾患の基本的な病理・病態について解説する。講義内容を題材とした小テストをクリックー(ユニバを使用)を用いて実施し、その場で学生の理解度を確認し、能動的学習を促す。	加藤憲一郎	p94～p100, p288～p337	講義(AL)
11/5	木	2	脳神経疾患	代表的な神経疾患の病態生理と形態学的異常について概説する。講義内容を題材とした演習・その他の検討の機会を設ける。	里見介史	p663～p690	講義(AL)
11/5	木	3	消化器疾患実習	代表的な消化管疾患、肝胆膵疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	柴原純二	p433～p534	実習(AL)
11/5	木	4	泌尿器・婦人科疾患実習	代表的な泌尿器疾患、婦人科疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	長濱清隆	p571～p580, p627～p648	実習(AL)
11/10	火	1	循環器・呼吸器疾患・実習	代表的な循環器疾患、呼吸器疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	藤原正親	p339～p416	実習(AL)
11/11	水	2	血液・脳神経疾患実習	代表的な血液疾患、脳神経疾患の組織像をバーチャルスライドで検討し、疾患についての理解を深める。	里見介史	p288-p338, p663～p690	実習(AL)
11/27	金	1	腫瘍の分子診断	脳腫瘍の診断に分子所見が導入された経緯と背景を、遺伝子解析の歴史を振り返りながら解説し、分子診断の意義についての理解を深める。	市村幸一	資料配布	講義

年度	2026年度	学年	2年
学科目	基礎感染症学	科目ナンバリング	FME-2E04
単位	3単位	コマ数	52コマ
科目責任者	三戸部治郎 教授		
担当教員	教授 三戸部治郎（感染症学教室） 客員教授 宮崎義継（国立健康危機管理研究機構） 准教授 森田鉄兵（感染症学教室） 兼担准教授 藏田 訓（保健学部） 講師 須藤直樹（感染症学教室） 学内講師 北条 史（実験動物施設） 非常勤講師 岡 健太郎（感染症学教室）、 渡士幸一（国立健康危機管理研究機構）、 鈴木里和（国立健康危機管理研究機構） 学外講師 赤堀ゆきこ（東京大学）		

A. 教育の基本方針	基礎感染症学の講義ではヒトの疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌およびプリオンについて基本的性状を学び、それぞれの病原体によって引き起こされる感染症の特徴を理解する。更に生体防御と各々の病原体が引き起こす感染症の発症機序を学ぶことで感染症の予防、診断および治療に必要な基礎知識を得る。 次年度以降の臨床科目では各科目に関連した疾患として感染症を学ぶ。その前段階として、本講義では病原体を種類別、また、感染症を系統毎に知識を得ることにより今後の学習の基盤とする。さらに、講義で学んだ内容を実習で体験することにより理解を深め、知識を会得する。																																				
B. 到達目標	病原体の基本性状について理解し、感染症の病態、治療、予防に必要な知識を得る。実習では、内容を十分に理解した上で正確に実験を実施し、得られた結果を的確に解析して正しく評価することが求められる。また、病原性のある細菌およびウイルスを用いて実験を行うことで、それらの基本性状に対する理解を深めることに加え、自他への感染を防御し、環境への拡散を防止するための手技を習得する。さらに、生体防御反応についての基本的解析手法を体得する。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④、実習：(1)-①,②,④, (2)-①,②,③,④, (3)-②,③,④																																				
C. 修得すべき能力	1. 細菌、ウイルスおよび真菌の基本的な性状を理解して説明できる。 2. 細菌、ウイルスおよび真菌感染症の特徴を理解して病態、診断、治療および予防に関する概要を説明できる。 3. 各々の病原体の特徴と、それが引き起こす感染症の病態、診断、治療を概説できる。 4. 感染防止対策に則り、病原体を安全にかつ正しく取り扱うことができる。																																				
D. 学習内容	1. 系統講義 年間コマ数 (27) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> <th>期</th> <th>コマ</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">細菌学</td> <td>総論</td> <td>病原体の基礎的知識、細菌の分類、一般性状、構造、生理、滅菌と消毒、化学療法、細菌遺伝学、感染と発症、宿主寄生体関係、予防、疫学</td> <td>後</td> <td>4</td> <td>須藤、北条、鈴木</td> </tr> <tr> <td>各論</td> <td>グラム陽性菌、陰性菌、リケッチア、クラミジアの性状とその感染症、真菌、日和見感染、院内感染</td> <td>後</td> <td>10</td> <td>三戸部、宮崎、森田、藏田、須藤、北条、</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">ウイルス学</td> <td>総論</td> <td>ウイルス学の歴史、ウイルスの分類、一般性状、構造、増殖、ウイルス遺伝学、持続感染、予防、疫学</td> <td>後</td> <td>1</td> <td>三戸部</td> </tr> <tr> <td>各論</td> <td>DNA型、RNA型ウイルスの性状とその感染症、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス、AIDS、プリオン</td> <td>後</td> <td>10</td> <td>三戸部、森田、須藤、渡士、赤堀</td> </tr> <tr> <td>特論</td> <td></td> <td>後</td> <td>2</td> <td>渡士、岡</td> </tr> </tbody> </table>					項目	概要	期	コマ	担当	細菌学	総論	病原体の基礎的知識、細菌の分類、一般性状、構造、生理、滅菌と消毒、化学療法、細菌遺伝学、感染と発症、宿主寄生体関係、予防、疫学	後	4	須藤、北条、鈴木	各論	グラム陽性菌、陰性菌、リケッチア、クラミジアの性状とその感染症、真菌、日和見感染、院内感染	後	10	三戸部、宮崎、森田、藏田、須藤、北条、	ウイルス学	総論	ウイルス学の歴史、ウイルスの分類、一般性状、構造、増殖、ウイルス遺伝学、持続感染、予防、疫学	後	1	三戸部	各論	DNA型、RNA型ウイルスの性状とその感染症、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス、AIDS、プリオン	後	10	三戸部、森田、須藤、渡士、赤堀	特論		後	2	渡士、岡
項目	概要	期	コマ	担当																																	
細菌学	総論	病原体の基礎的知識、細菌の分類、一般性状、構造、生理、滅菌と消毒、化学療法、細菌遺伝学、感染と発症、宿主寄生体関係、予防、疫学	後	4	須藤、北条、鈴木																																
	各論	グラム陽性菌、陰性菌、リケッチア、クラミジアの性状とその感染症、真菌、日和見感染、院内感染	後	10	三戸部、宮崎、森田、藏田、須藤、北条、																																
ウイルス学	総論	ウイルス学の歴史、ウイルスの分類、一般性状、構造、増殖、ウイルス遺伝学、持続感染、予防、疫学	後	1	三戸部																																
	各論	DNA型、RNA型ウイルスの性状とその感染症、肝炎ウイルス、腫瘍ウイルス、AIDS、プリオン	後	10	三戸部、森田、須藤、渡士、赤堀																																
特論		後	2	渡士、岡																																	
E. 実習・課外授業	1. 実習 (1) 実習の基本方針 「基礎感染症学実習」では病原微生物を扱う関係上、環境汚染と感染防止を念頭に消毒・滅菌について講義で習得した知識を更に深く体得し、感染と防御の生体的メカニズムを理解することを目的とする。 (2) 実習の項目 年間コマ数 (25) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					項目	概要	担当																													
項目	概要	担当																																			

細菌学	細菌検査材料の採取、保存、輸送 環境由来およびヒト常在菌の検出 消毒薬の効果 抗生物質感受性試験 感染症起因菌の検索 — 腸管感染症、尿路感染症、化膿性疾患	教室員全員
ウイルス学	ウイルスによる細胞変性効果の観察 ウイルス感染価の測定	教室員全員
生体防御	抗原抗体反応 — 酵素抗体法	教室員全員
アクティブラーニング	実習結果についての総合討論	教室員全員

(3) 実習講義またはガイダンス
微生物を用いた実習の特徴、実習室内での注意を説明した後、各項目について解説（映像併用）を毎回行う。

(4) レポートの提出の有無
実習項目について指定期限内のレポート提出を求める。
レポートは原則として全項目の実習を行った上で期限内に提出した者からのみ受け付ける。

(5) 総合討論
実習で実施した内容について発表と質疑応答を行う。

(6) 実習点
レポート、実習態度、総合討論の評価を総合して実習点とする。

(7) 欠席連絡方法
実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。

2. 課外教育
研究に興味がある学生には、感染症学教室で行っているセミナーや「自由参加プログラム」で、より踏み込んだ研究の機会を設ける。

F. 準備学習の内容
事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書などの該当する項目に目を通しておくこと。
所要時間の目安：各コマ75分程度

G. 復習学習の内容
講義資料や教科書の関連ページを熟読して復習すること。
所要時間の目安：各コマ75分程度

H. 成績評価の方法・基準

1. 試験の方針
病原体の特性、感染症発症の機序および特徴を理解し、それらに関連した疾病についての知識を習得し、次年度以降の科目を学ぶに耐え得る学力を有すると判定されることにより合格とする。
2. 試験の実施方法と期日
定期試験：筆記（記述方式、多肢選択方式）
定期試験の点数と実習点の合計が6割未満の者に再試験を実施する。
再試験の形式は多肢選択方式とする。
3. 定期試験受験資格に関する出席の取り扱い
受験資格：本学部試験規則に準じ、講義の2/3以上出席した者に付与する。
なお、正当な理由が無く実習を欠席した場合、筆記試験等の得点によらず、科目の評価は不合格となる。
4. 本科目合格の基準と成績の評価法
(1) 判定の基準
定期試験の点数と実習点の合計が6割以上、または再試験の点数が6割以上であることを基準に、上級学年での学修に適應できると判断された場合に合格とする。
(2) 成績の評価法
定期試験および実習点を元に総合的に評価する。再試験受験者の最終成績は、試験規則第5条により決定される。
5. フィードバック方法
授業および実習時間内で全体に対して行う。

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	細菌学・ウイルス学用教科書：錫谷達夫・松本哲哉編「標準微生物学」第15版 医学書院 2024年
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	(R) 病気がみえる。Vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版 メディックメディア 2018年 (A) 荒川宜親、神谷茂、柳雄介編 「病原微生物学—基礎と臨床—」東京化学同人、2014年、第1版 (A) 神谷茂、河野茂監訳 「微生物学—基礎から臨床へのアプローチ—」メディカル・サイエンス・インターナショナル 2012年 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	(R) 免疫学用教科書：エッセンシャル免疫学 笹月健彦 監訳（第4版）メディカル・サイエンス・インターナショナル 2023年 (A) 神谷茂、高橋秀実、林英生、俣野哲朗監訳 「ブラック微生物学」丸善 2014年 第3版 (A) 笹月健彦/吉開泰信 「免疫生物学原書」、南江堂、2019年、第9版 ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【基礎感染症学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
9/2	水	1	細菌学総論① (構造と機能)	細菌の構造と機能について、鞭毛、線毛、芽胞について学ぶ。細菌の分裂と増殖に関わる条件、培地と増殖因子、増殖曲線、菌数測定の方法等について学ぶ。異化代謝(呼吸と発酵)と同化代謝について学ぶ。感染症の予防についての知識を習得し、滅菌と消毒の概念および実際の方法について学ぶ。	北条史	資料配布 p22-41、p630-637	講義
9/4	金	1	細菌学総論② (細菌遺伝学)	真核細胞との違いを中心とした細菌の核様体、ゲノム、遺伝子の構造と発現の特徴について学ぶ。ゲノム外遺伝子であるプラスミドとファージについて学び遺伝子の水平伝達を理解する。	須藤直樹	資料配布 p42-62	講義
9/4	金	3	細菌学各論① (グラム陽性球菌)	グラム陽性球菌であるブドウ球菌群、特に黄色ブドウ球菌における病原因子、感染症、院内感染や耐性菌の出現について学ぶ。	須藤直樹	資料配布 p126-136	講義
9/9	水	1	細菌学各論② (グラム陽性球菌)	レンサ球菌(化膿レンサ球菌、B群レンサ球菌、肺炎球菌など)の細菌学的特徴や病原性について、およびこれら細菌の感染症について学ぶ。	北条史	資料配布 p136-145	講義
9/11	金	1	細菌学各論③(有芽胞菌・グラム陽性無芽胞桿菌)	有芽胞菌の特徴とバシラス属細菌およびクロストリジウム属細菌等について学ぶ。セレウス菌、破傷風菌、ボツリヌス菌及びディフィシル菌の病原性と感染症等について学ぶ。グラム陽性無芽胞桿菌であるリステリア属菌等について学ぶ。	森田鉄兵	資料配布 p146-165	講義
9/17	木	1	細菌学各論④ (グラム陰性桿菌)	腸管出血性大腸菌をはじめとする病原性大腸菌群の細菌学的特徴と病原性について学ぶ。赤痢、ペスト、腸チフス、サルモネラ食中毒などの原因となる細菌の病原性について学ぶ。カンピロバクター属細菌とその関連疾患、ヘリコバクター・ピロリの性状とその関連疾患、その他のヘリコバクター属細菌について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布 p160-174、p227-231	講義
9/24	木	1	細菌学各論⑥(グラム陰性好気性桿菌・グラム陰性無芽胞偏性嫌気性桿菌)	日和見感染症の原因菌として、クレブシエラ、プロテウス、セラチア、アシネトバクターの細菌学的特徴について学ぶ。主なグラム陰性好気性桿菌(緑膿菌、百日咳菌、レジオネラなど)の特徴と感染症の診断、治療について学ぶ。加えてグラム陰性の嫌気性細菌の特徴について学ぶ。	北条史	資料配布 p193-209、p214-223	講義
9/25	金	3	細菌学各論⑤ (グラム陰性桿菌)	腸管及び腸管外感染症の原因となるピリオ属細菌(コレラ菌、腸炎ピリオ、ピリオ・バルニフィカス)、エロモナス属細菌および、小児髄膜炎の原因菌となるインフルエンザ菌(Hib)の病原性について学ぶ。	三戸部治郎	資料配布 p175-184	講義
9/30	水	2	細菌学各論⑦ (抗酸菌・らせん菌)	マイコバクテリア科(抗酸菌)について学ぶ。結核、非定型抗酸菌感染症、ハンセン病について学ぶ。コリネバクテリウム属細菌とジフテリアについて学ぶ。またとボレリア属細菌を学ぶ。レプトスピラ目細菌とブラキスピラ目細菌を学ぶ。	森田鉄兵	資料配布 p224-226、p233-250	講義
10/2	金	3	細菌学各論⑧ (グラム陰性球菌および球菌)	性感症として梅毒トレポネーマと淋菌、クラミジアを学ぶ。好気性グラム陰性球菌の淋菌の近縁の髄膜炎、モラクセラ属菌についてその培養、生化学的性状、病原性等を学ぶ。	三戸部治郎	資料配布 p202-205、p219-221、p277-283	講義
10/8	木	2	リケッチア ウイルス学総論	偏性細胞内寄生性細菌であるリケッチア及びクラミジア(クラミドフィル)の性状と病原性について学ぶ。ウイルスの定義、基本的な性状について理解する。感染による細胞への影響を学ぶ。抗ウイルス薬の作用機序と問題点を理解する。	三戸部治郎	資料配布 p269-276、p329-371	講義
10/9	金	3	細菌学各論⑨ (マイコプラズマ等)	最小の細菌に分類され、原発性異型肺炎や泌尿器感染症を引き起こすマイコプラズマ属細菌の特徴、病原性および診断法について学ぶ。また放線菌の一種であるアクチノミセス属菌およびノカルジア属菌の性状と病原性について学ぶ。	藏田訓	資料配布 p250-253、p262-267	講義
10/13	火	3	ウイルス学各論①(ポックス・アデノウイルス)	ポックスウイルスの性状、構造を理解する。痘瘡および伝染性軟属腫の臨床症状や治療について学ぶ。アデノウイルスの性状、構造を理解する。アデノウイルス感染症として咽頭結膜熱、流行性角結膜炎などを学ぶ。	須藤直樹	資料配布 p394-397、p410-414	講義
10/14	水	1	ウイルス学各論②(ヘルペスウイルス①)	ヘルペスウイルスの構造、性状、分類を学ぶ。単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルスの潜伏感染と活性化について学ぶ。これらの感染症の臨床症状、診断、治療などについて理解する。HHV-6とHHV-7感染症について学ぶ。	森田鉄兵	資料配布 p397-408	講義
10/15	木	1	細菌学総論③(化学療法)	主要な抗菌薬の作用と特徴について学ぶ。	鈴木里和	資料配布 p93-113	講義
10/15	木	2	細菌学総論④(化学療法)	代表的な薬剤耐性菌と薬剤耐性機構について学ぶ。抗菌薬化学療法のまとめ学習を行う。	鈴木里和	資料配布 p93-113	講義
10/19	月	2	ウイルス学各論③(ヘルペスウイルス②、パピローマウイルス)	サイトメガロウイルス、エプスタイン・バー(EBV)、HHV-8とその感染症について、症状、診断、治療などを学ぶ。ヒトパピローマウイルスおよびその感染症と予防などを学ぶ。	森田鉄兵	資料配布 p407-410、p414-417	講義
10/21	水	1	細菌学各⑩(真菌)	真菌の性状、特に細菌との違いについて学ぶ。抗真菌薬について学ぶ。酵母、菌糸および胞子からなる真菌の構造を理解する。アスペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、白癬菌などの真菌が引き起こす感染症の症状、診断、治療について学ぶ。	宮崎義継	資料配布 p287-326	講義
10/26	月	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/26	月	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/26	月	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/26	月	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/26	月	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/27	火	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/27	火	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習

2026年度 2年 講義予定表

【基礎感染症学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
10/27	火	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/27	火	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/27	火	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/28	水	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/28	水	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/28	水	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/28	水	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/28	水	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/29	木	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/29	木	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/29	木	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/29	木	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/29	木	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習
10/30	金	1	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学 (グループ・ディスカッション)	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
10/30	金	2	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学 (グループ・ディスカッション)	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
10/30	金	3	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学 (グループ・ディスカッション)	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
10/30	金	4	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学 (グループ・ディスカッション)	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
10/30	金	5	学生実習	細菌学、免疫学、ウイルス学 (グループ・ディスカッション)	三戸部治郎、森田鉄兵、須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
11/9	月	4	感染症特論②	正常細菌叢の生体への作用およびプロバイオティクスの医学への応用について学ぶ。正常細菌叢の例として口腔内細菌叢について学ぶ。	岡健太郎	資料配布 p81-86、p264-271	講義
11/10	火	4	感染症特論①	実験室でのウイルス感染実験を用いた抗ウイルス薬探索研究を学ぶ。感染症創薬研究の実際を知り、治療薬開発の行程や手法、治療薬に求められる性状とその特徴を学ぶ。	渡士幸一	資料配布	講義
11/11	水	1	ウイルス学各論④ (パルボ・ピコウイルス)	伝染性紅斑を引き起こすパルボウイルスの性状と病原性を理解する。ピコウイルスのうち、エンテロウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス感染症について学ぶ。ポリオマウイルスおよびその関連疾患について学ぶ。	須藤直樹	資料配布 p418-422、p425-430	講義
11/12	木	1	ウイルス学各論⑤ (レオ・カリシウイルス)	ロタウイルスの性状、構造を理解する。同ウイルス感染症として乳幼児下痢症の臨床像、診断、治療について学ぶ。ノロウイルス感染症の疫学、診断、治療などを理解する。	森田鉄兵	資料配布 p417-421、p485-491	講義
11/13	金	1	ウイルス学各論⑥ (トガ、フラビ、コロナウイルス)	風疹および先天性風疹症候群の臨床所見、診断、治療および予防について学ぶ。日本脳炎、黄熱およびデング熱の臨床所見、診断、治療および予防について学ぶ。コロナウイルスおよびSARSについて学ぶ。	三戸部治郎	資料配布 p422-434、p439-447	講義
11/16	月	3	ウイルス学各論⑦ (オルソミキソウイルス)	インフルエンザウイルスの形態、遺伝子構造、増殖機構、抗原変異、遺伝子再集合について理解する。インフルエンザの疫学、臨床症状、診断、治療および予防について学ぶ。	赤堀ゆきこ	資料配布 p450-458	講義
11/16	月	4	ウイルス学各論⑩ (肝炎ウイルス)	肝炎ウイルスの分類、性状、構造を理解する。A型肝炎ウイルスによる流行性肝炎の臨床像について学ぶ。B型およびC型肝炎ウイルスによる感染症の診断および治療について学ぶ。	渡士幸一	資料配布 p416、p434-438、p514-518	講義
11/24	火	1	ウイルス学各論⑧ (パラミキソウイルス等)	麻疹ウイルスの性状および麻疹、SSPEの臨床像、診断、治療、予防について学ぶ。ラブドウイルス、フィロウイルスなどの出血熱ウイルスについて理解する。	須藤直樹	資料配布 p474-498	講義
11/25	水	1	ウイルス学各論⑨ (レトロウイルス)	レトロウイルスであるヒト免疫不全ウイルス (HIV) の性状、構造を理解する。AIDSの臨床像を知るとともに、AIDS治療薬の作用メカニズムおよび治療法について学ぶ。プリオンの性状、構造を理解する。プリオン病としてクールー、クロイツフェルト・ヤコブ病の臨床像を学ぶ。スクレピー、ウシ海綿状脳症 (BSE) の症状を理解する。	三戸部治郎	資料配布 p493-514、p519-522	講義

年度	2026年度	学年	2年
学科目	熱帯病・寄生虫学	科目ナンバリング	FME-2E05
単位	1単位	コマ数	29コマ
科目責任者	三戸部治郎 教授		
担当教員	教授 三戸部治郎 (感染症学教室) 准教授 森田鉄兵 (感染症学教室) 講師 須藤直樹 (感染症学教室) 学内講師 北条 史 (実験動物施設) 非常勤講師 春木宏介 (獨協医科大学埼玉医療センター) 中村 (内山) ふくみ (東京都立墨東病院) 学外講師 森田達志 (日本獣医生命科学大学)		

A. 教育の基本方針	輸入感染症を含めた熱帯病、寄生虫病の現状を把握し、その感染経路、形態および生理など基礎的知識を理解するとともに病態、診断、治療、予防についての臨床的知識を身につけることを基本方針とする。																																
B. 到達目標	人体寄生虫の分類・形態・生活史を学ぶことにより、宿主(ヒト)-寄生虫相互作用の観点から寄生虫疾患の病態生理を理解し、さらにその診断法・予防法を導き出す能力を身につけると共に、治療法を理解する。今後、輸入寄生虫疾患の増大が危ぶまれる我が国の状況を理解し、さらに熱帯病・寄生虫症がもたらす健康問題や疾病の予防について地球規模の視野にたつて理解できる能力を養うことを到達目標とする。 【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 講義：(2)-①,②,③,④、実習：(1)-①,②,④, (2)-①,②,③,④, (3)-②,③,④																																
C. 修得すべき能力	1. 原虫類・蠕虫類の分類および形態学的特徴を説明できる。 2. 寄生虫の生活史、感染経路と感染疫学的意義を説明できる。 3. 寄生虫感染宿主の生体防御の特徴を説明できる。 4. 日和見感染症と寄生虫症の重症化を説明できる。 5. 各臓器・器官の主な寄生虫症を説明できる。 6. 人畜共通寄生虫症について説明できる。 7. 寄生虫症の診断、治療と予防の概要を説明できる。 8. 病害動物による直接的害と間接的害を説明できる。																																
D. 学習内容	総論として熱帯病及び寄生虫病の基礎知識と現状について、各論としてそれぞれの寄生虫疾患の感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法などについて学ぶ。また、感染源としての病害動物について理解する。さらに、重要熱帯病に関しては、その疫学と対策、新薬開発の現状について知る。 1. 系統講義 年間コマ数(17) <table border="1" data-bbox="371 1193 1513 1688"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> <th>期</th> <th>コマ</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人体寄生原虫学</td> <td>熱帯病・寄生虫学総論 人体寄生原虫学総論 各論(原虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)</td> <td>前</td> <td>4</td> <td>北条 春木</td> </tr> <tr> <td>人体寄生蠕虫学</td> <td>人体寄生蠕虫学総論 各論(線虫類・吸虫類・条虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)</td> <td>前</td> <td>7</td> <td>森田(達) 北条</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">臨床寄生虫学</td> <td>渡航医学の現状</td> <td>前</td> <td>2</td> <td>春木</td> </tr> <tr> <td>日本における寄生虫感染症の現状 (アクティブ・ラーニング形式)</td> <td>前</td> <td>2</td> <td>中村</td> </tr> <tr> <td>衛生動物学</td> <td>病害動物の形態、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など</td> <td>前</td> <td>2</td> <td>森田(達)</td> </tr> </tbody> </table>				項目	概要	期	コマ	担当	人体寄生原虫学	熱帯病・寄生虫学総論 人体寄生原虫学総論 各論(原虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)	前	4	北条 春木	人体寄生蠕虫学	人体寄生蠕虫学総論 各論(線虫類・吸虫類・条虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)	前	7	森田(達) 北条	臨床寄生虫学	渡航医学の現状	前	2	春木	日本における寄生虫感染症の現状 (アクティブ・ラーニング形式)	前	2	中村	衛生動物学	病害動物の形態、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など	前	2	森田(達)
項目	概要	期	コマ	担当																													
人体寄生原虫学	熱帯病・寄生虫学総論 人体寄生原虫学総論 各論(原虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)	前	4	北条 春木																													
人体寄生蠕虫学	人体寄生蠕虫学総論 各論(線虫類・吸虫類・条虫類の形態、感染経路、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など)	前	7	森田(達) 北条																													
臨床寄生虫学	渡航医学の現状	前	2	春木																													
	日本における寄生虫感染症の現状 (アクティブ・ラーニング形式)	前	2	中村																													
衛生動物学	病害動物の形態、臨床症状、検査・診断、治療、予防法など	前	2	森田(達)																													
E. 実習・課外授業	1. 実習 (1) 実習の基本方針 実習で提示された症状の鑑別疾患、検査法、診断について学生間でディスカッションしながら自主的に進める。用意された検査材料を用いて標本を作製・観察し、ディスカッションで導き出された診断の根拠となる情報を揃える。 (2) 実習の項目 年間コマ数(12) <table border="1" data-bbox="371 1957 1169 2089"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>概要</th> <th>期</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原虫類</td> <td>消化管寄生原虫の観察</td> <td>前</td> <td>教室員全員</td> </tr> <tr> <td>血液および組織寄生原虫の観察</td> <td>前</td> <td>教室員全員</td> </tr> </tbody> </table>				項目	概要	期	担当	原虫類	消化管寄生原虫の観察	前	教室員全員	血液および組織寄生原虫の観察	前	教室員全員																		
項目	概要	期	担当																														
原虫類	消化管寄生原虫の観察	前	教室員全員																														
	血液および組織寄生原虫の観察	前	教室員全員																														

	<table border="1"> <tr> <td>線虫類</td> <td>魚類からの線虫の採取・観察 寄生線虫の虫体・虫卵標本の観察</td> <td>前</td> <td>教室員全員</td> </tr> <tr> <td>吸虫・条虫類</td> <td>吸虫・条虫の虫体・虫卵標本の観察</td> <td>前</td> <td>教室員全員</td> </tr> </table> <p>(*生鮮材料調達の都合上、実習の順序が前後する場合がある)</p> <p>(3)欠席連絡方法 実習を欠席する場合は、事前にUNIPAの「授業Q&A回答」を通じて、実習担当の先生へ連絡すること。</p> <p>2. 課外教育 研究に興味がある学生には、感染症学教室で行っているセミナーや「自由参加プログラム」で、より踏み込んだ研究の機会を設ける。</p>	線虫類	魚類からの線虫の採取・観察 寄生線虫の虫体・虫卵標本の観察	前	教室員全員	吸虫・条虫類	吸虫・条虫の虫体・虫卵標本の観察	前	教室員全員
線虫類	魚類からの線虫の採取・観察 寄生線虫の虫体・虫卵標本の観察	前	教室員全員						
吸虫・条虫類	吸虫・条虫の虫体・虫卵標本の観察	前	教室員全員						
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、教科書や参考書などの該当する項目に目を通しておくこと（所要時間の目安：各コマ75分程度）。								
G. 復習学習の内容	教科書の関連ページや講義資料を熟読して復習すること（所要時間の目安：各コマ75分程度）。実習各回の前に関連講義内容を復習することが、C.に掲げる能力の最終的な修得に、特に有効である。								
H. 成績評価の方法・基準	<p>1. 試験の方針 講義および実習で学んだ基本的事項を正しく理解したか総合的に評価し、本科目の最終成績を決定する。</p> <p>2. 定期試験と再試験 定期試験：講義および実習内容から出題する。筆記（記述方式、多肢選択方式） 再試験（学年末）：定期試験の点数と実習点の合計が6割未満の者に再試験を実施する。 再試験の形式は多肢選択方式とする。</p> <p>3. 実習レポート 実習（3コマ×4回）の各回終了時に、観察結果をまとめたレポートの提出を義務付ける。実習中に許可なく退出した者や、期限後の提出レポートは受理されない。</p> <p>4. 講義・実習の出席の取り扱いと定期試験受験資格 試験規則第4条に準じて受験資格を講義出席により判定する。実習はそれ自体が必修である。正当な理由がない場合の実習欠席は不合格となる。その場合、筆記試験等の得点によらず、科目の評価は不合格となる。</p> <p>5. 本科目合格の基準と成績の評価法 (1) 判定の基準 定期試験の点数がと実習点の合計が6割以上、または再試験の点数が6割以上であることを基準に、上級学年での学修に適應できると判断された場合に合格とする。 (2) 成績の評価法 定期試験および実習点を元に総合的に評価する。再試験受験者の最終成績は、試験規則第5条により決定される。</p> <p>6. フィードバック方法 授業および実習時間内で全体に対して行う。</p>								
I. 学習指導書									
①教科書（学生が所持しなければならないもの）	吉田幸雄・有園直樹著 図説人体寄生虫学（第10版）南山堂 2021年（最新10版を入手する。本書中の図表を筆記試験に引用することがある。）								
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	<p>(R) 病気がみえる。Vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版 メディックメディア 2018年 (R) 錫谷達夫・松本哲哉編 標準微生物学（第15版）医学書院 2024年 M2基礎感染症学の指定教科書。第VII編 寄生虫学を上記教科書「人体寄生虫学」と併読することを勧める。 特にマラリア、トキソプラズマ、糞線虫などの項については、教科書と同等以上の活用を勧める。</p> <p>※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補助的なもの</p>								
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	<p>(A)国立健康危機管理研究機構：熱帯病治療薬研究班編集 「寄生虫薬物治療の手引き」（シラバス作成時点、最新2020年改訂 10.2版） わが国における熱帯病・寄生虫症の最適な診断・治療法がまとめられている資料である。熱帯病治療薬研究班のホームページ（https://www.nettai.org/）よりPDF版を自由にダウンロードできるので、活用を強く勧める。また、熱帯病治療薬研究班のホームページからは、本手引きの他にも、「マラリア 検査・治療・予防の手引き」「トキソプラズマ症の手引」など、有用な随時更新資料を入手可能なので、活用を勧める。</p> <p>※(A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>								
J. 講義予定表									
「添付資料」参照									

2026年度 2年 講義予定表

【熱帯病・寄生虫学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/1	水	3	総論 原虫性疾患（1）	総論で寄生虫の分類と生活環、寄生虫疾患の検査・診断の概要を学ぶ。原虫学総論で原虫の分類とその特徴を理解する。各論では、アメーバ赤痢、アメーバ性角膜炎、アフリカ睡眠病やシャーガス病、リーシュマニア症についてについて、起原原虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。加えて医学研究を支える動物実験について学ぶ。	北条史	8-9、24-31、36-37	講義
4/1	水	5	原虫性疾患（2）	ランブル鞭毛虫（ジアルジア）、臍トリコモナス、クリプトスポリジウム、トキシプラズマなどの形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	北条史	46-61	講義
4/9	木	3	原虫性疾患（3）	マラリアについて、起原原虫であるマラリア原虫の形態と生活環、症状、検査・診断を学ぶ。5種のヒトマラリアのうち、死の転帰をとる熱帯熱マラリアと他のマラリアとの違いを理解する。	春木宏介	62-73	講義
4/9	木	4	臨床寄生虫学 渡航医学の現状（1）	グローバルヘルスの観点から寄生虫疾患の重要性を理解し、特に顧みられない熱帯病とそれに対する対策について学ぶ。	春木宏介	教科書全般	講義
4/15	水	5	原虫性疾患（4）	グループワーク（1）原虫性疾患	北条史		講義(AL)
5/1	金	1	衛生動物学（1）	日常診療において遭遇しやすいダニ類（特にマダニ類）や昆虫類による直接的害と間接的害について理解し、その対処法を学ぶ。	森田達志	209-210、218-251	講義
5/1	金	2	衛生動物学（2）	引き続き、ダニ類や昆虫類による害とその対処法について学ぶ。	森田達志	209-210、218-251	講義
5/8	金	3	蠕虫性疾患 線虫症（1）	線虫類の特徴を理解する。各論では、土壌伝搬線虫（ヒト回虫、スズビ鉤虫・アメリカ鉤虫、ヒト鞭虫、糞線虫）とヒト蟯虫の形態や生活環を理解する。また、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	北条史	87-97、106-121、 126-127、144-145	講義
5/13	水	1	臨床寄生虫学 渡航医学の現状（2）	グループワーク（2）衛生動物学・渡航医学	春木宏介		講義(AL)
5/15	金	1	蠕虫性疾患 線虫症（2）	広東住血線虫、糸状虫およびヒトに幼虫移行症を起こす線虫のうち、アニサキス、旋尾線虫、顎口虫、旋毛虫の形態や生活環を理解し、それらが引き起こす疾患の症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	北条史	98-105、128-133、 146-147	講義
5/20	水	3	蠕虫性疾患 線虫症（3）	グループワーク（3）線虫症	北条史		講義(AL)
5/27	水	1	蠕虫性疾患 吸虫症（1）	吸虫類の特徴を理解する。各論では、重要種である肝蛭、肺吸虫、横川吸虫、肝吸虫および住血吸虫のいくつかの焦点をあて、その形態、生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	森田達志	88、149-167	講義
5/27	水	2	蠕虫性疾患 条虫症（1）	条虫類の特徴を理解する。各論では、重要種である日本海裂頭条虫、無鉤条虫および有鉤条虫に焦点をあて、その形態、生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。さらにはエキノコックス症（包虫症）、時間が許せばマンソン弧虫症についても起原条虫の形態と生活環、症状、検査・診断、治療、予防法を学ぶ。	森田達志	88、185-200-205、 207	講義
5/28	木	1	蠕虫性疾患 吸虫症（2）	グループワーク（4）吸虫症	森田達志		講義(AL)
6/2	火	1	蠕虫性疾患 条虫症（2）	グループワーク（5）条虫症	森田達志		講義(AL)
6/17	水	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/17	水	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/17	水	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（1）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
6/18	木	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/18	木	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/18	木	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（2）原虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
6/22	月	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/22	月	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/22	月	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（3）線虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
6/23	火	3	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/23	火	4	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習
6/23	火	5	学生実習	熱帯病・寄生虫学実習（4）吸虫・条虫類	三戸部治郎、森田鉄兵、 須藤直樹、北条史	資料配布	実習(AL)
7/7	火	3	臨床寄生虫学 日本における寄生虫感染症の現状（1）	寄生虫感染症は決して過去の病気ではなく、現在も国内感染例・輸入感染例がある。寄生虫分野に詳しい現役の感染症専門医が実際に診療した症例を通して、寄生虫の臨床を学ぶ。講師と学生の対話形式による能動的な学習体系にて実施する。	中村（内山）ふくみ	教科書全般	講義(AL)

2026年度 2年 講義予定表

【熱帯病・寄生虫学】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
7/7	火	4	臨床寄生虫学 日本における寄生虫感染症の現状（2）	引き続き、実際に診療した症例が示される。講師と学生の対話形式で議論を展開して、これまで学んだ知識を臨床現場で活かす力を養う。	中村（内山）ふくみ	教科書全般	講義(AL)

年度	2026年度	学年	2年
学科目	保健・医療の現状と未来Ⅱ	科目ナンバリング	FME-2F02
単位	1単位	コマ数	12コマ
科目責任者	市川弥生子 教授（教務部長）		
担当教員	<p>教授 石井晴之（呼吸器内科学）、駒形嘉紀（腎臓・リウマチ膠原病内科学）、長島文夫（腫瘍内科学）、 亀山祐美（高齢医学）、須並英二（消化器・一般外科学）、窪田博（心臓血管外科学）、 細金直文（整形外科学）、山田深（リハビリテーション医学）、尾崎峰（形成外科学）、 福原浩（泌尿器科学）、井上真（眼科学）、横山健一（放射線医学）</p> <p>上記担当教員については、主として医学部付属病院において、医師として勤務（実務経験）する教員が講義・実習を担当しており、実際の医療現場における最新の知見に基づく教育内容を受けることができる。</p>		

A. 教育の基本方針	医学部に入学した早期の段階で、臨床医学の様々なトピックスの話題に接することで、臨床医学への関心を高め、日常の基礎医学の学習との関連も考える。1年次の保健・医療の現状と未来Ⅰに続いて、2年次には、専門分野のトピックスや医学生へのメッセージを各々の分野のリーダーが講義する。6年間にわたる医学部での学習の意義や自らの至るべき目標を明確なものとするをめざす。
B. 到達目標	<p>臨床医学を理解するのに必要な基礎的教養や基礎医学の習得をめざす。そして、教育目標に掲げる</p> <p>(1) 医師の社会的責任を意識し (2) 医学知識と技能を修得するための心構えを身につけ (3) 問題解決能力とリサーチマインドの涵養を志すことを目標とする。</p> <p>【杏林大学医学部学生の到達目標との関連】 (1)-①, (2)-①,②,③,④, (3)-②,③</p>
C. 修得すべき能力	<p>1、臨床の最先端に携わる教員の話から現在学んでいる基礎医学の学習態度の向上を意識する。 2、自らが目指す医師像が臨床医としてかなっているか考える。</p>
D. 学習内容	臨床各科の教授による講義を行う。日常的に遭遇する専門分野のテーマや医師のキャリアプランなどに関して、医学生に対してわかり易く講義する。
E. 実習・課外授業	なし
F. 準備学習の内容	事前にシラバスの「講義テーマ」や「講義内容」を読み、関連書籍により関連事項についての情報を得ておくこと。 所要時間の目安：各コマ75分程度
G. 復習学習の内容	各講義内容で印象に残ったことを3項目以上記録すること。 所要時間の目安：各コマ75分程度
H. 成績評価の方法・基準	<p>1. 評価方法 授業出席状態と出席態度。 2. 判定基準 正当な理由がないかぎり、全出席を基本とする。</p>

I. 学習指導書

①教科書（学生が所持しなければならないもの）	なし
②参考書A（学生の所持をすすめるもの）	<p>なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>
③参考書B（図書館等での利用をすすめるもの）	<p>なし ※(R)：Remedial … 教科書の理解を助けるような補習的なもの (A)：Advanced … 教科書より進んだ学習のためのもの</p>

J. 講義予定表

「添付資料」参照

2026年度 2年 講義予定表

【保健・医療の現状と未来Ⅱ】

月日	曜	時限	講義テーマ	講義内容	担当	教科書	授業形態
4/22	水	4	運動器外科の現状と未来	脊椎、四肢の関節、筋肉、脳からの指令を伝達する脊髄・末梢神経を含めた全ての運動器に関する保存・外科治療により、QOL・ADLの改善を目的とする整形外科のおかれた現状と未来について皆さんにお伝えする。	細金直文	なし	講義
4/22	水	5	がんの臨床	がんとはどういう疾患なのか？、がんはなぜ起きるのか？、日本人におけるがん患者の罹患数や死亡数など、がんの予防と治療はどうか？、がんの告知、がん患者の生活のサポートなど、がんの臨床について。	長島文夫	なし	講義
5/8	金	1	社会のニーズに応える形成外科と美容外科	機能と形態の再建を担う形成外科は、人の生き方（≒QOL）に直結した治療を施す診療科である。医学の進歩とともにQOLの重要性が高まり、形成外科の果たす役割は一層拡大している。ここでは、ジェンダー治療から美容医療にいたるまで、形成外科の現状と将来像について概説する。	尾崎 峰	なし	講義
5/20	水	5	免疫寛容の破綻による自己免疫疾患	免疫系はウイルス・細菌などの外敵から身を守りつつ必要なものは身体に取り込んでいくために、自己と非自己を峻別しているが、多くの細胞から構築される非常に複雑なシステムである。自己に対する免疫寛容が破綻すると膠原病をはじめとする自己免疫疾患が発症するが、それらについて概説する。	駒形嘉紀	なし	講義
5/22	金	3	心臓血管外科の進歩と未来	人工心肺を用いた開心術が始まってから60年以上が経過し、現在ほぼ全ての心臓血管疾患に対する手術法が行われています。その進歩は急速かつ現在進行形で。皆さんが医師になる頃の循環器医療も予想してみたいと思います。	窪田博	なし	講義
5/27	水	5	現代医療における画像診断の役割	実臨床において画像診断の果たす役割は極めて大きく、さらに日々発展している。さまざまな画像診断の基礎について、装置の仕組みや発展の歴史を含め概説する。また画像診断装置を用い血管など体内の様子をみて治療を行う画像下治療についても述べる。	横山健一	なし	講義
5/29	金	3	歳をとるとは？	「歳をとる」とは何でしょうか？老化は年齢で決まるのでしょうか？歳をとることと病気の関係は？医師は何をすべきか、何ができるかについて考えてみましょう。	亀山祐美	なし	講義
6/3	水	3	肺とタバコについて	肺という臓器、そしてタバコの害とは？ 喫煙と健康について、喫煙者本人または副流煙として喫煙している周りの人（受動喫煙）にも関連する病気は多数みられる。タバコの社会全体に与える損失は大きいので医学生として把握しておく重大な知識を講義する。	石井晴之	なし	講義(AL)
6/3	水	5	消化器外科領域の低侵襲治療の現状	近年の基礎・臨床医学の進歩とともに外科学は変貌・発展しつつあるが、手術によって患者の健康を改善・維持するという目標は変わっていない。その一方で、手術内容は日々進化しており、その目標は「いかに低侵襲で患者の健康を改善・維持することができるか」が最大のポイントとなっている。最新の様々な低侵襲治療を紹介し、外科医療の素晴らしさを感じられる講義にしたい。	須並英二	なし	講義
6/12	金	3	ロボット手術について	腹腔鏡手術はロボット手術が主流になってきている。3Dによる立体的な視野と多関節による繊細な手技が特徴であり、外科領域に革命的な変化を及ぼしつつある。ロボット手術及び将来の手術法について紹介する。	福原浩	なし	講義
9/3	木	1	眼科診療とQOV	QOVはquality of visionの略でquality of life (QOL)とは異なります。眼科診療はQOVを向上させるためにどのように貢献しているか実臨床例から解説します。	井上真	なし	講義
9/10	木	2	WHOの考える"functioning"在宅医療から宇宙開発まで	"生活機能 (functioning) "とは、いわゆる"障害 (disability) "の対極にある概念です。人類が社会で活動し、社会に参加することを可能にするための医学を紹介いたします。Go for launch!	山田深	なし	講義